

5 川崎市ホームページからの情報提供について

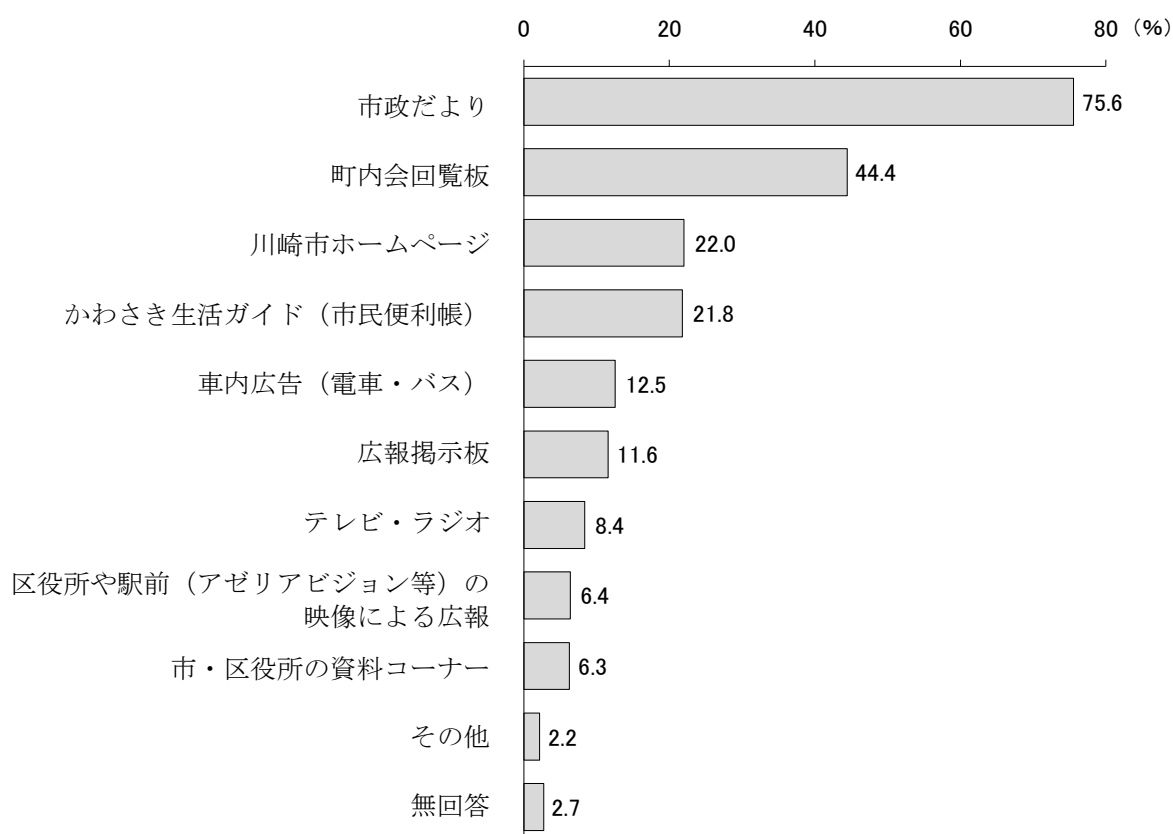
5-1 市からのお知らせや情報の入手手段

◎「市政だより」が75.6%

問12 あなたは、市からのお知らせや情報をどのような手段で入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

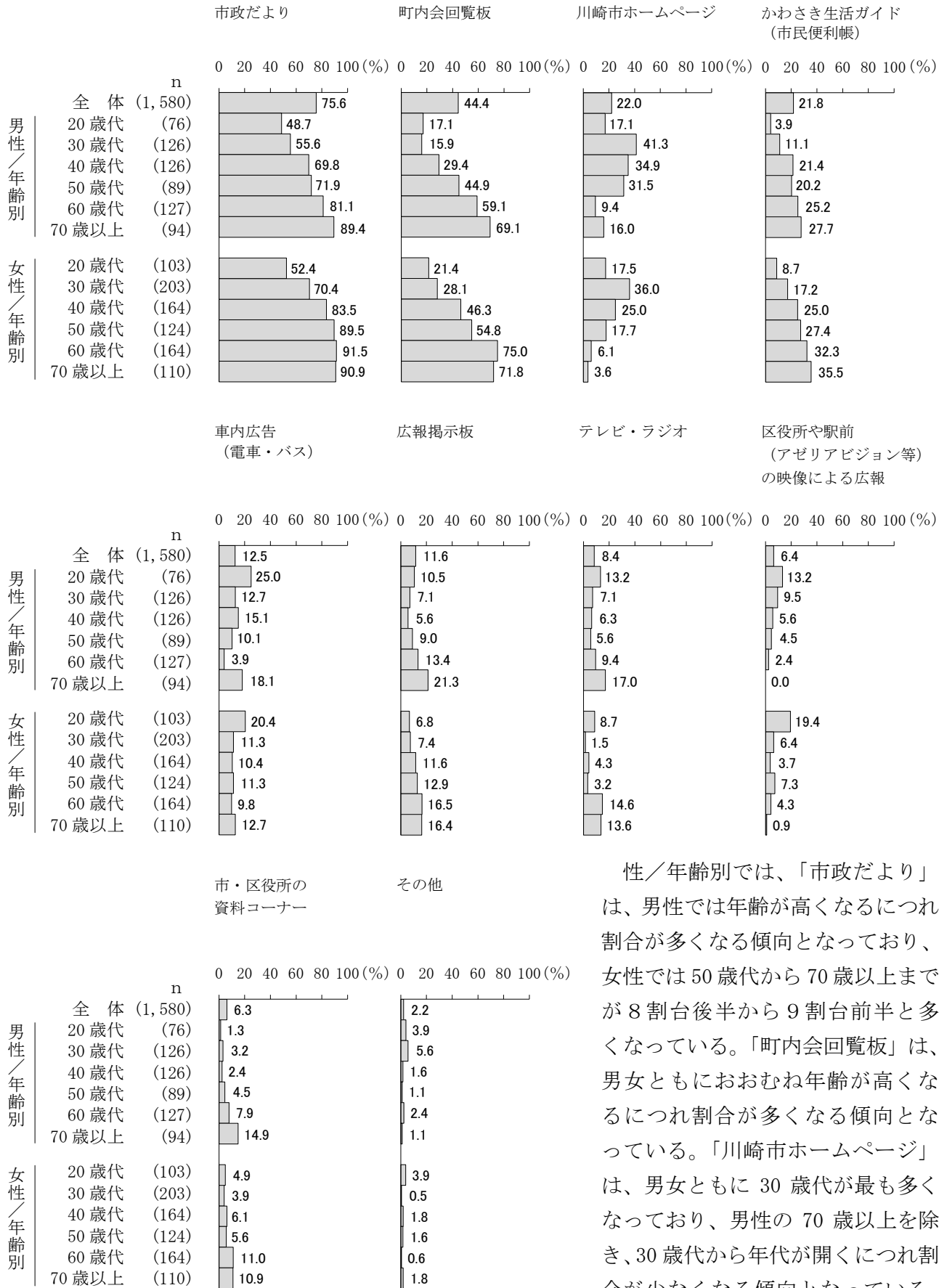
図表5-1 市からのお知らせや情報の入手手段

(複数回答) n = (1,580)



市からのお知らせや情報の入手手段は、「市政だより」が75.6%と最も多くなっている。次いで、「町内会回覧板」が44.4%、「川崎市ホームページ」が22.0%となっている。(図表5-1)

図表5-2 市からのお知らせや情報の入手手段(性/年齢別)



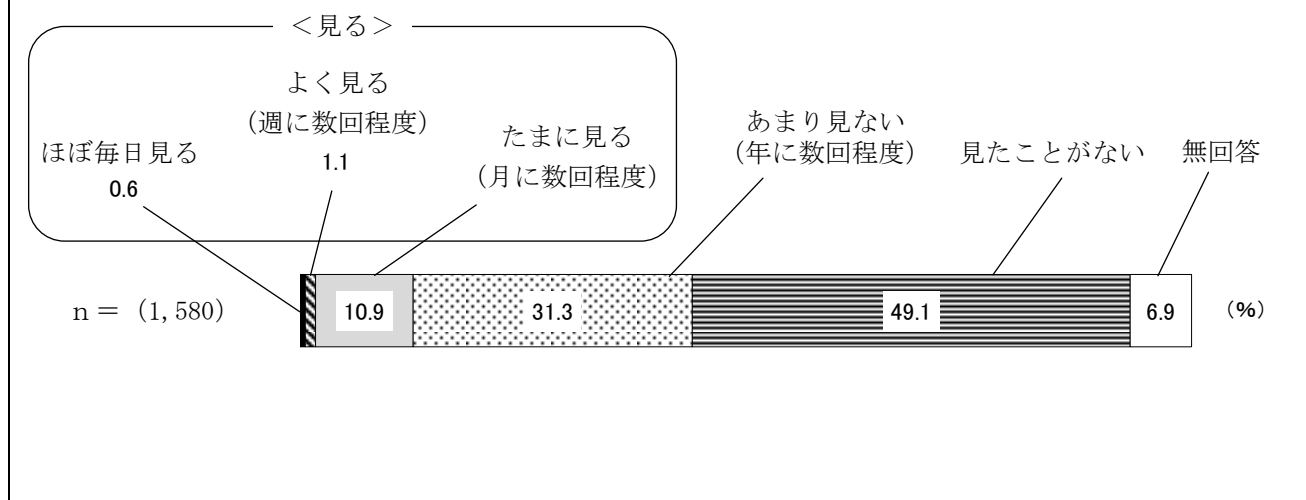
性/年齢別では、「市政だより」は、男性では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、女性では50歳代から70歳以上までが8割台後半から9割台前半と多くなっている。「町内会回覧板」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「川崎市ホームページ」は、男女ともに30歳代が最も多くなっており、男性の70歳以上を除き、30歳代から年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表5-2)

5-2 市のホームページの閲覧頻度

◎<見る>が12.6%

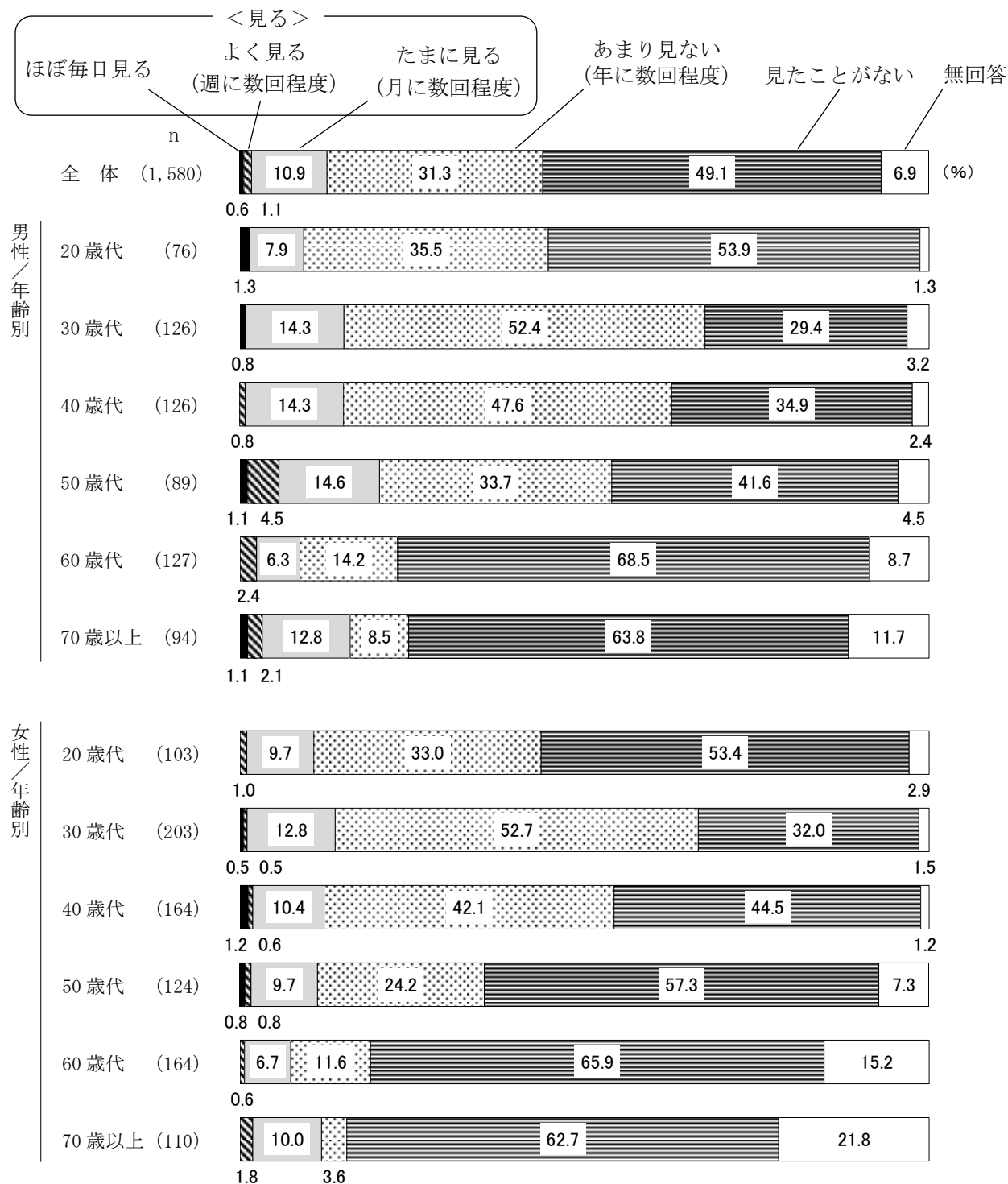
問13 あなたは、どの程度の頻度で市のホームページをご覧になりますか。(〇は1つだけ)

図表5-3 市のホームページの閲覧頻度



市のホームページの閲覧頻度は、「ほぼ毎日見る」の0.6%と「よく見る(週に数回程度)」の1.1%と「たまに見る(月に数回程度)」の10.9%をあわせて<見る>が12.6%となっている。一方、「見たことがない」は、49.1%となっている。(図表5-3)

図表5-4 市のホームページの閲覧頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、<見る>は、男性では20歳代から50歳代で年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、女性では30歳代から60歳代で年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。男女ともに60歳代が最も少なくなっているが、70歳以上では男性が16.0%、女性が11.8%と多くなっている。(図表5-4)

5-3 市のホームページの利用目的

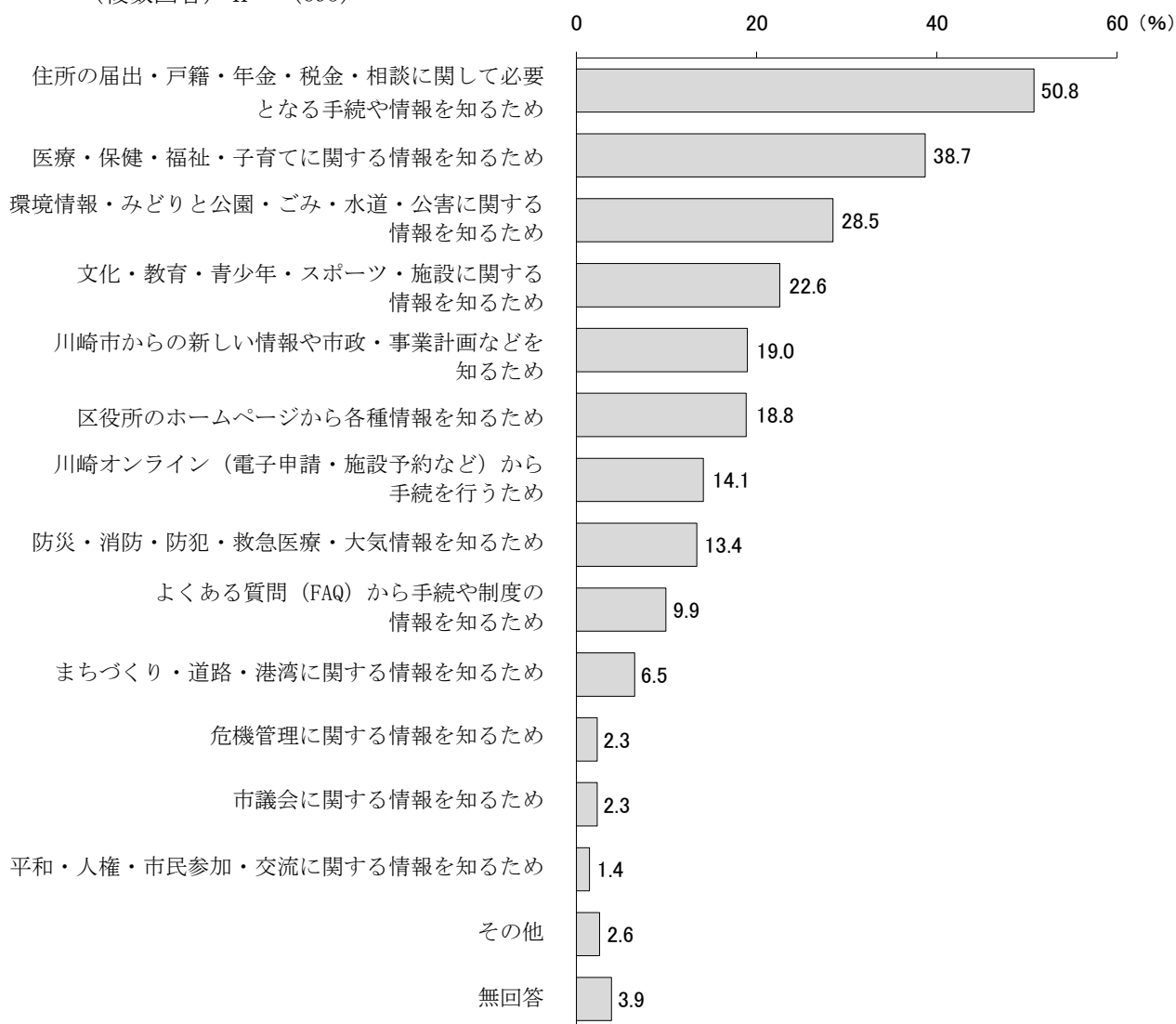
◎「住所の届出・戸籍・年金・税金・相談に関して必要となる手続や情報を知るため」が50.8%

(問13で「1 ほぼ毎日見る」「2 よく見る(週に数回程度)」「3 たまに見る(月に数回程度)」「4 あまり見ない(年に数回程度)」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問14 今までにどのような目的で市のホームページを利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

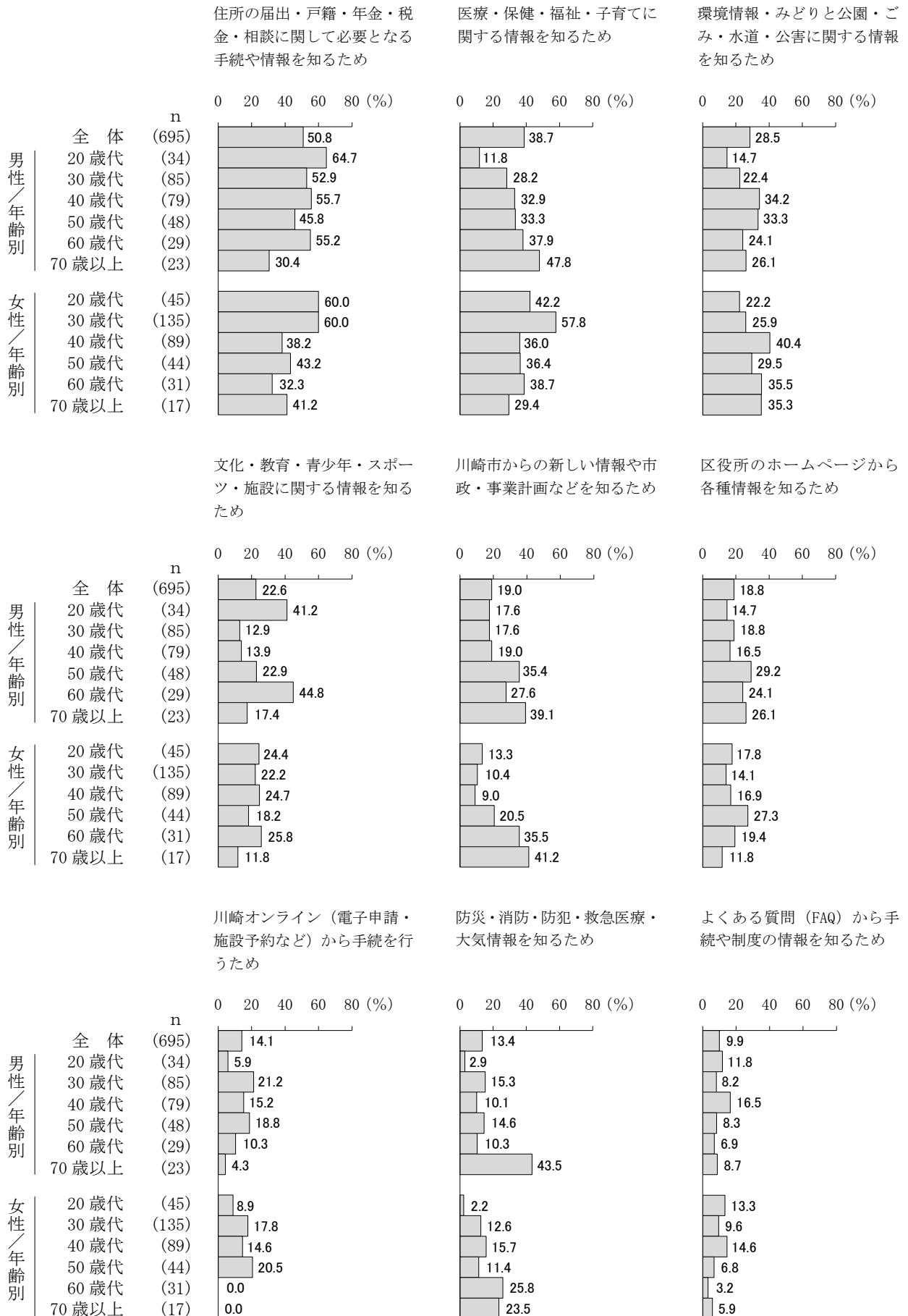
図表5-5 市のホームページの利用目的

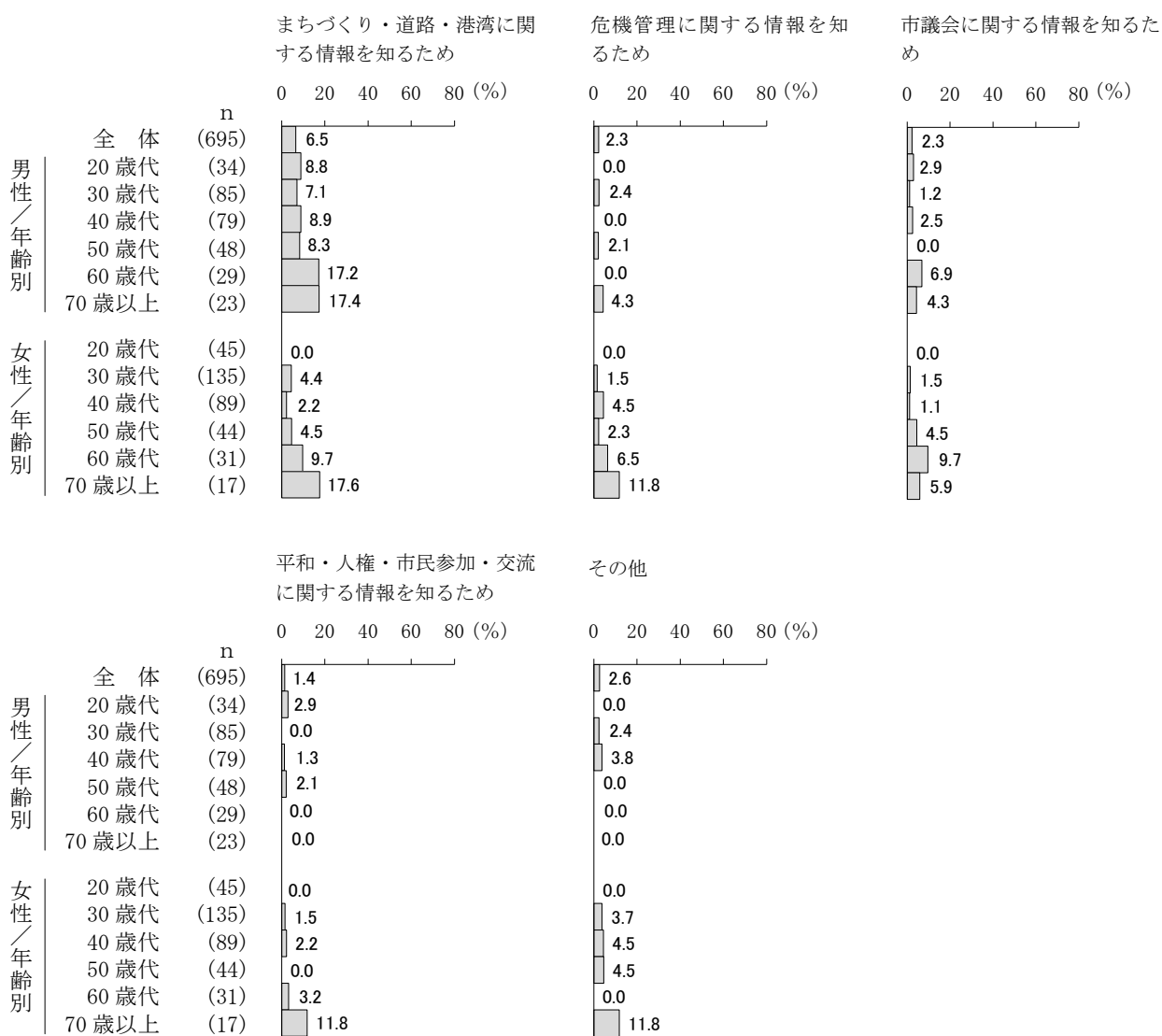
(複数回答) n = (695)



市のホームページの利用目的は、「住所の届出・戸籍・年金・税金・相談に関して必要となる手続や情報を知るため」が50.8%と最も多くなっている。次いで、「医療・保健・福祉・子育てに関する情報を知るため」が38.7%、「環境情報・みどりと公園・ごみ・水道・公害に関する情報を知るため」が28.5%となっている。(図表5-5)

図表5-6 市のホームページの利用目的(性/年齢別)





性／年齢別では、「住所の届出・戸籍・年金・税金・相談に関して必要となる手続や情報を知るため」は、男性では60歳代が55.2%だが、女性では32.3%と少なくなっている。「医療・保健・福祉・子育てに関する情報を知るため」は、男性では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、女性では30歳代が57.8%と最も多くなっている。男性では70歳以上が47.8%と最も多くなっているが、女性では29.4%と最も少なくなっている。「文化・教育・青少年・スポーツ・施設に関する情報を知るため」は、男性では60歳代が44.8%と最も多くなっている。次いで、20歳代の41.2%、50歳代の22.9%と続いている。女性では70歳以上が11.8%と最も少なくなっている。(図表5-6)

(第2回アンケート)

5-4 必要な情報を探した方法

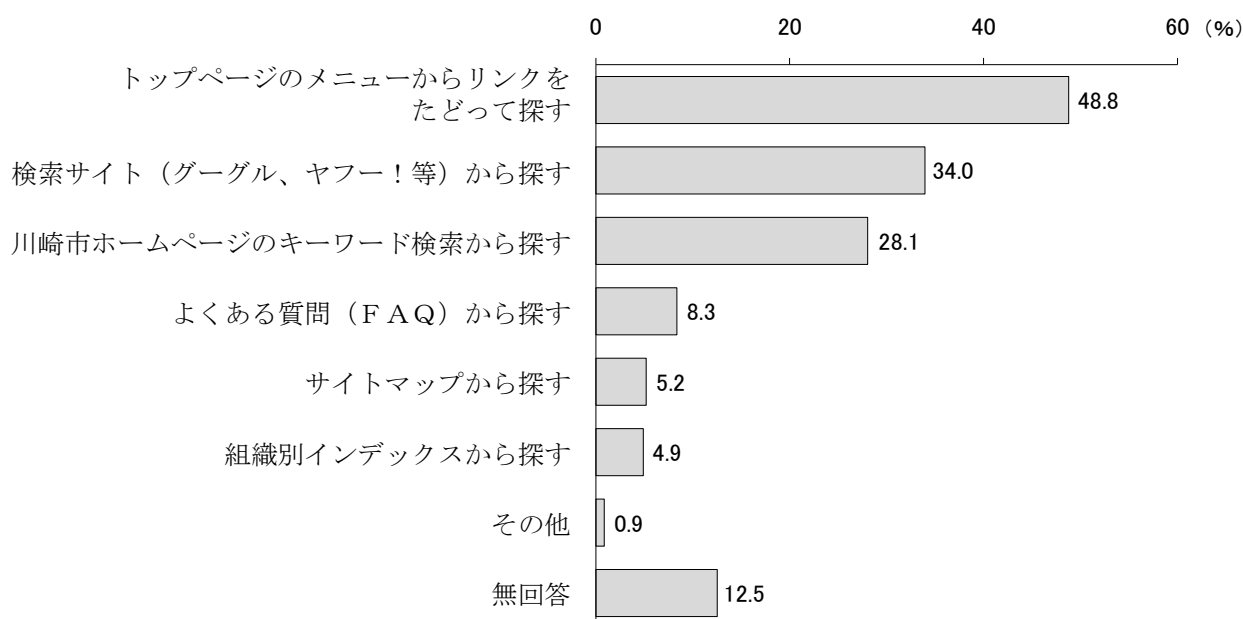
◎「トップページのメニューからリンクをたどって探す」が48.8%

(問13で「1 ほぼ毎日見る」「2 よく見る(週に数回程度)」「3 たまに見る(月に数回程度)」「4 あまり見ない(年に数回程度)」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問15 必要な情報をどのように探しましたか。(あてはまるものすべてに○)

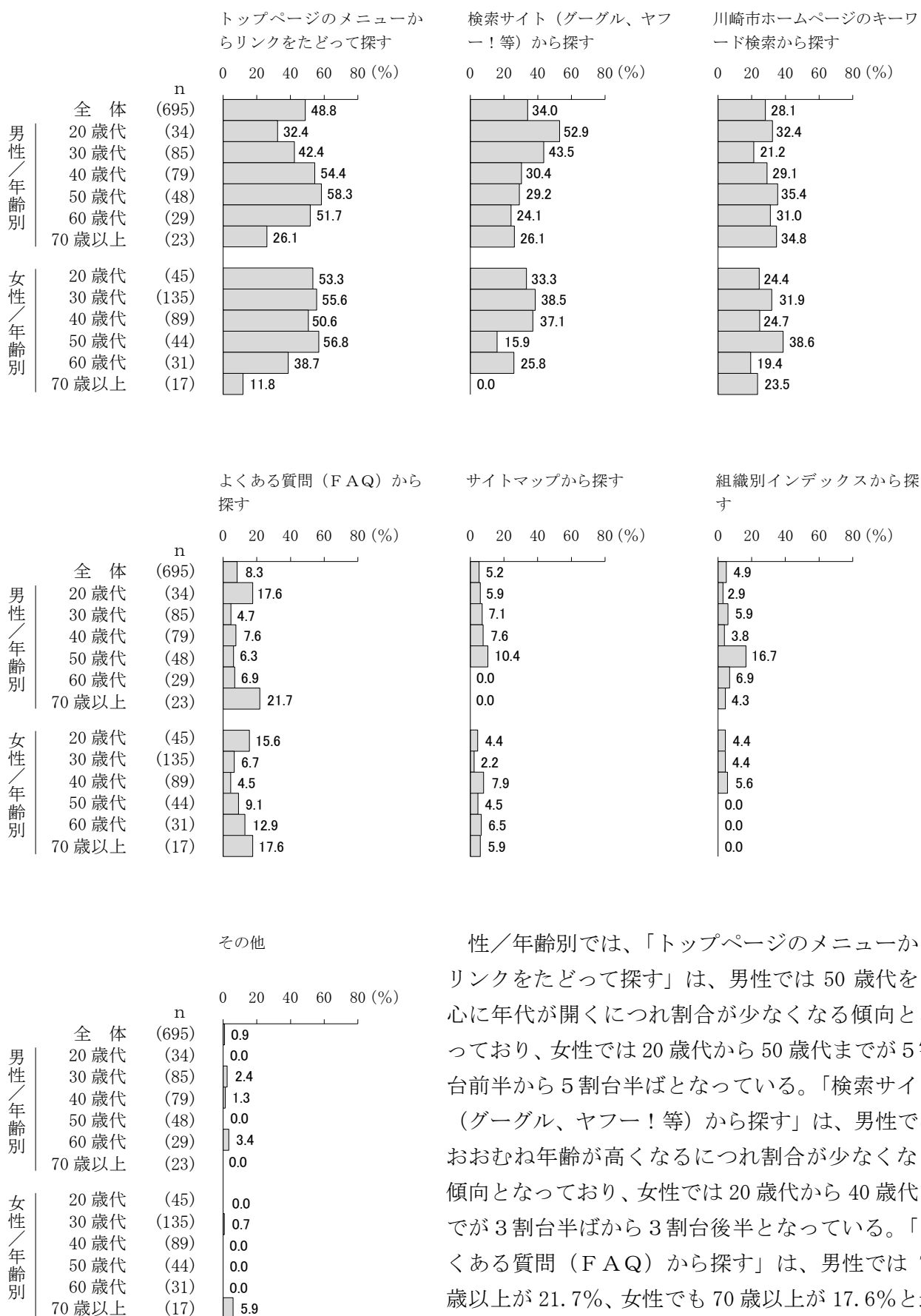
図表5-7 必要な情報を探した方法

(複数回答) n = (695)



必要な情報を探した方法は、「トップページのメニューからリンクをたどって探す」が48.8%と最も多くなっている。次いで、「検索サイト(グーグル、ヤフー!等)から探す」が34.0%、「川崎市ホームページのキーワード検索から探す」が28.1%となっている。(図表5-7)

図表5-8 必要な情報を探した方法(性/年齢別)



性/年齢別では、「トップページのメニューからリンクをたどって探す」は、男性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっており、女性では20歳代から50歳代までが5割前半から5割後半ばとなっている。「検索サイト(グーグル、ヤフー!等)から探す」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっており、女性では20歳代から40歳代までが3割後半から3割後半となっている。「よくある質問(FAQ)から探す」は、男性では70歳以上が21.7%、女性でも70歳以上が17.6%と最も多くなっている。(図表5-8)

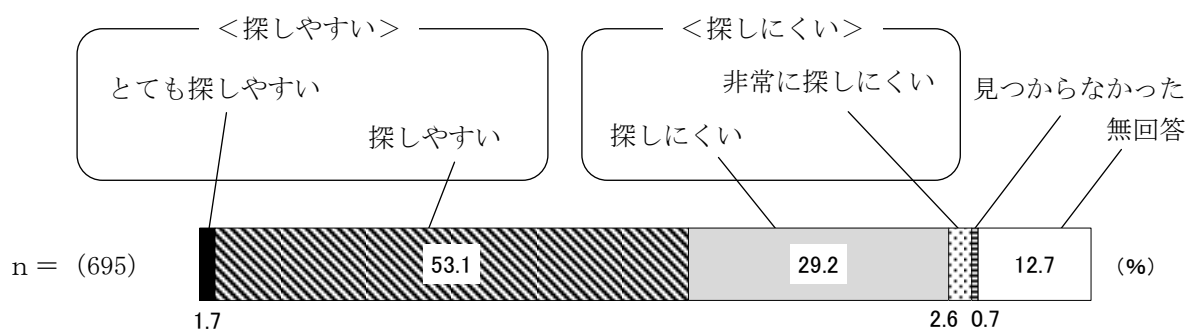
5-5 必要な情報は探しやすいか

◎<探しやすい>が54.8%

(問13で「1 ほぼ毎日見る」「2 よく見る(週に数回程度)」「3 たまに見る(月に数回程度)」「4 あまり見ない(年に数回程度)」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

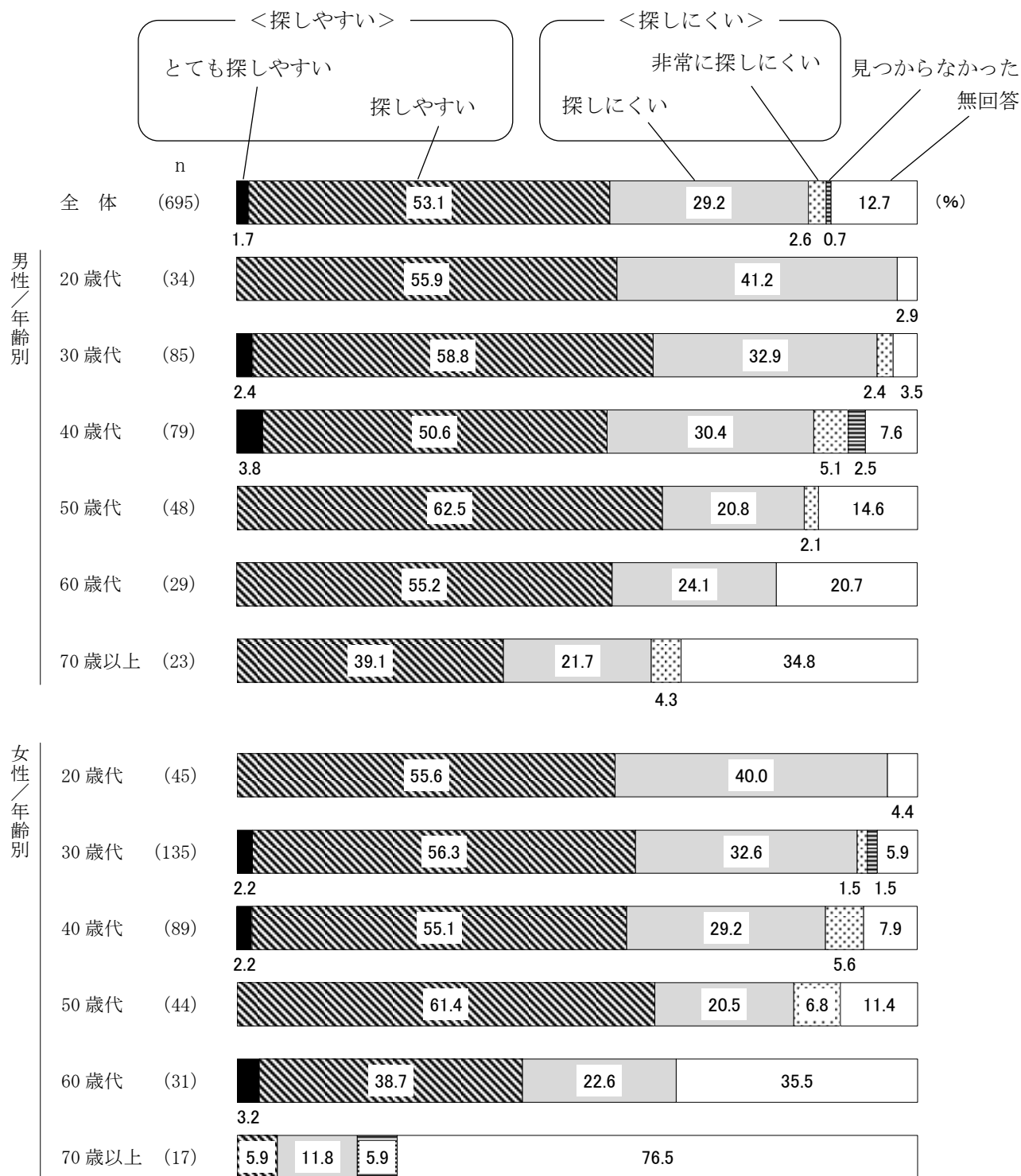
問16 必要な情報は探しやすいですか。「4 非常に探しにくい」「5 見つからなかった」を選択された場合、どのような情報を探していたか具体的にお書きください。(〇は1つだけ)

図表5-9 必要な情報は探しやすいか



必要な情報は探しやすいかについては、「とても探しやすい」の1.7%と「探しやすい」の53.1%をあわせた<探しやすい>が54.8%となっている。一方、「探しにくい」の29.2%と「非常に探しにくい」の2.6%をあわせた<探しにくい>は、31.8%となっている。(図表5-9)

図表5-10 必要な情報は探しやすかったか(性/年齢別)



性/年齢別では、<探しやすい>は、男性では20歳代から60歳代までが5割台半ばから6割台半ばとなっており、女性では20歳代から50歳代までが5割台半ばから6割台前半となっている。また、男女ともに50歳代が最も多くなっている。<探しにくい>は、男女ともに20歳代が最も多くなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表5-10)

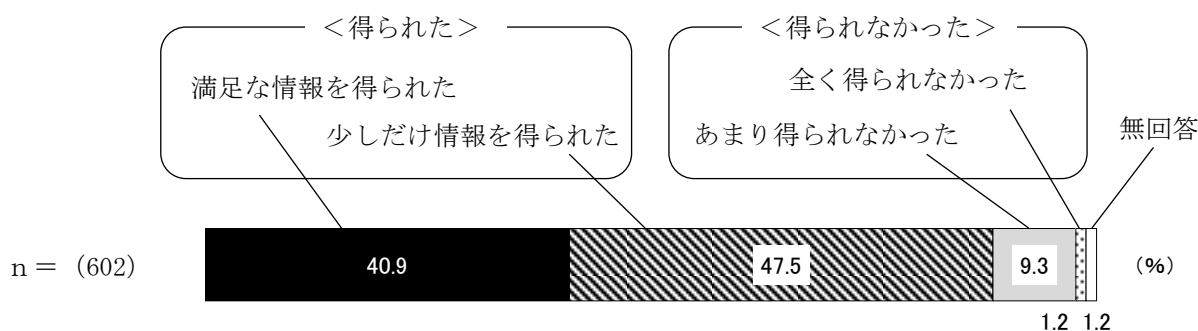
5-6 期待した情報は得られたか

◎<得られた>が88.4%

(問16で「1 とても探しやすい」「2 探しやすい」「3 探しにくい」「4 非常に探しにくい」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

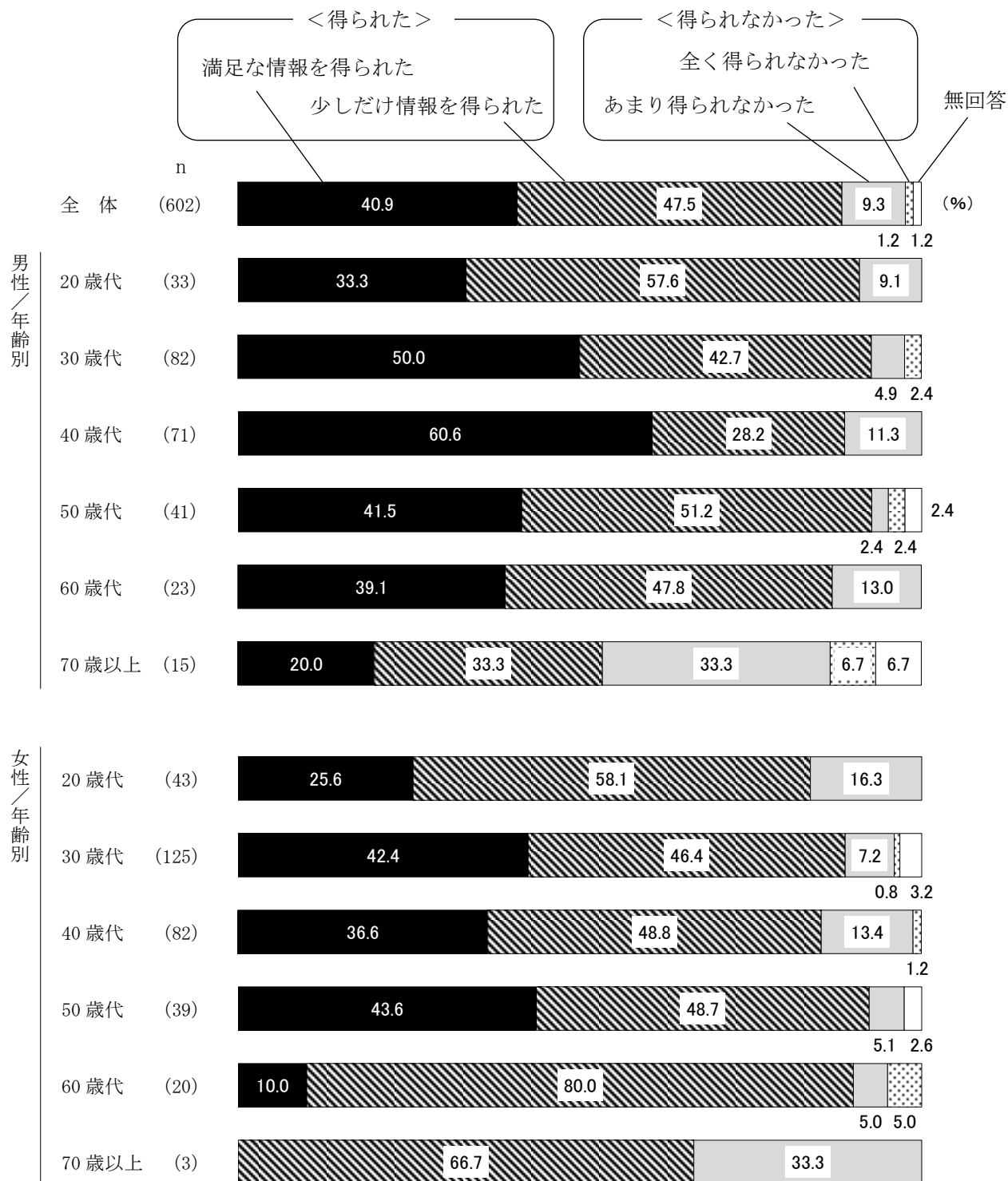
問17 期待した情報は得られましたか。(○は1つだけ)

図表5-11 期待した情報は得られたか



期待した情報は得られたかについては、「満足な情報を得られた」の40.9%と「少しだけ情報を得られた」の47.5%をあわせた<得られた>が88.4%となっている。一方、「あまり得られなかった」の9.3%と「全く得られなかった」の1.2%をあわせた<得られなかった>は、10.5%となっている。(図表5-11)

図表5-12 期待した情報は得られたか(性/年齢別)



性/年齢別では、<得られた>は、20歳代から60歳代までが男性では8割台半ばから9割台半ば、女性では8割台半ばから9割台前半となっている。<得られなかった>は、男女ともに20歳代から60歳代までが5分台から1割台半ばとなっているが、70歳以上では男性が40.0%、女性が33.3%と多くなっている。(図表5-12)

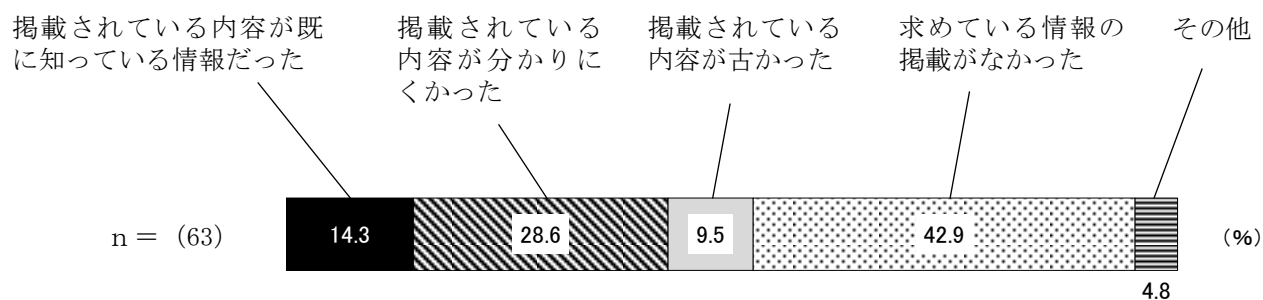
5-7 得られなかった理由

◎「求めている情報の掲載がなかった」が42.9%

(問17で「3 あまり得られなかった」「4 全く得られなかった」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

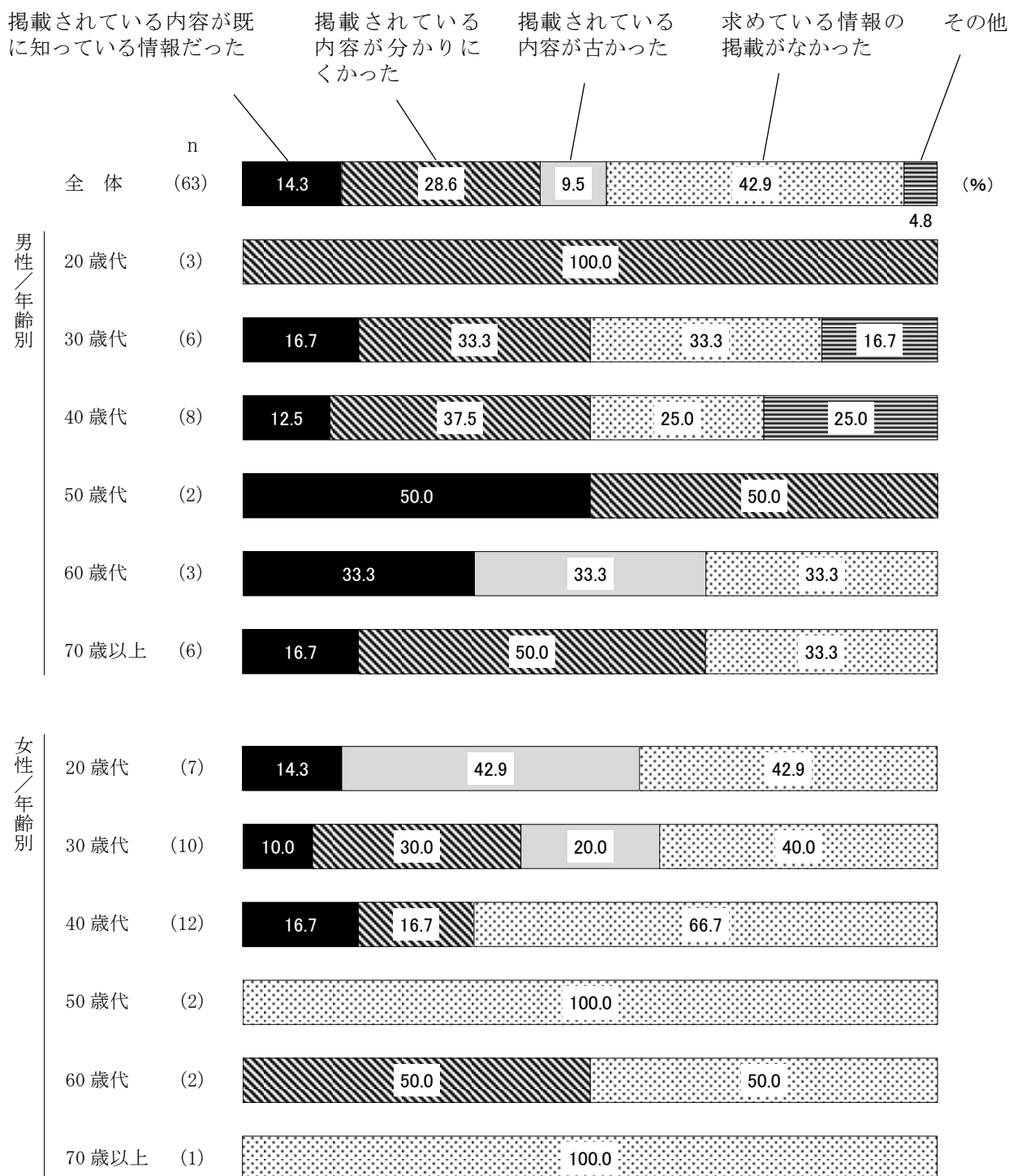
問18 得られなかった理由は何ですか。(○は1つだけ)

図表5-13 得られなかった理由



得られなかった理由は、「求めている情報の掲載がなかった」が42.9%、「掲載されている内容が分かりにくかった」が28.6%、「掲載されている内容が既に知っている情報だった」が14.3%、「掲載されている内容が古かった」が9.5%となっている。(図表5-13)

図表5-14 得られなかった理由(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表5-14)

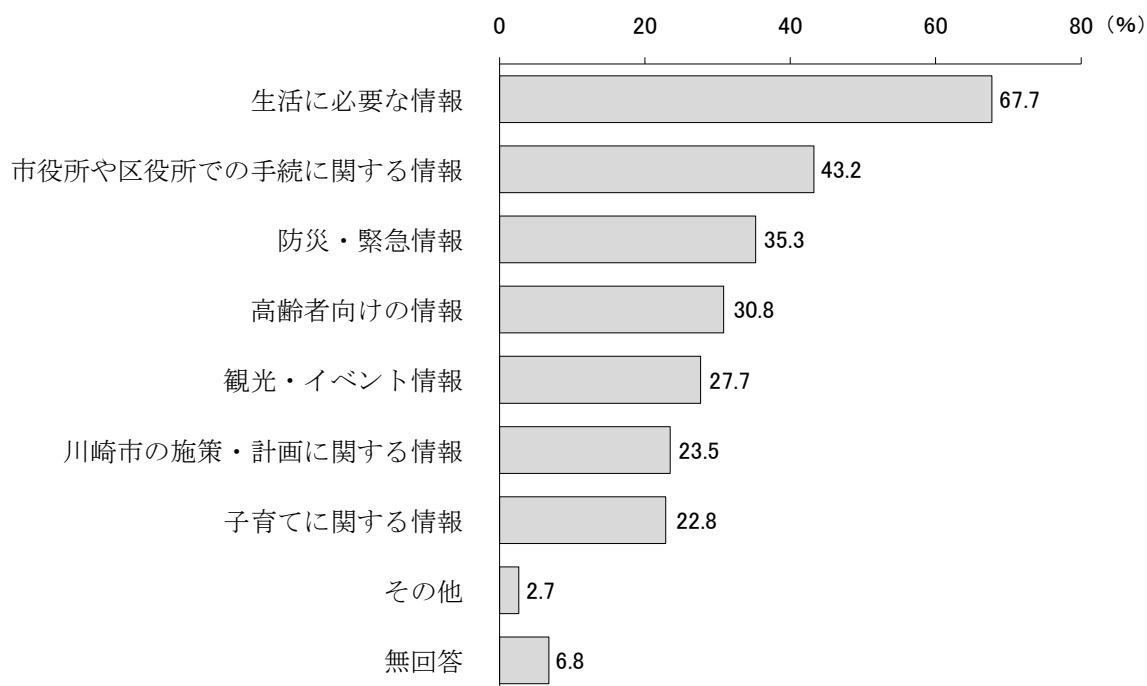
5-8 市からの情報で充実してほしいもの

◎「生活に必要な情報」が67.7%

問19 市からの情報で、充実してほしいものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

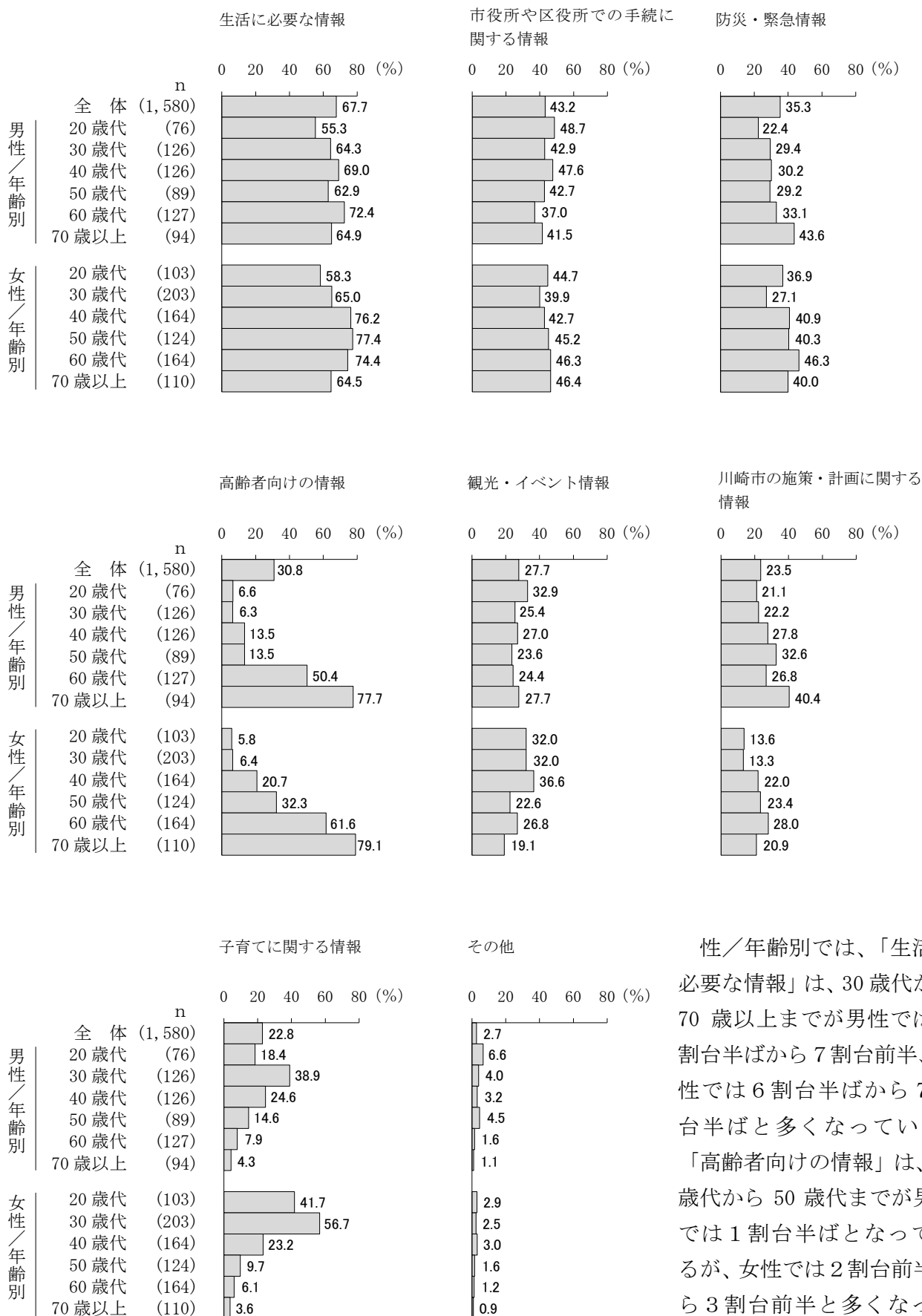
図表5-15 市からの情報で充実してほしいもの

(複数回答) n = (1,580)



市からの情報で充実してほしいものは、「生活に必要な情報」が67.7%と最も多くなっている。次いで、「市役所や区役所での手続に関する情報」が43.2%、「防災・緊急情報」が35.3%となっている。(図表5-15)

図表5-16 市からの情報で充実してほしいもの(性/年齢別)



性/年齢別では、「生活に必要な情報」は、30歳代から70歳以上までが男性では6割台半ばから7割台前半、女性では6割台半ばから7割台半ばと多くなっている。「高齢者向けの情報」は、40歳代から50歳代までが男性では1割台半ばとなっているが、女性では2割台前半から3割台前半と多くなっている。(図表5-16)

6 地域福祉について

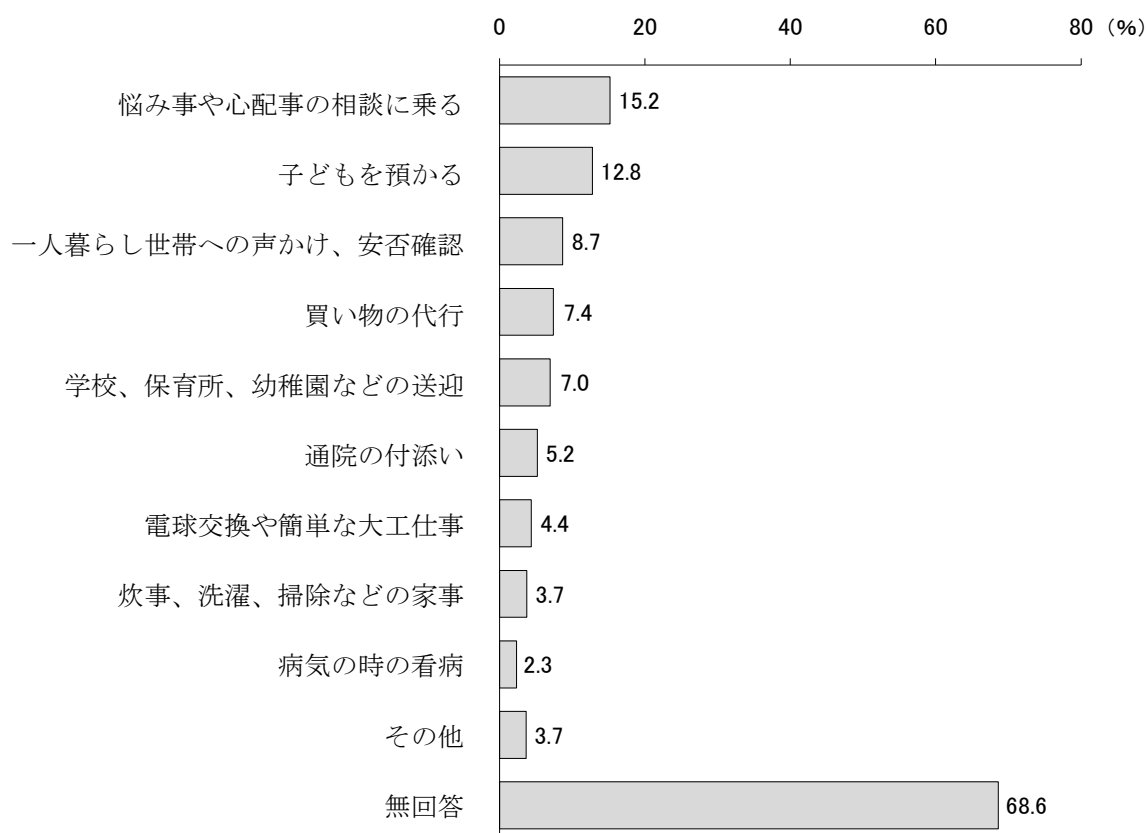
6-1 隣近所の人の手助け等をした経験・手助けしてもらいたいこと

◎手助け等をした経験は「悩み事や心配事の相談に乗る」が15.2%

問 20 あなたは、隣近所の人の手助け等をした経験はお持ちですか。また、手助けしてもらいたいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

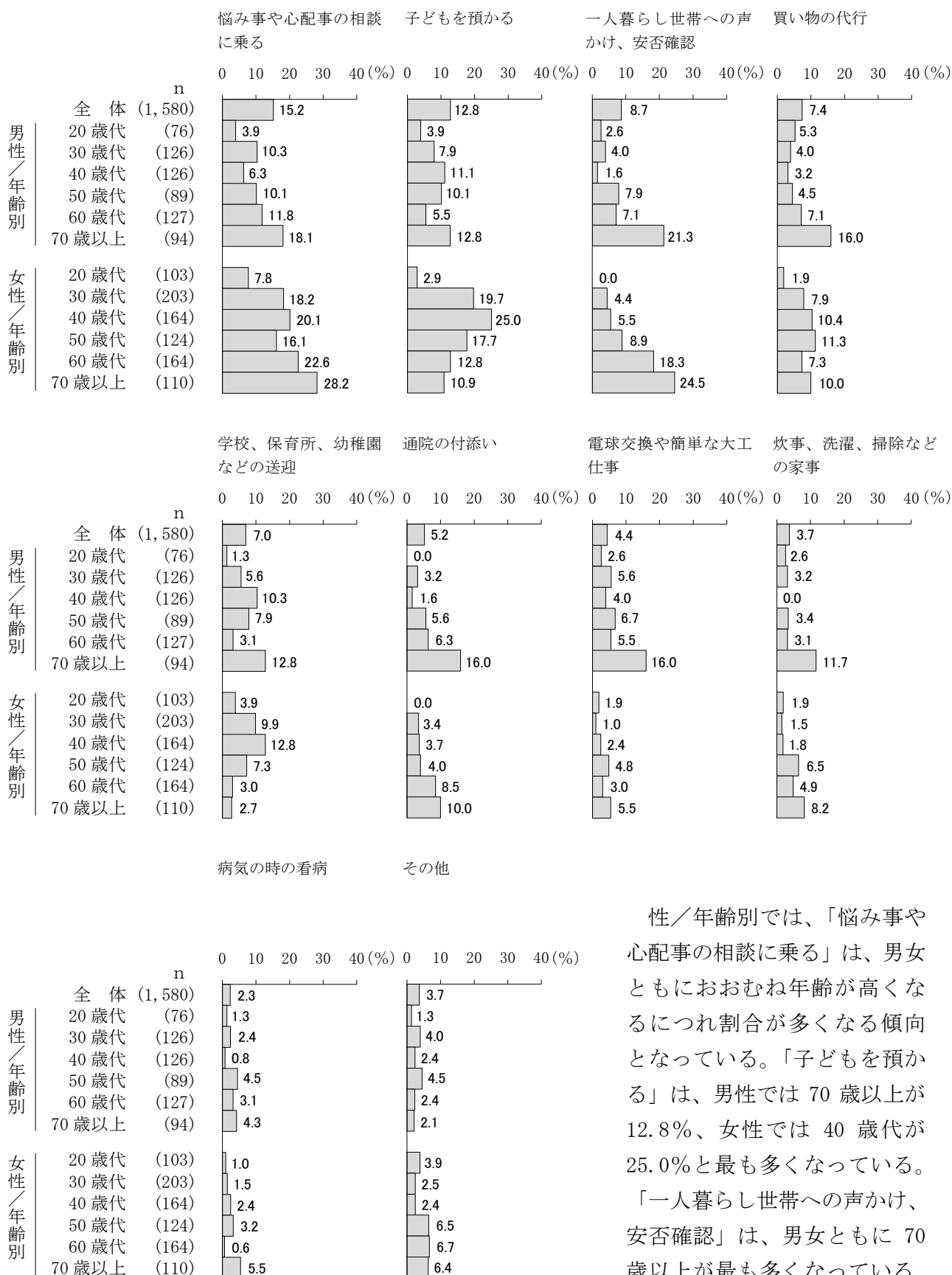
図表 6-1 隣近所の人の手助け等をした経験

(複数回答) n = (1,580)



隣近所の人の手助け等をした経験は、「悩み事や心配事の相談に乗る」が15.2%と最も多くなっている。次いで、「子どもを預かる」が12.8%、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」が8.7%となっている。(図表6-1)

図表6-2 隣近所の人の手助け等をした経験(性/年齢別)



性/年齢別では、「悩み事や心配事の相談に乗る」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「子どもを預かる」は、男性では70歳以上が12.8%、女性では40歳代が25.0%と最も多くなっている。「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表6-2)

◎手助けしてもらいたいことは「子どもを預かる」が11.9%

問 20 あなたは、隣近所の人の手助け等をした経験はお持ちですか。また、手助けしてもらいたいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

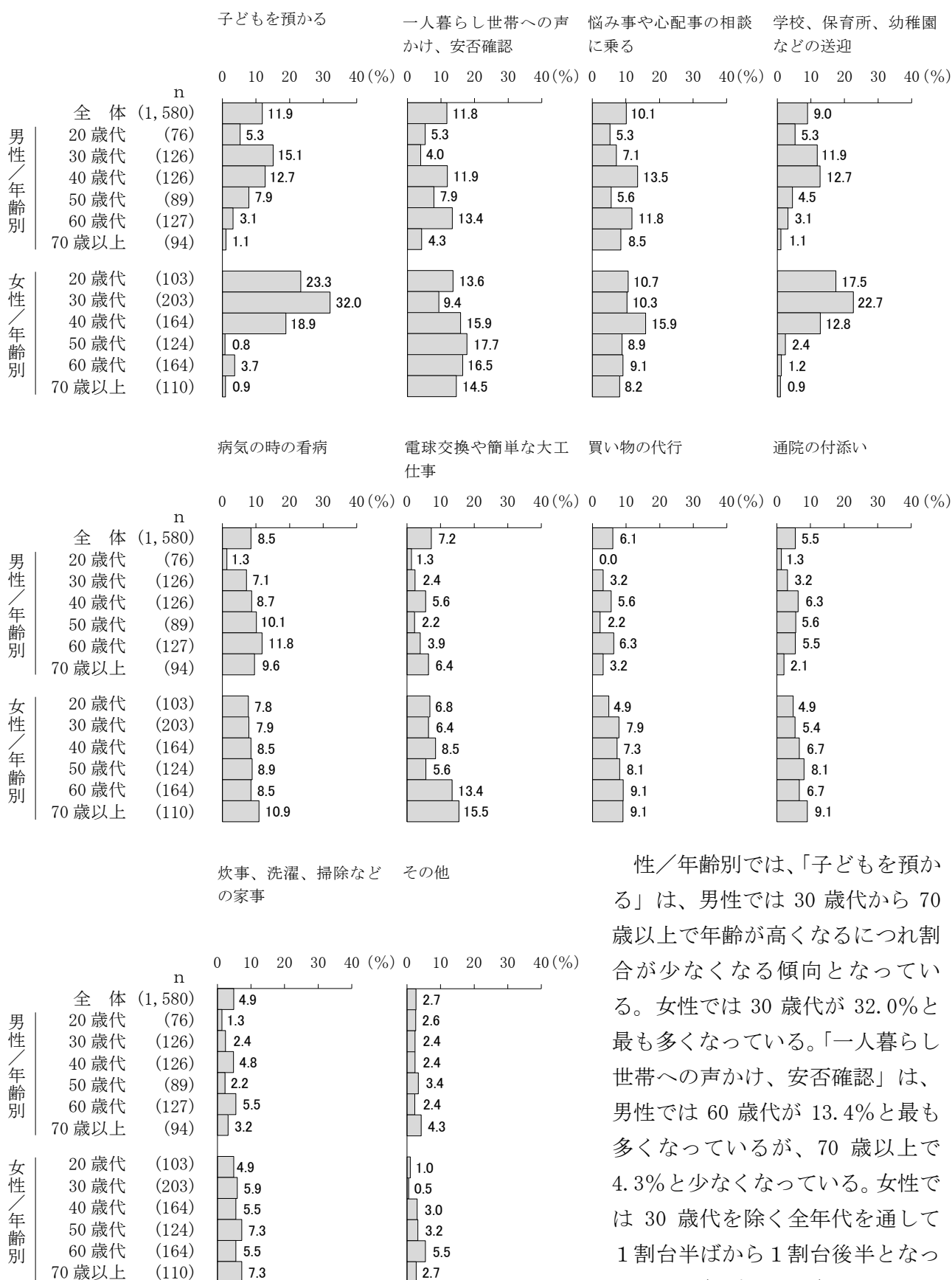
図表 6-3 隣近所の人に手助けしてもらいたいこと

(複数回答) n = (1,580)



隣近所の人に手助けしてもらいたいことは、「子どもを預かる」が 11.9%と最も多くなっている。次いで、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」が 11.8%、「悩み事や心配事の相談に乗る」が 10.1%となっている。(図表 6-3)

図表6-4 隣近所の人に手助けしてもらいたいこと(性/年齢別)



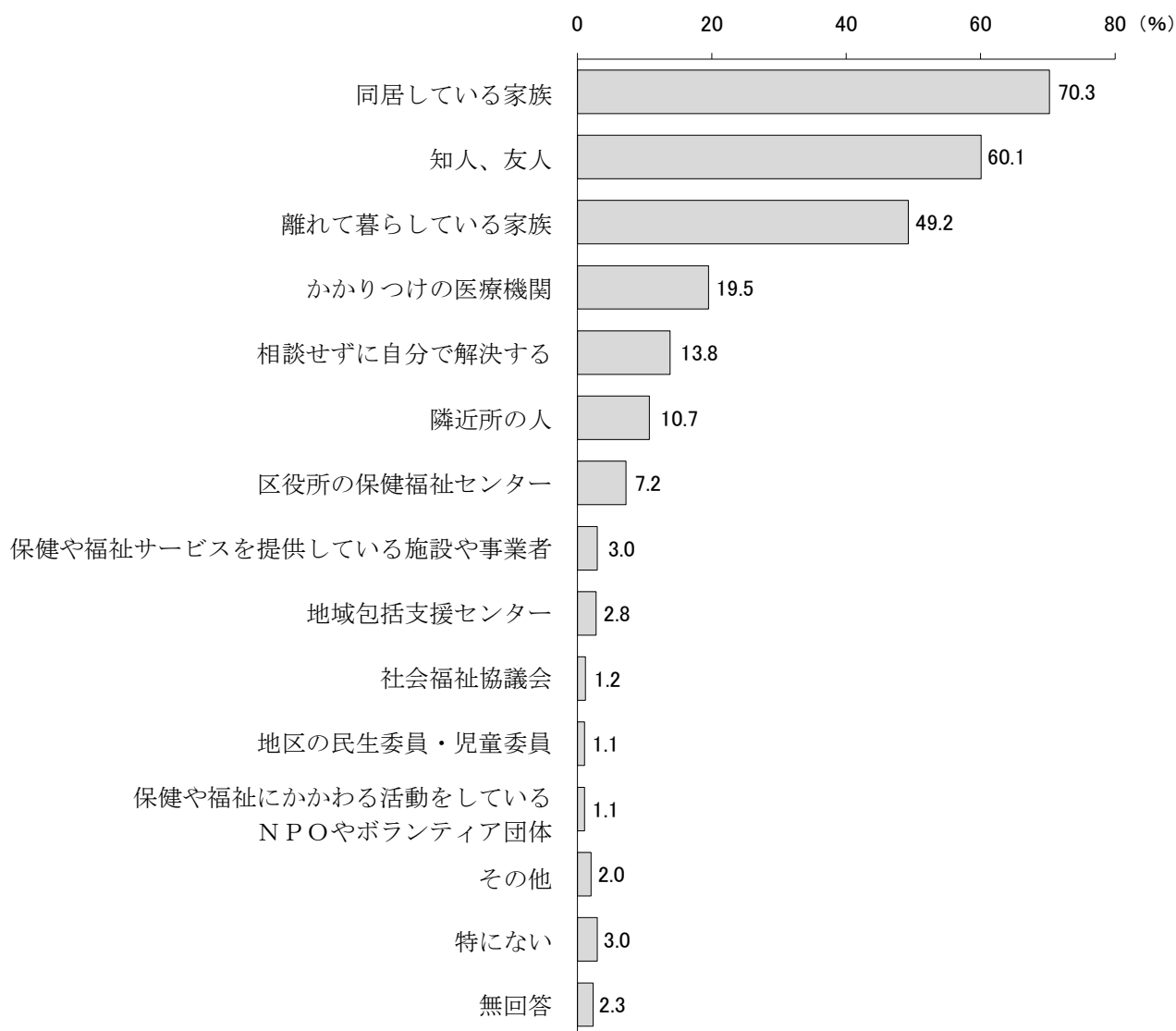
6-2 心配なことが起きたときの相談先

◎「同居している家族」が70.3%

問21 あなたが日々の生活をする上で、心配なことが起きたときの相談先はどこですか。
(あてはまるものすべてに○)

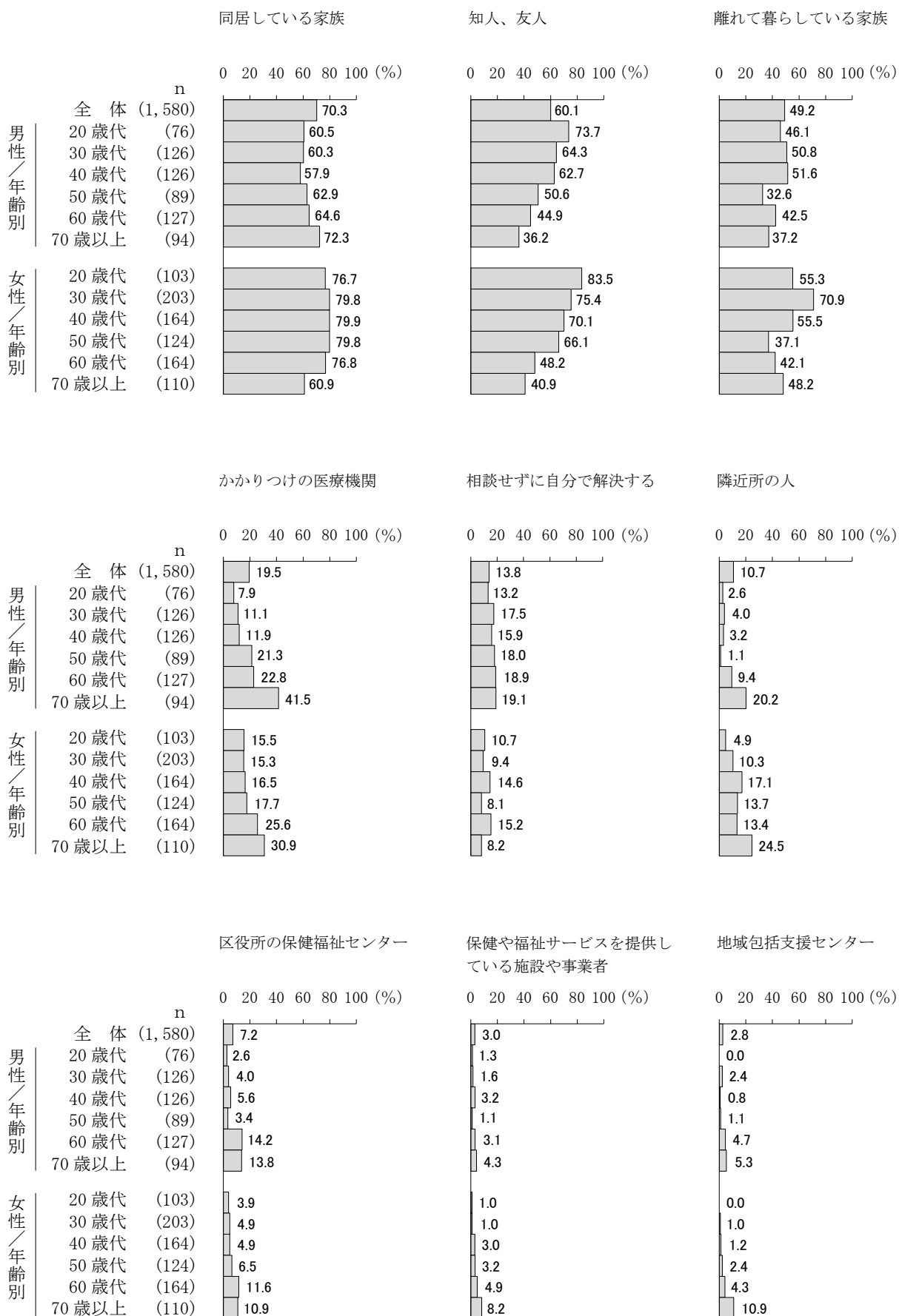
図表6-5 心配なことが起きたときの相談先

(複数回答) n = (1,580)

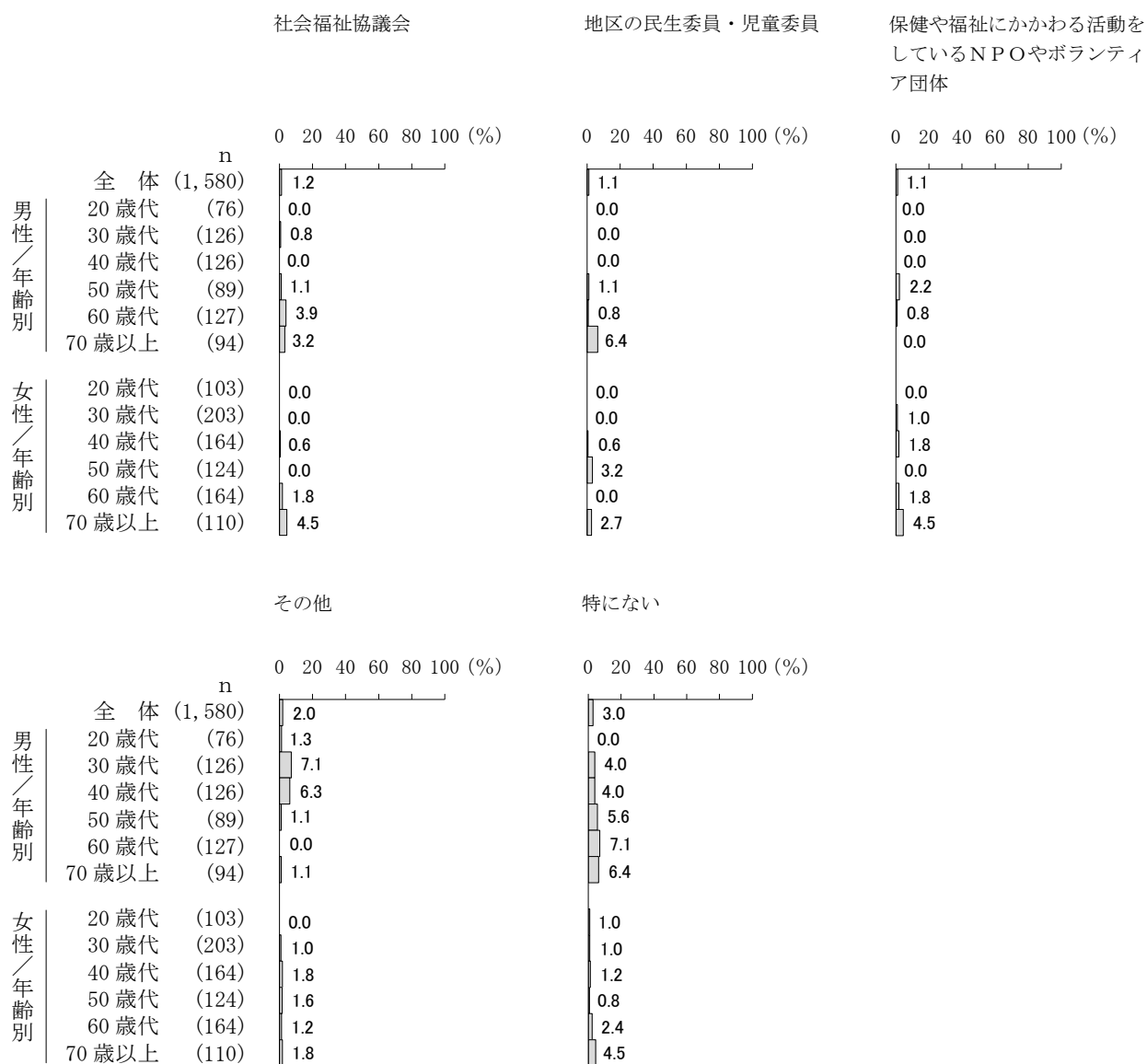


心配なことが起きたときの相談先は、「同居している家族」が70.3%と最も多くなっている。次いで、「知人、友人」が60.1%、「離れて暮らしている家族」が49.2%となっている。(図表6-5)

図表6-6 心配なことが起きたときの相談先(性/年齢別)



(第2回アンケート)



性／年齢別では、「同居している家族」は、男性では40歳代から70歳以上で年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では20歳代から60歳代までが7割台半ばから7割台後半となっているが、70歳以上で6割台前半と少なくなっている。「知人、友人」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「離れて暮らしている家族」は、男性では20歳代から40歳代までが4割台半ばから5割台前半となっている。女性では30歳代が70.9%と最も多くなっており、20歳代と40歳代が5割台半ばとなっている。「かかりつけの医療機関」と「隣近所の人」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表6-6)

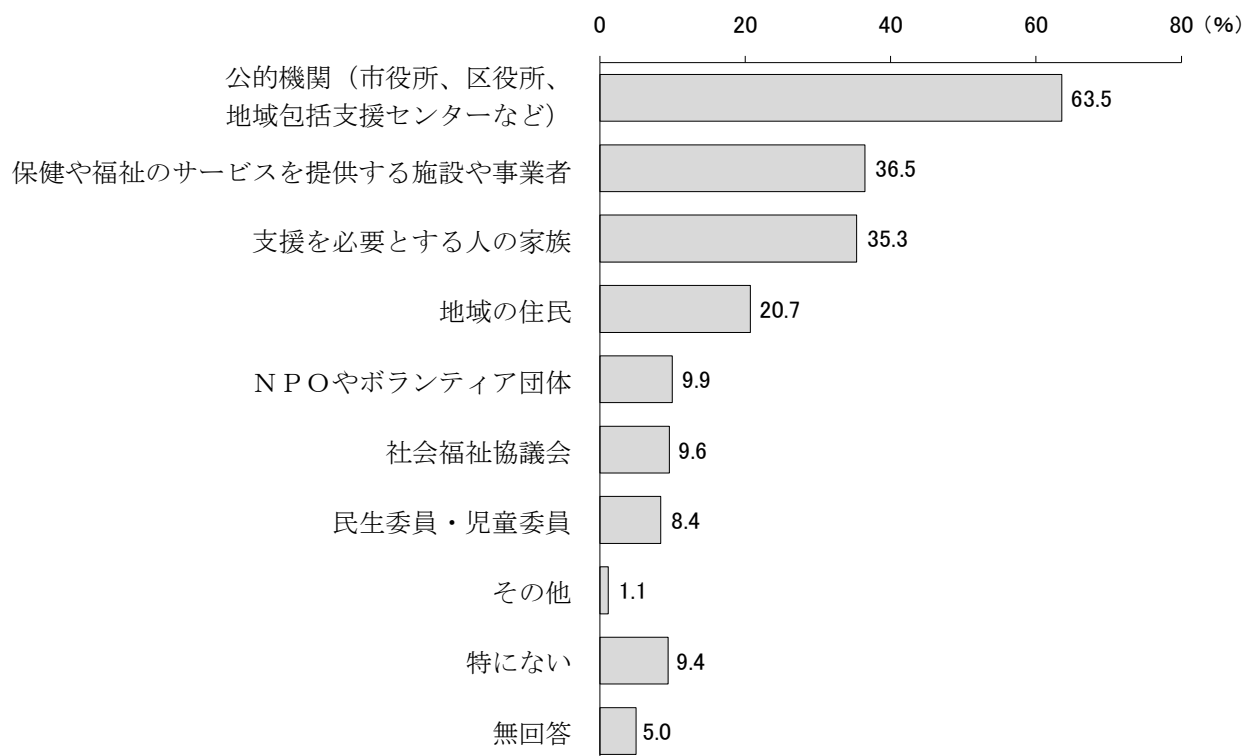
6-3 今後必要な支援を行うべき担い手について

◎「公的機関（市役所、区役所、地域包括支援センターなど）」が63.5%

問22 あなたが日々の生活をする上で、今後必要な支援を行うべき担い手はどこだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

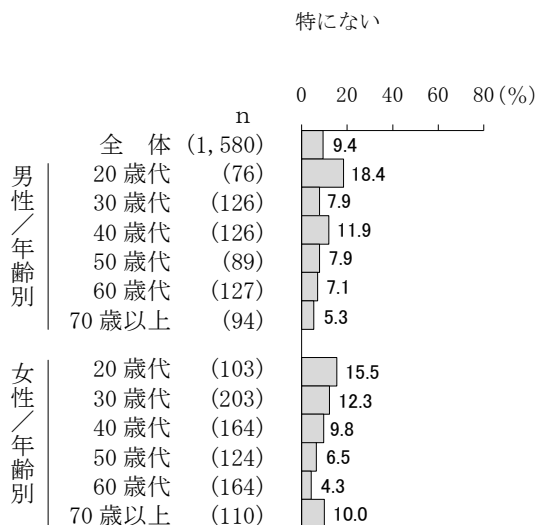
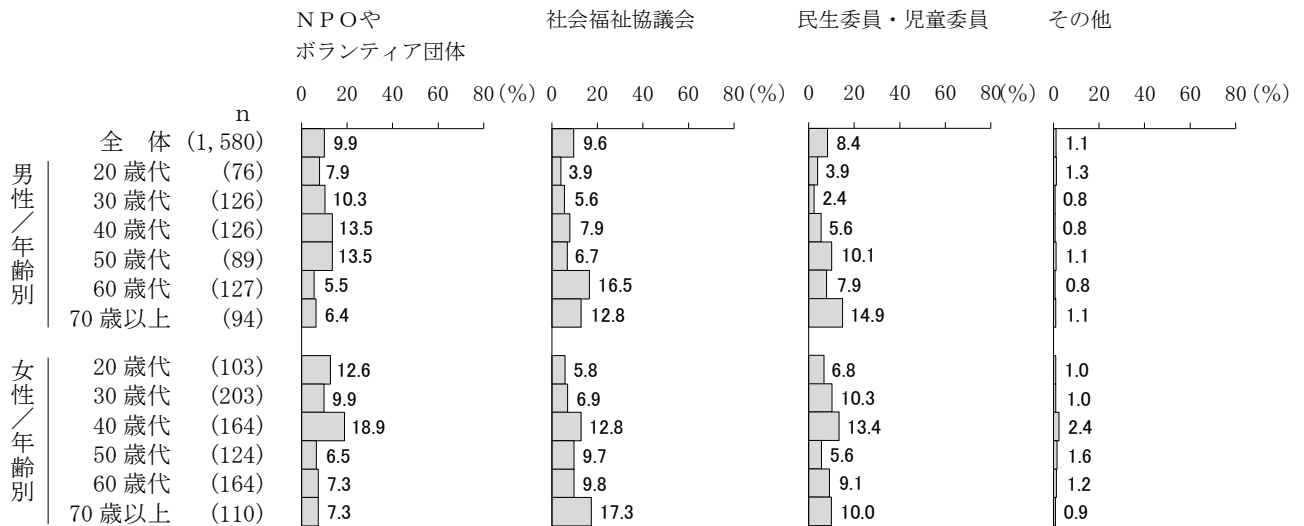
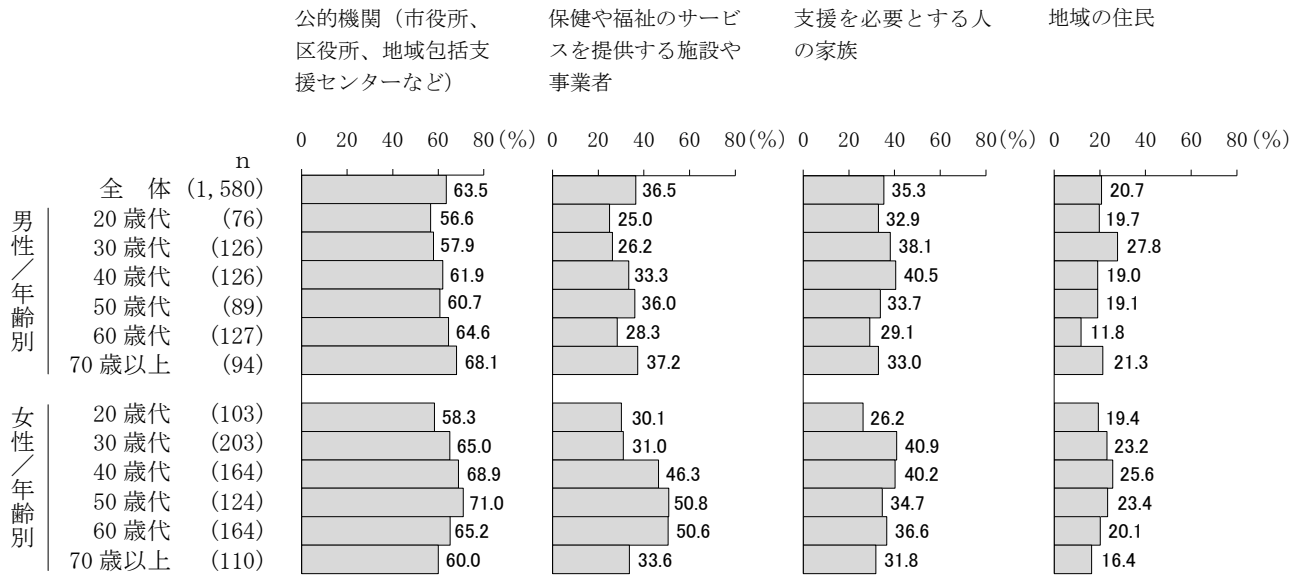
図表6-7 今後必要な支援を行うべき担い手について

(複数回答) n = (1,580)



今後必要な支援を行うべき担い手については、「公的機関（市役所、区役所、地域包括支援センターなど）」が63.5%と最も多くなっている。次いで、「保健や福祉のサービスを提供する施設や事業者」が36.5%、「支援を必要とする人の家族」が35.3%となっている。（図表6-7）

図表6-8 今後必要な支援を行うべき担い手について(性/年齢別)



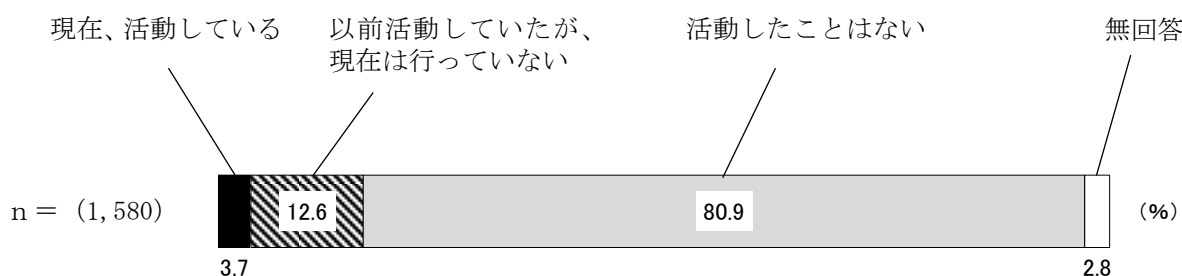
性/年齢別では、「公的機関(市役所、区役所、地域包括支援センターなど)」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「保健や福祉のサービスを提供する施設や事業者」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では20歳代から60歳代でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、70歳以上で33.6%と少なくなっている。「支援を必要とする人の家族」は、男性では40歳代が40.5%と最も多くなっている。女性では30歳代から70歳以上でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表6-8)

6-4 保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験

◎「活動したことはない」が80.9%

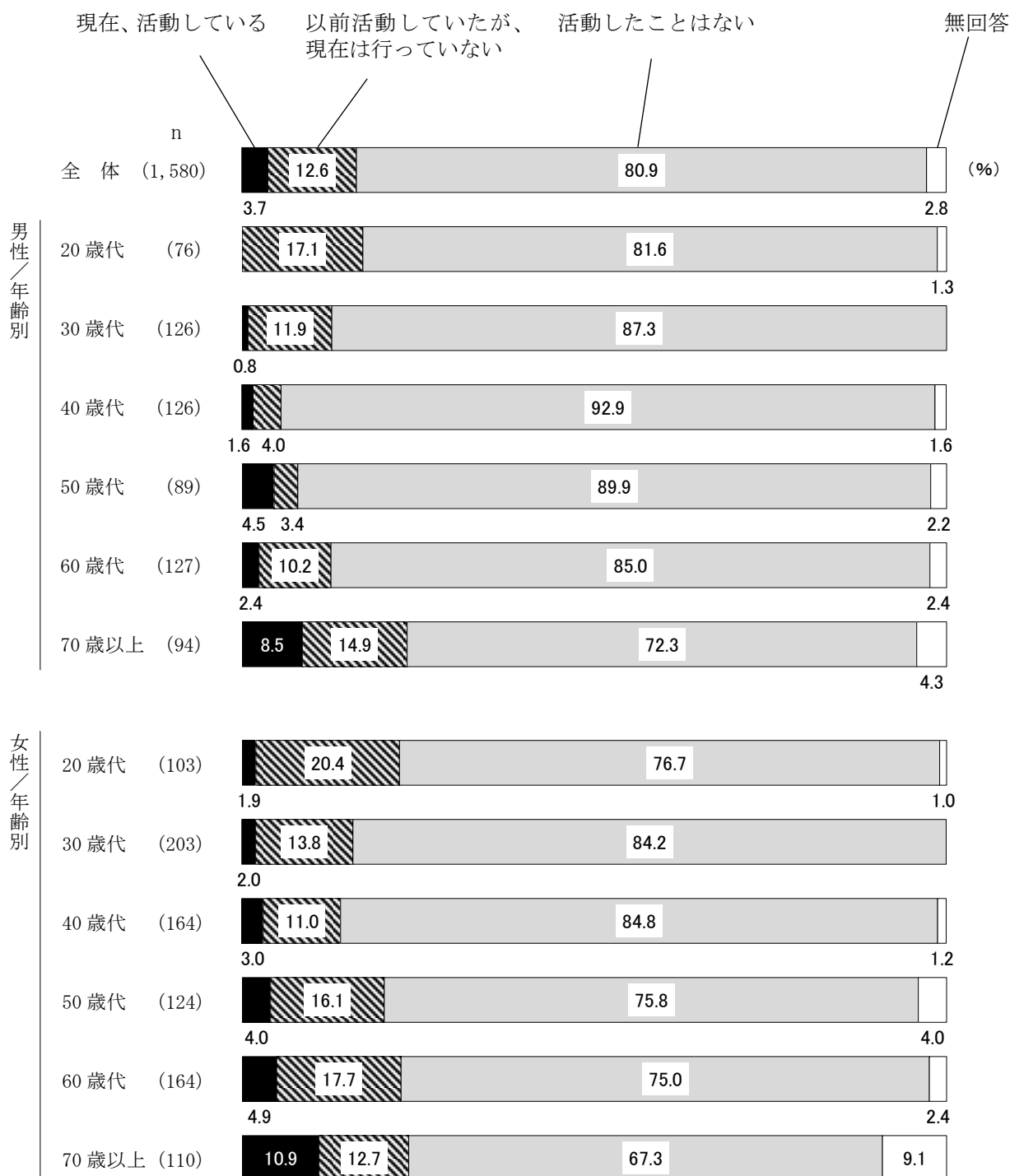
問23 あなたは、健康づくりや、福祉施設におけるお手伝いなど、保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験がありますか。(○は1つだけ)

図表6-9 保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験



保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験については、「活動したことはない」が80.9%、「以前活動していたが、現在は行っていない」が12.6%、「現在、活動している」が3.7%となっている。(図表6-9)

図表6-10 保健や福祉に関するボランティアについて活動した経験(性/年齢別)



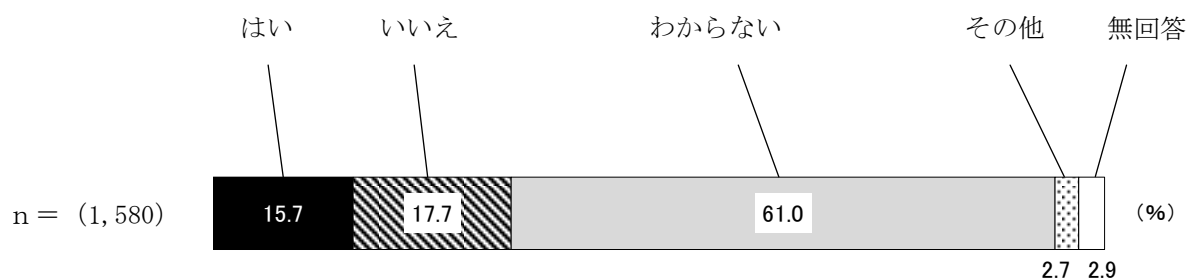
性/年齢別では、「現在、活動している」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。「以前活動していたが、現在は行っていない」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。「活動したことはない」は、男性では40歳代が92.9%と最も多くなっている。次いで、50歳代の89.9%、30歳代の87.3%と続いている。女性では、40歳代が84.8%と最も多くなっている。次いで、30歳代の84.2%、20歳代の76.7%と続いている。(図表6-10)

6-5 「介護支援ボランティア・ポイント制度」のボランティアとして活動に参加するか

◎「はい」が15.7%

問24 あなたは、「介護支援ボランティア・ポイント制度」を導入した場合、この制度のボランティアとして活動に参加しますか。(○は1つだけ)

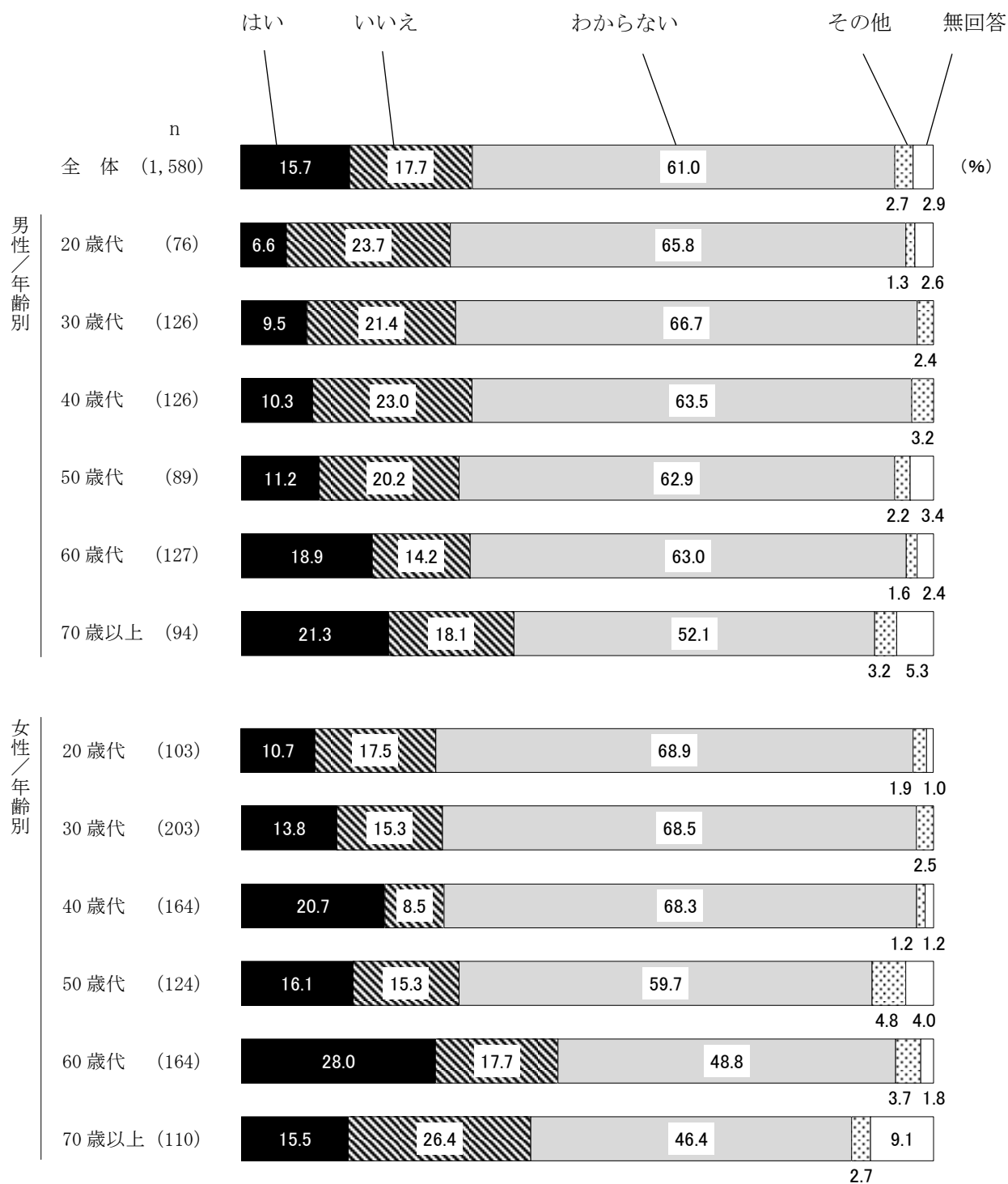
図表6-11 「介護支援ボランティア・ポイント制度」のボランティアとして活動に参加するか



「介護支援ボランティア・ポイント制度」のボランティアとして活動に参加するかについては、「はい」が15.7%、「いいえ」が17.7%、「わからない」が61.0%となっている。(図表6-11)

(第2回アンケート)

図表6-12 「介護支援ボランティア・ポイント制度」のボランティアとして活動に参加するか(性/年齢別)



性/年齢別では、「はい」は、男性では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では20歳代から60歳代でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、70歳以上で15.5%と少なくなっている。「いいえ」は、男性では、20歳代が23.7%と最も多くなっている。次いで、40歳代の23.0%、30歳代の21.4%と続いている。女性では、70歳以上が26.4%と最も多くなっている。次いで、60歳代の17.7%、20歳代の17.5%と続いている。(図表6-12)

7 住宅防火対策について

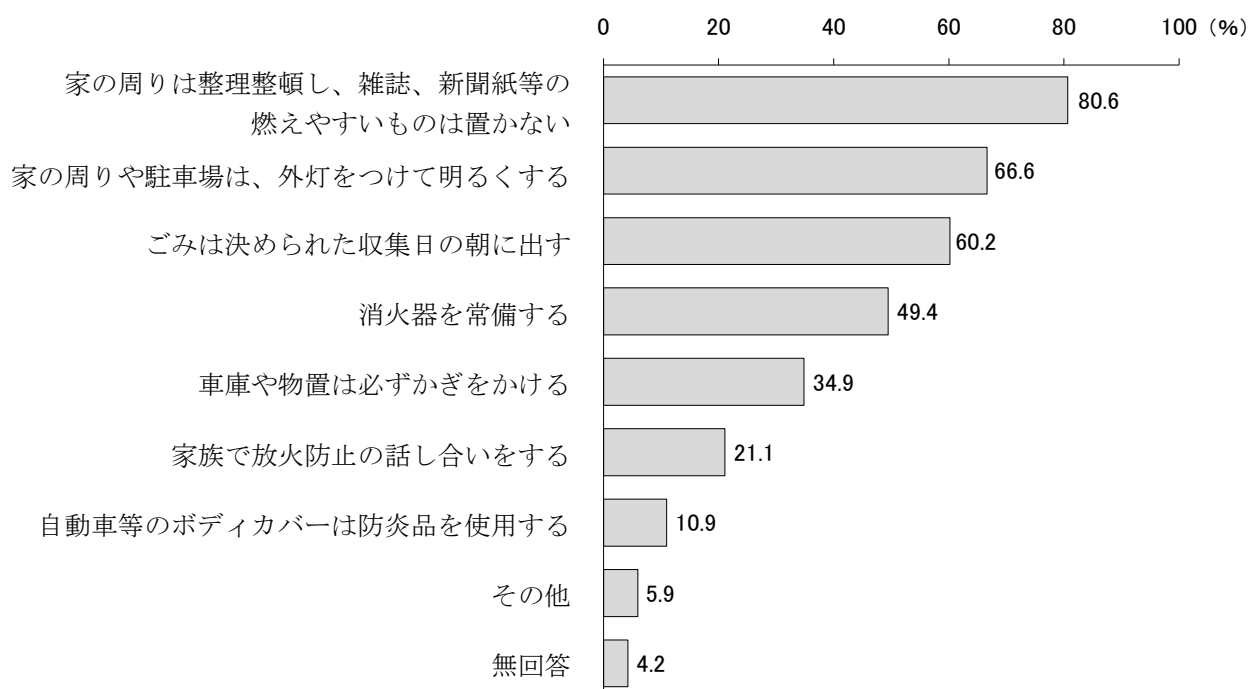
7-1 放火防止対策で大切と思われる行動

◎「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」が80.6%

問 25 火災の発生原因は、放火が昭和 51 年から第 1 位となっています。あなたは放火防止対策で何が大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

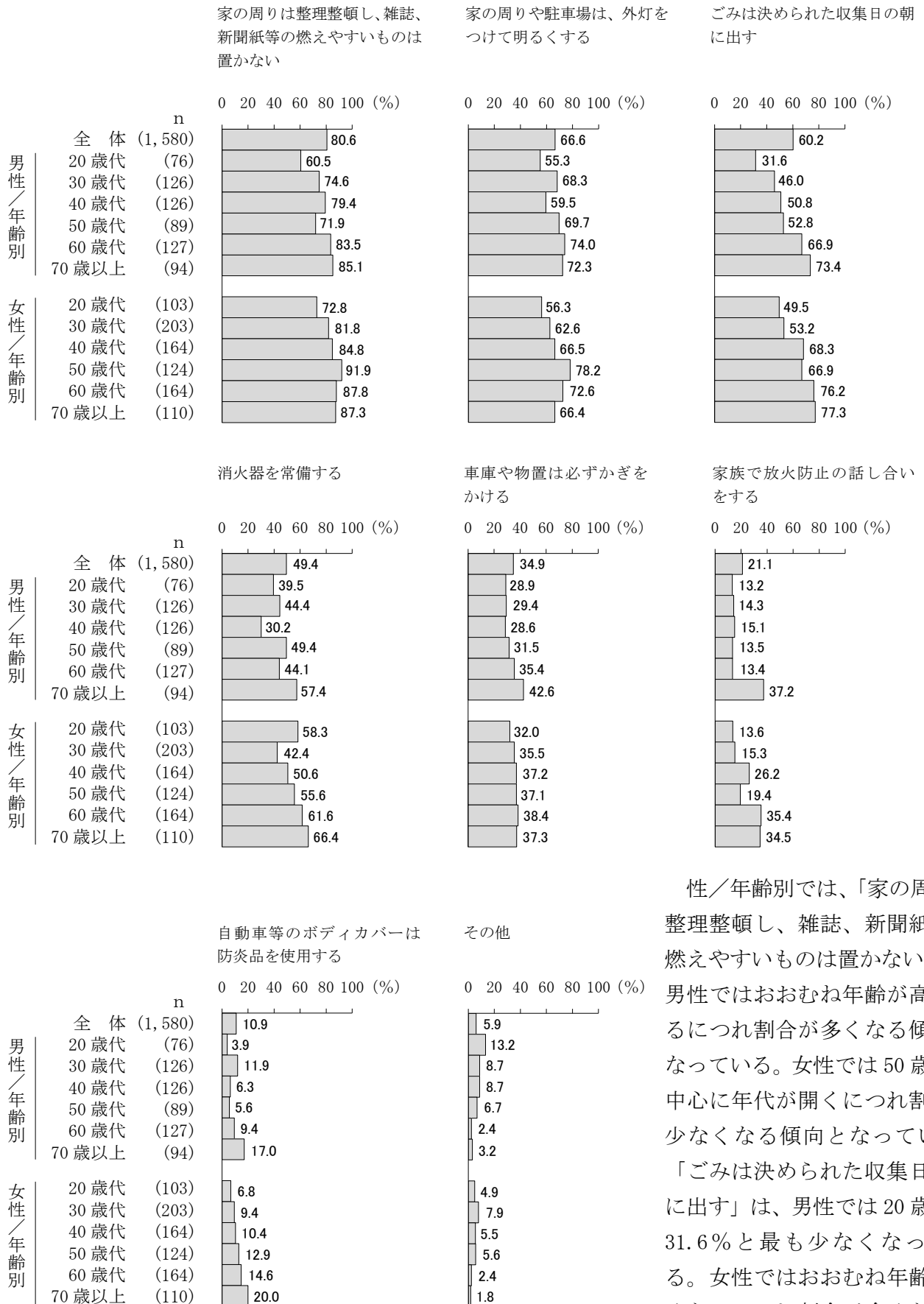
図表 7-1 放火防止対策で大切と思われる行動

(複数回答) n = (1,580)



放火防止対策で大切と思われる行動は、「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」が 80.6%と最も多くなっている。次いで、「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」が 66.6%、「ごみは決められた収集日の朝に出す」が 60.2%となっている。(図表 7-1)

図表7-2 放火防止対策で大切と思われる行動(性/年齢別)



性/年齢別では、「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「ごみは決められた収集日の朝に出す」は、男性では20歳代が31.6%と最も少なくなっている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。(図表7-2)

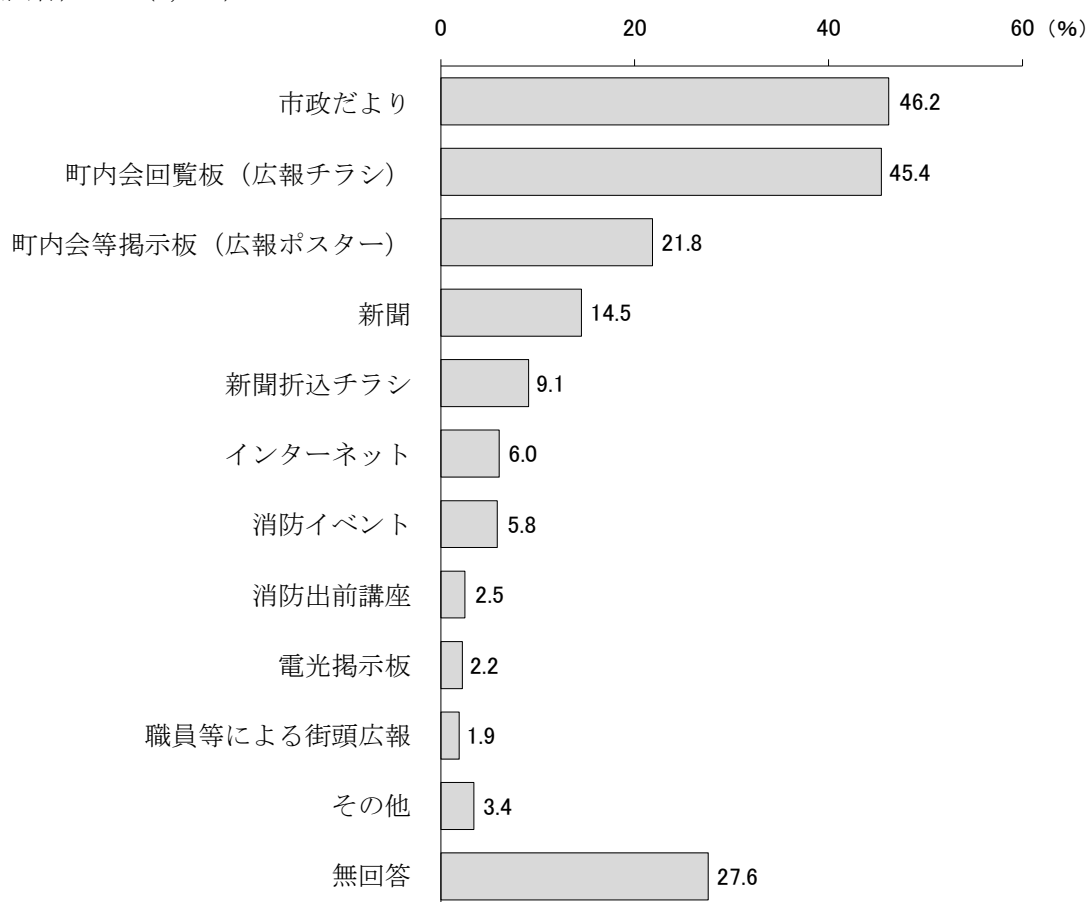
7-2 川崎市からの情報を知った方法・効果的な方法

◎知った方法は「市政だより」が46.2%

問26 川崎市では、火災予防（放火防止対策、コンロ火災防止、住宅用火災警報器の設置促進など）について様々な広報を行っています。あなたは、川崎市からの情報を主にどのような方法で知りましたか。また、火災予防を広報するため、どのような方法が効果的と考えますか。
(あてはまるものすべてに○)

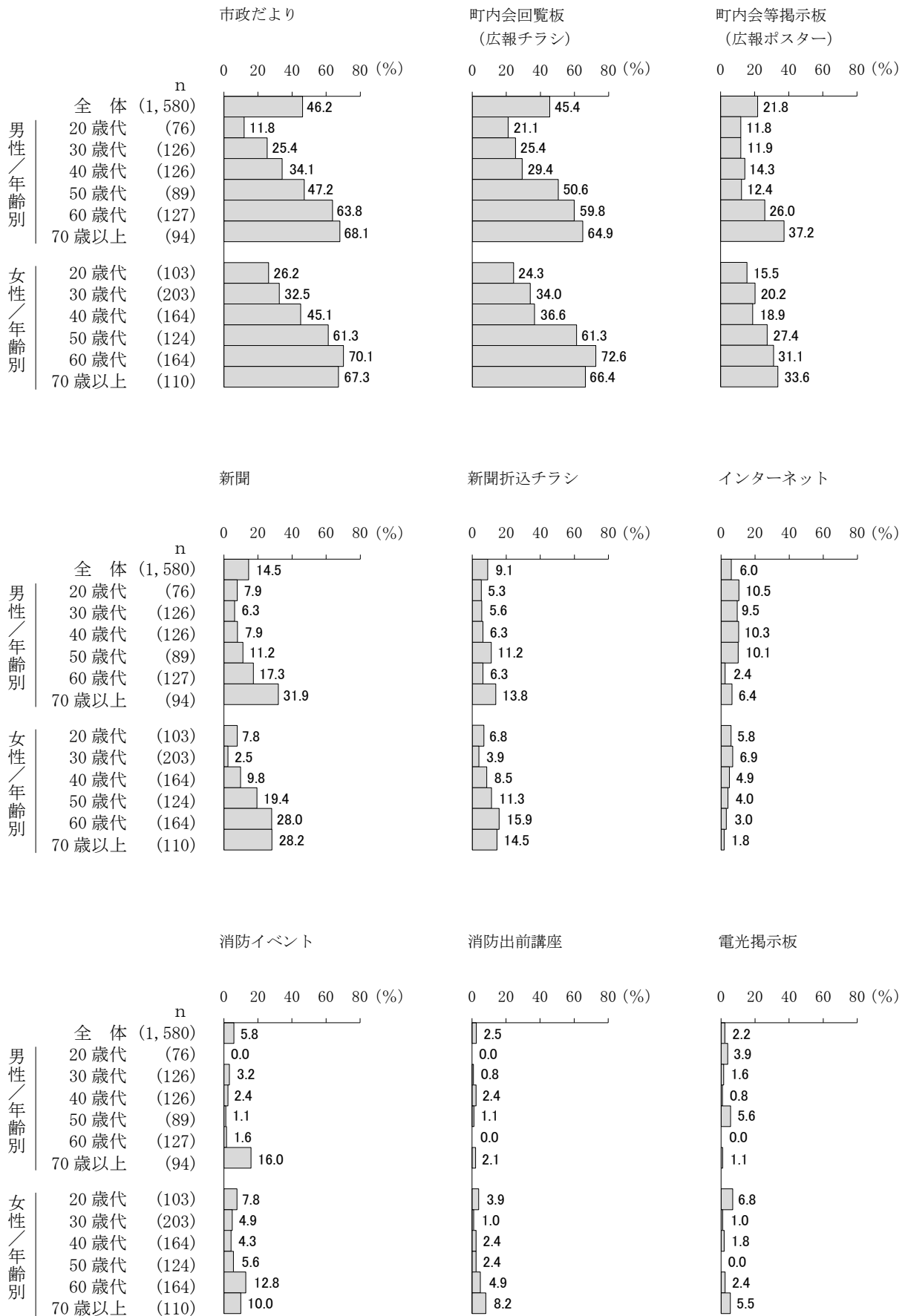
図表7-3 川崎市からの情報を知った方法

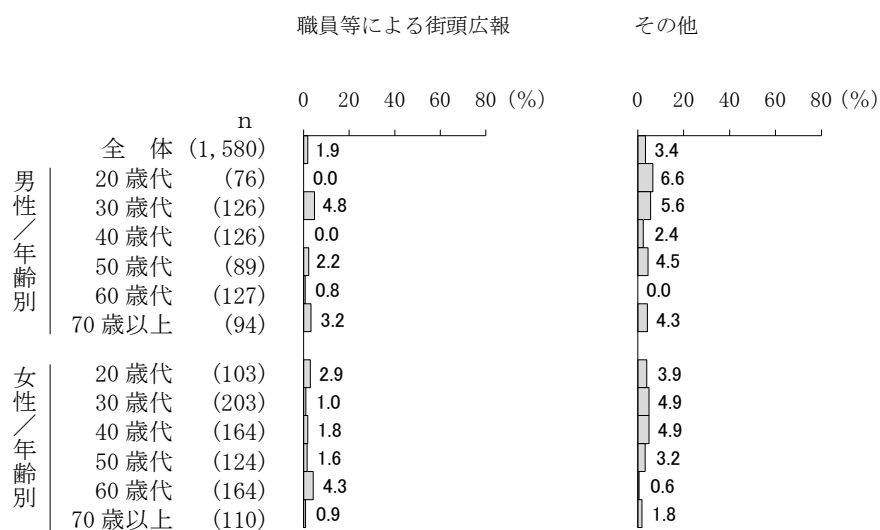
(複数回答) n = (1,580)



川崎市からの情報を知った方法は、「市政だより」が46.2%と最も多くなっている。次いで、「町内会回覧板 (広報チラシ)」が45.4%、「町内会等掲示板 (広報ポスター)」が21.8%となっている。(図表7-3)

図表7-4 川崎市からの情報を知った方法(性/年齢別)





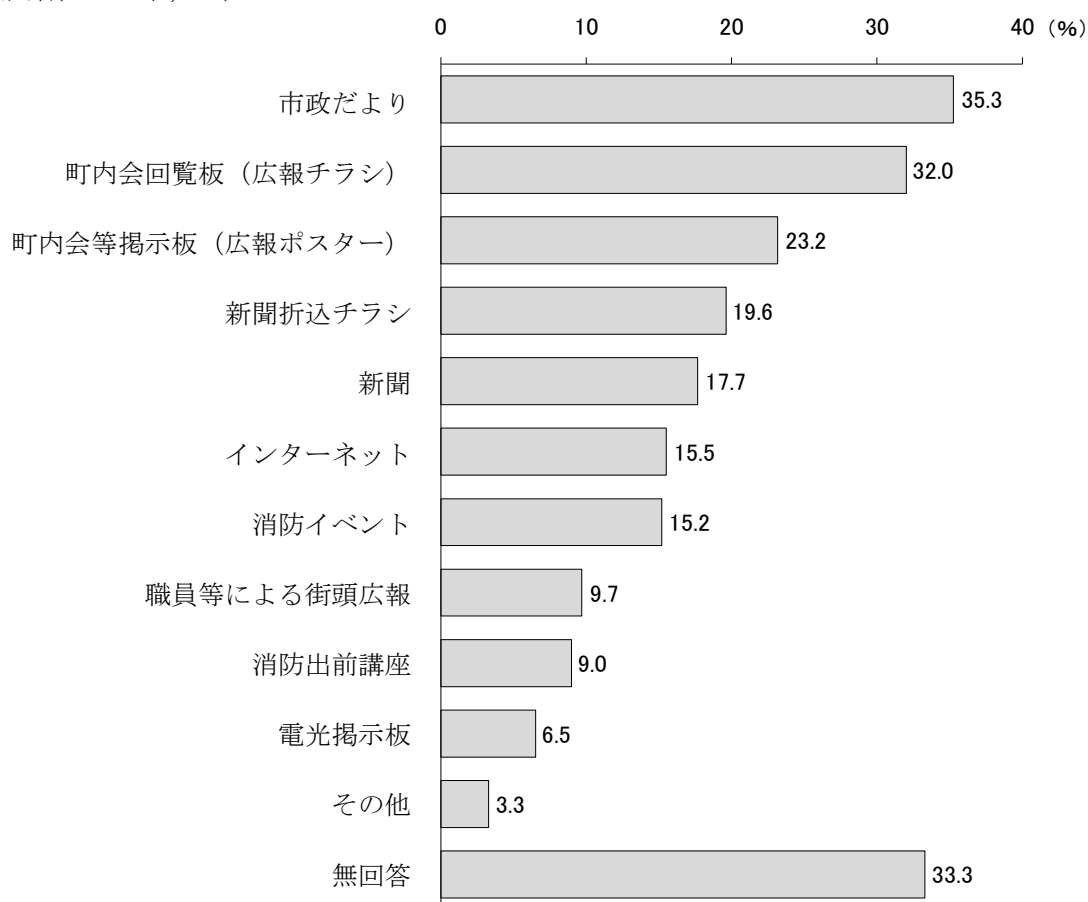
性／年齢別では、「市政だより」は、男性では20歳代が11.8%と最も少なくなっており、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では60歳代が70.1%と最も多くなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「町内会回覧板（広報チラシ）」は、男性では20歳代が21.1%と最も少なくなっており、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では60歳代が72.6%と最も多くなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「町内会等掲示板（広報ポスター）」は、男性では20歳代から50歳代までが1割台前半となっている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表7-4）

◎効果的な方法は「市政だより」が35.3%

問 26 川崎市では、火災予防（放火防止対策、コンロ火災防止、住宅用火災警報器の設置促進など）について様々な広報を行っています。あなたは、川崎市からの情報を主にどのような方法で知りましたか。また、火災予防を広報するため、どのような方法が効果的と考えますか。
(あてはまるものすべてに○)

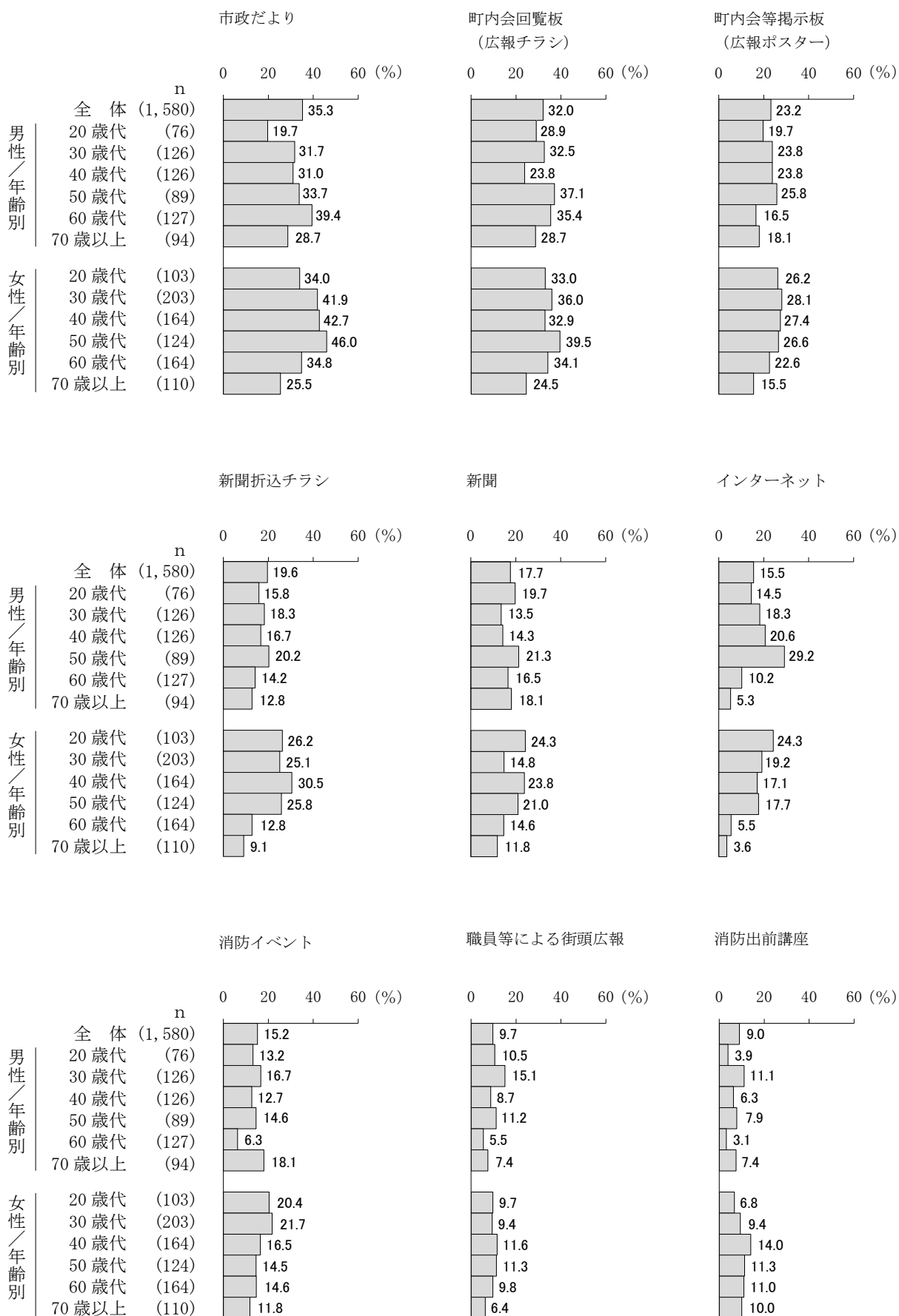
図表 7-5 川崎市からの情報で広報に効果的な方法

(複数回答) n = (1,580)

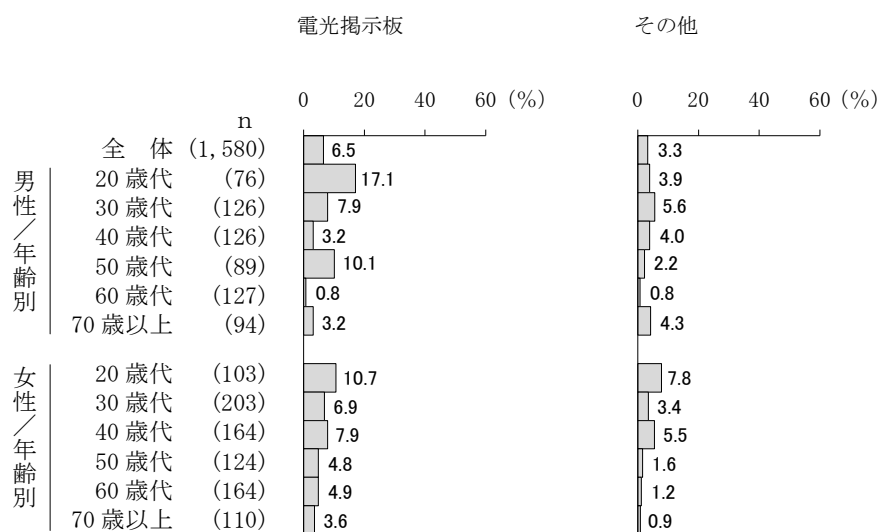


川崎市からの情報で広報に効果的な方法は、「市政だより」が 35.3%と最も多くなっている。次いで、「町内会回覧板 (広報チラシ)」が 32.0%、「町内会等掲示板 (広報ポスター)」が 23.2%となっている。(図表 7-5)

図表7-6 効果的な方法(性/年齢別)



(第2回アンケート)



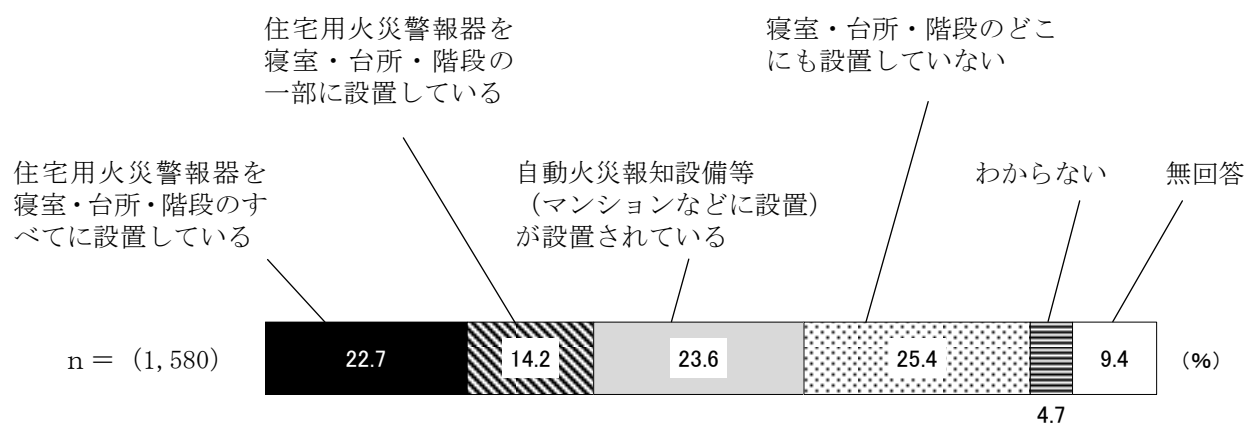
性／年齢別では、「市政だより」は、男性では20歳代が19.7%と最も少なくなっており、20歳代から60歳代でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では70歳以上が25.5%と最も少なくなっており、50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「町内会回覧板（広報チラシ）」は、男性では40歳代を除く全年代を通して2割台後半から3割台半ばとなっている。女性では70歳以上を除く全年代を通して3割台半ばから3割台後半となっている。「町内会等掲示板（広報ポスター）」は、男性では30歳代から50歳代までが2割台半ばとなっているが、60歳代から70歳以上までが1割台半ばから1割台後半と少なくなっている。女性では20歳代から60歳代までが2割台半ばから2割台後半となっているが、70歳以上が15.5%と少なくなっている。（図表7-6）

7-3 住宅用火災警報器の設置状況

◎「寝室・台所・階段のどこにも設置していない」が25.4%

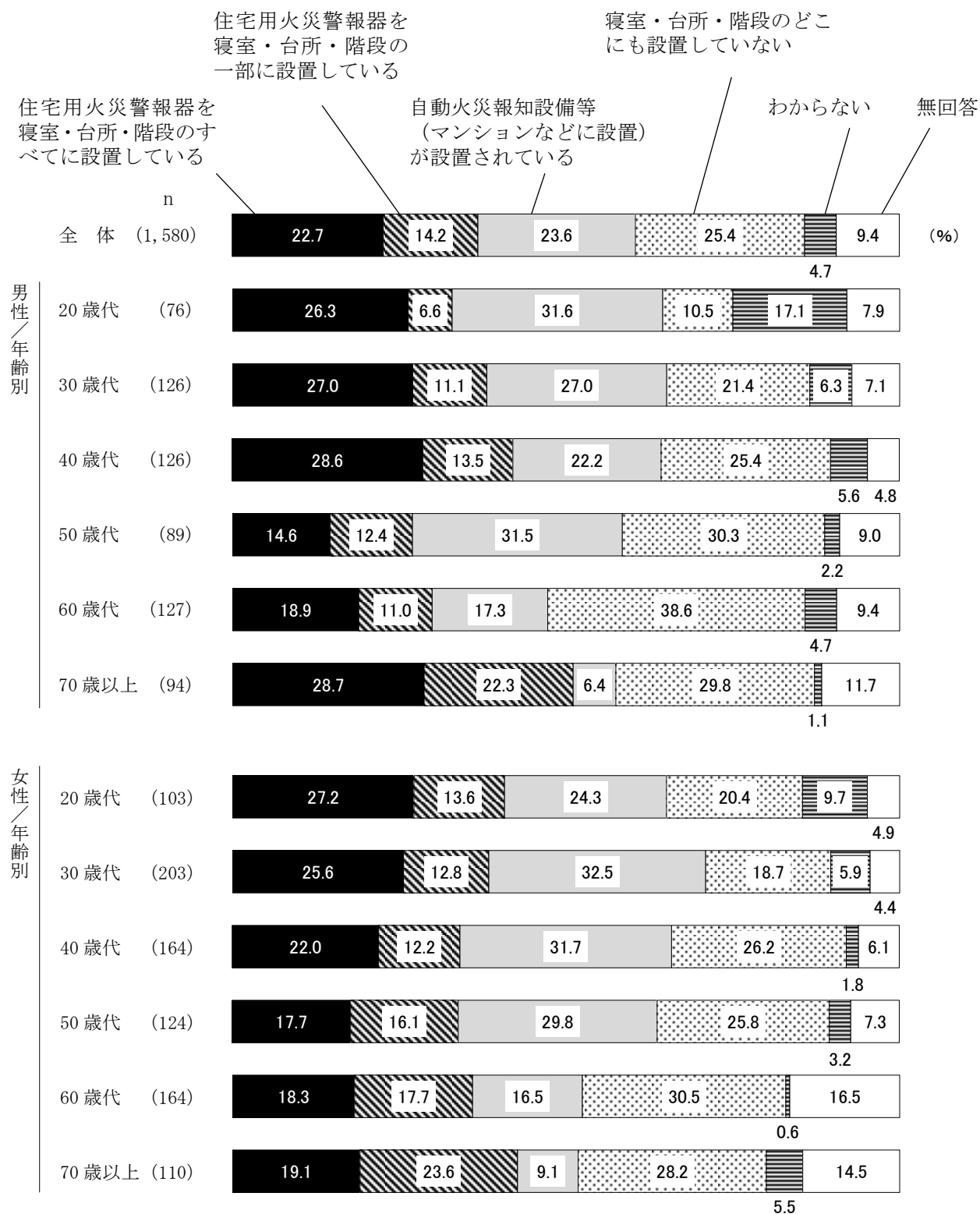
問 27 川崎市では、新築住宅においては平成 18 年 6 月 1 日から、すでにお住まいの住宅においては平成 23 年 5 月 31 日までに、住宅用火災警報器を寝室、台所、階段（上階に寝室がある場合）に設置することが義務化されました。あなたは、住宅用火災警報器を設置していますか。
(○は1つだけ)

図表 7-7 住宅用火災警報器の設置状況



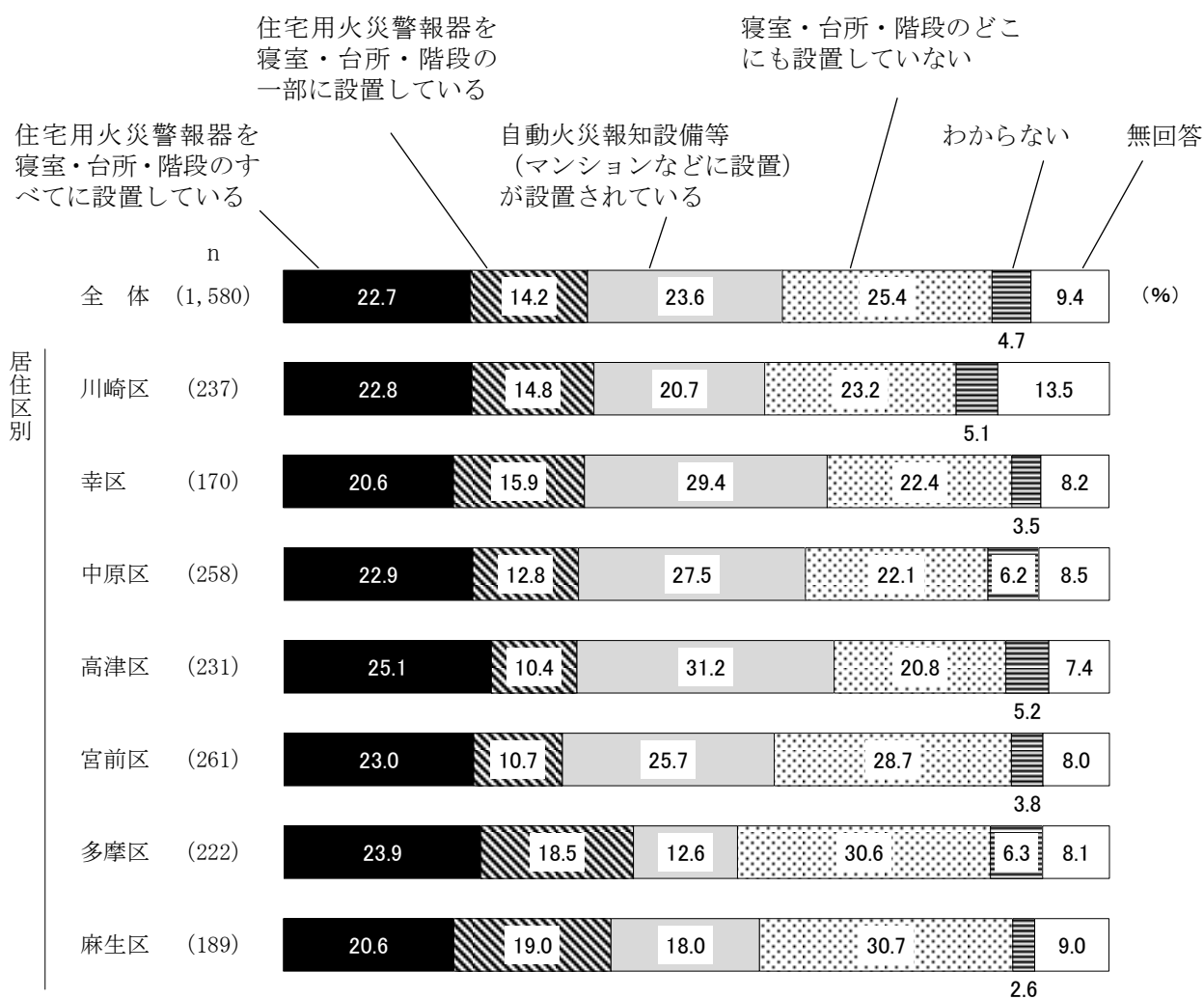
住宅用火災警報器の設置状況については、「寝室・台所・階段のどこにも設置していない」が25.4%、「自動火災報知設備等（マンションなどに設置）が設置されている」が23.6%、「住宅用火災警報器を寝室・台所・階段のすべてに設置している」が22.7%、「住宅用火災警報器を寝室・台所・階段の一部に設置している」が14.2%となっている。（図表 7-7）

図表7-8 住宅用火災警報器の設置状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「寝室・台所・階段のどこにも設置していない」は、男性では60歳代が38.6%と最も多くなっている。次いで、50歳代の30.3%、70歳以上の29.8%と続いている。女性では60歳代が30.5%と最も多くなっている。次いで、70歳以上の28.2%、40歳代の26.2%と続いている。(図表7-8)

図表7-9 住宅用火災警報器の設置状況 (居住区別)



居住区別では、「寝室・台所・階段のどこにも設置していない」は、麻生区が 30.7%と最も多くなっている。次いで、多摩区の 30.6%、宮前区の 28.7%と続いている。(図表7-9)

(第2回アンケート)

7-4 住宅用火災警報器の購入経路

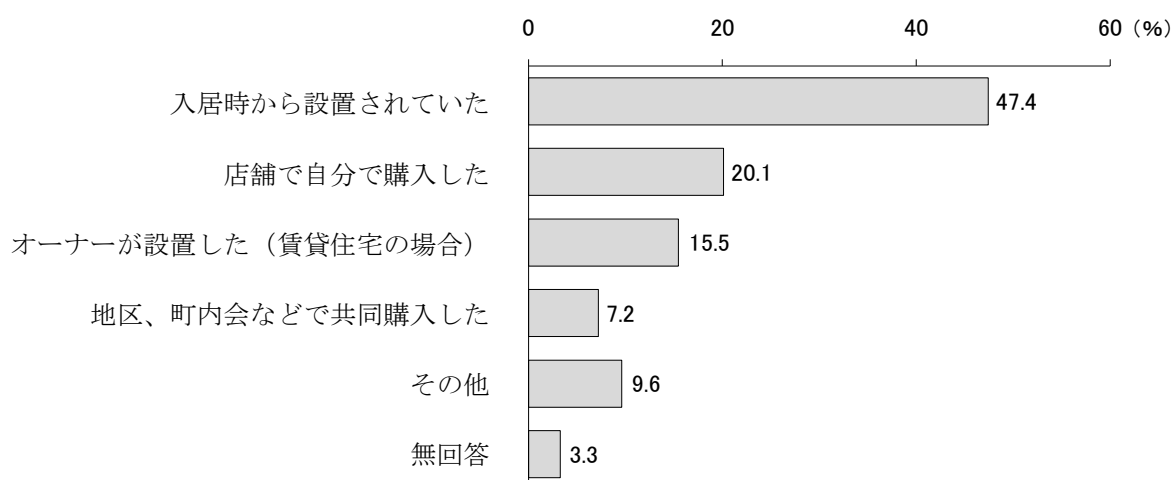
◎「入居時から設置されていた」が47.4%

(問27で「1 住宅用火災警報器を寝室・台所・階段のすべてに設置している」「2 住宅用火災警報器を寝室・台所・階段の一部に設置している」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問28 住宅用火災警報器をどのように購入されましたか。(あてはまるものすべてに○)

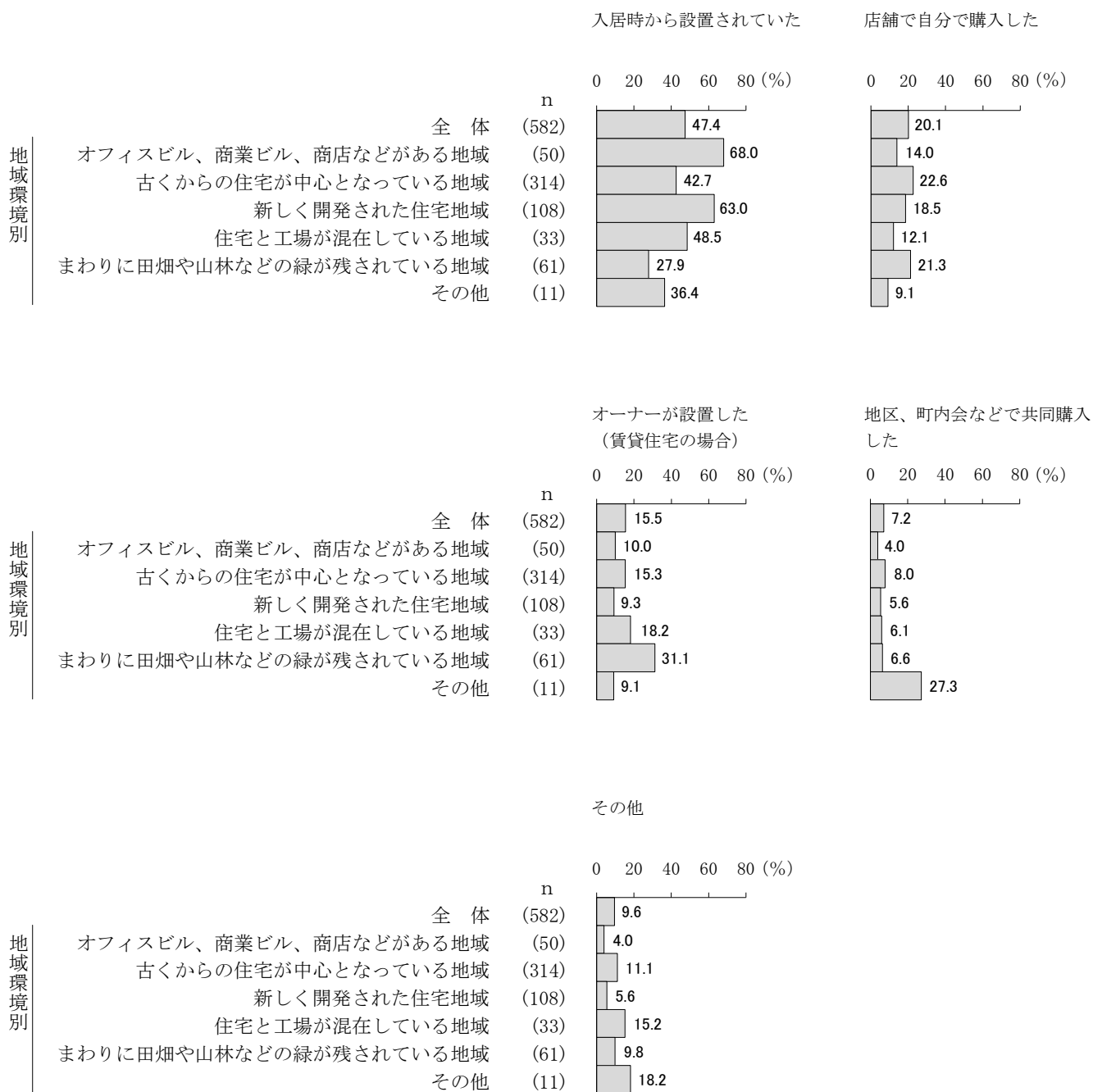
図表7-10 住宅用火災警報器の購入経路

(複数回答) n = (582)



住宅用火災警報器の購入経路は、「入居時から設置されていた」が47.4%と最も多くなっている。次いで、「店舗で自分で購入した」が20.1%、「オーナーが設置した(賃貸住宅の場合)」が15.5%となっている。(図表7-10)

図表7-11 住宅用火災警報器の購入経路（地域環境別）



地域環境別では、「入居時から設置されていた」は、オフィスビル、商業ビル、商店などがある地域が68.0%と最も多くなっている。次いで、新しく開発された住宅地域の63.0%、住宅と工場が混在している地域の48.5%と続いている。「店舗で自分で購入した」は、古くからの住宅が中心となっている地域が22.6%と最も多くなっている。次いで、まわりに田畑や山林などの緑が残されている地域の21.3%、新しく開発された住宅地域の18.5%と続いている。(図表7-11)

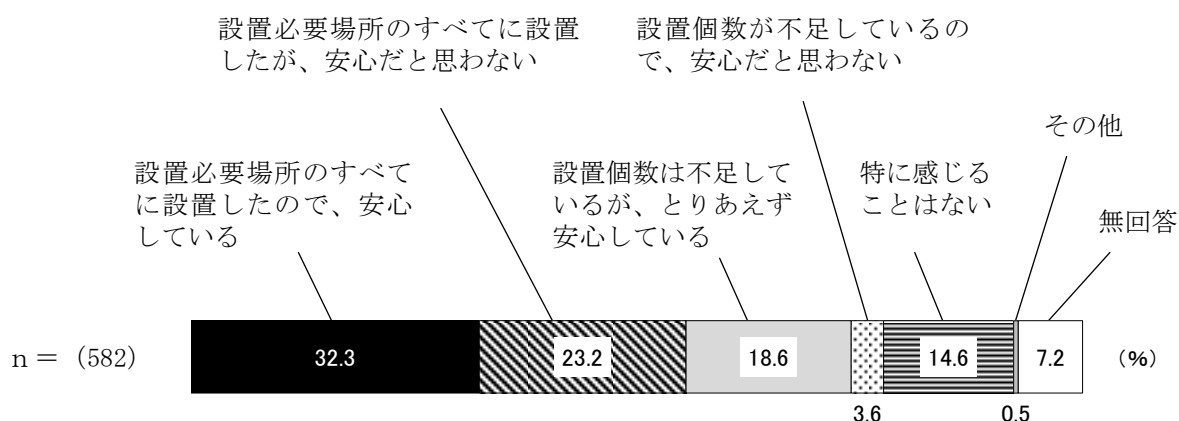
7-5 住宅用火災警報器を設置した後の感想

◎「設置必要場所のすべてに設置したので、安心している」が32.3%

(問27で「1 住宅用火災警報器を寝室・台所・階段のすべてに設置している」「2 住宅用火災警報器を寝室・台所・階段の一部に設置している」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

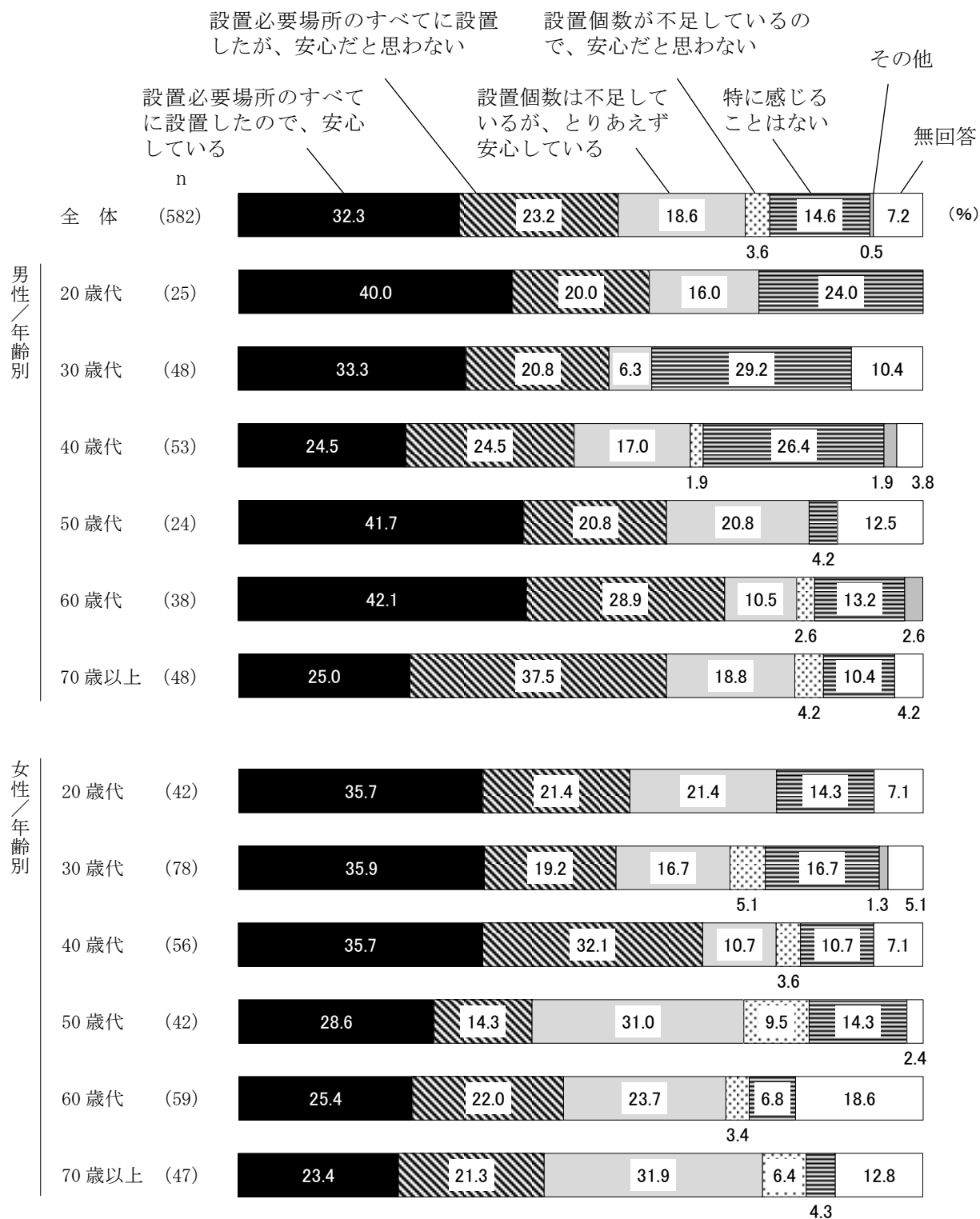
問29 住宅用火災警報器を設置した後の感想はいかがでしたか。(〇は1つだけ)

図表7-12 住宅用火災警報器を設置した後の感想



住宅用火災警報器を設置した後の感想は、「設置必要場所のすべてに設置したので、安心している」が32.3%、「設置必要場所のすべてに設置したが、安心だと思わない」が23.2%、「設置個数は不足しているが、とりあえず安心している」が18.6%、「特に感じることはない」が14.6%、「設置個数が不足しているので、安心だと思わない」が3.6%となっている。(図表7-12)

図表7-13 住宅用火災警報器を設置した後の感想(性/年齢別)



性/年齢別では、「設置必要場所のすべてに設置したので、安心している」は、男性では、60歳代が42.1%と最も多くなっている。次いで、50歳代の41.7%、20歳代の40.0%と続いている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「設置必要場所のすべてに設置したが、安心だと思わない」は、男性では70歳以上が37.5%、女性では40歳代が32.1%と最も多くなっている。(図表7-13)

(第2回アンケート)

7-6 住宅用火災警報器を設置した場所

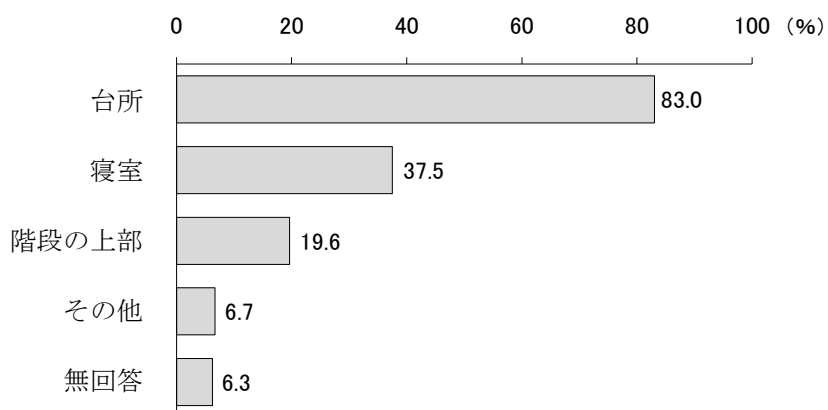
◎「台所」が83.0%

(問27で「2 住宅用火災警報器を寝室・台所・階段の一部に設置している」と答えた方にうかがいます。)

問30 住宅用火災警報器を設置した場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

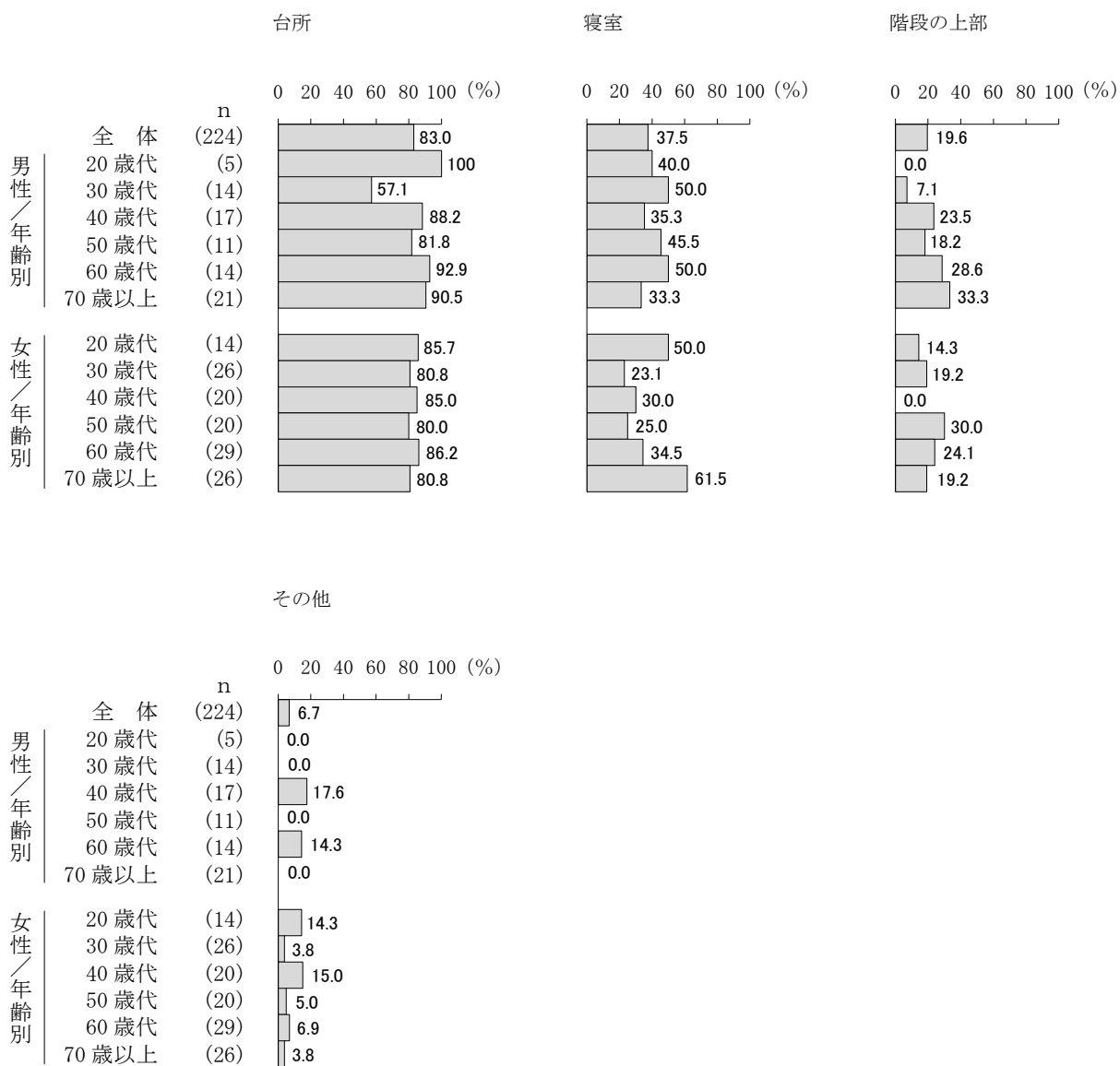
図表7-14 住宅用火災警報器を設置した場所

(複数回答) n = (224)



住宅用火災警報器を設置した場所は、「台所」が83.0%と最も多くなっている。次いで、「寝室」が37.5%、「階段の上部」が19.6%となっている。(図表7-14)

図表7-15 住宅用火災警報器を設置した場所(性/年齢別)



性/年齢別では、「台所」は、男性では40歳代から70歳以上までが8割前半から9割台半ばとなっているが、30歳代が5割台半ばと少なくなっている。女性では全年代を通して8割前半から8割台半ばとなっている。「寝室」は、70歳以上が男性では33.3%と最も少なくなっているが、女性では61.5%と最も多くなっている。(図表7-15)

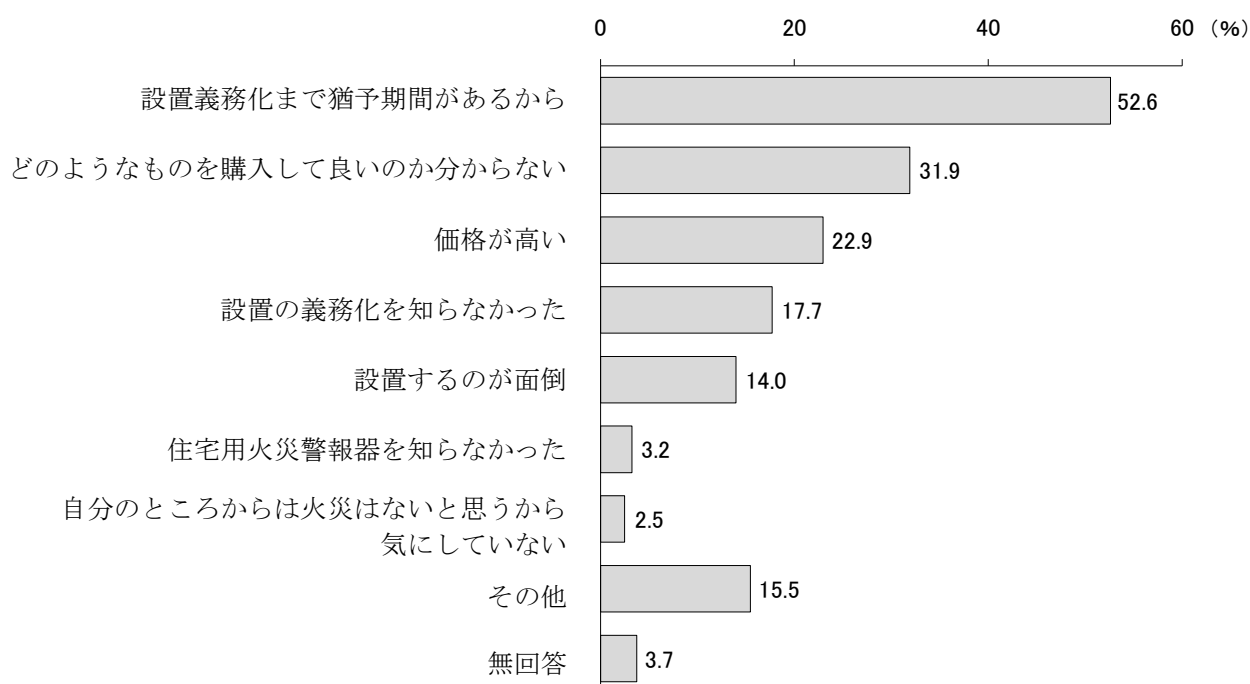
7-7 住宅用火災警報器を設置していない理由

◎「設置義務化まで猶予期間があるから」が52.6%

(問27で「4 寝室・台所・階段のどこにも設置していない」と答えた方にうかがいます。)
問31 住宅用火災警報器を設置していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

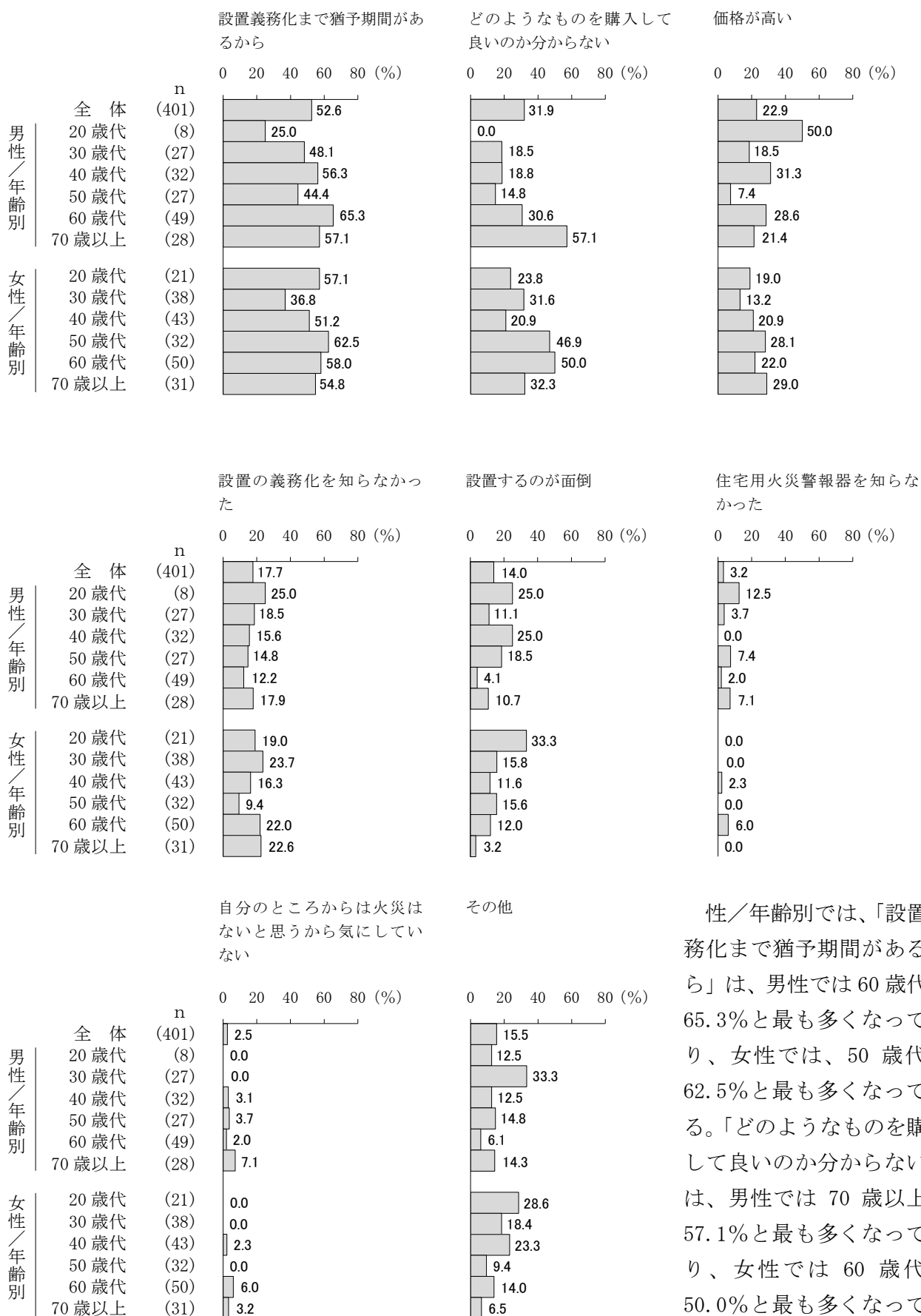
図表7-16 住宅用火災警報器を設置していない理由

(複数回答) n = (401)



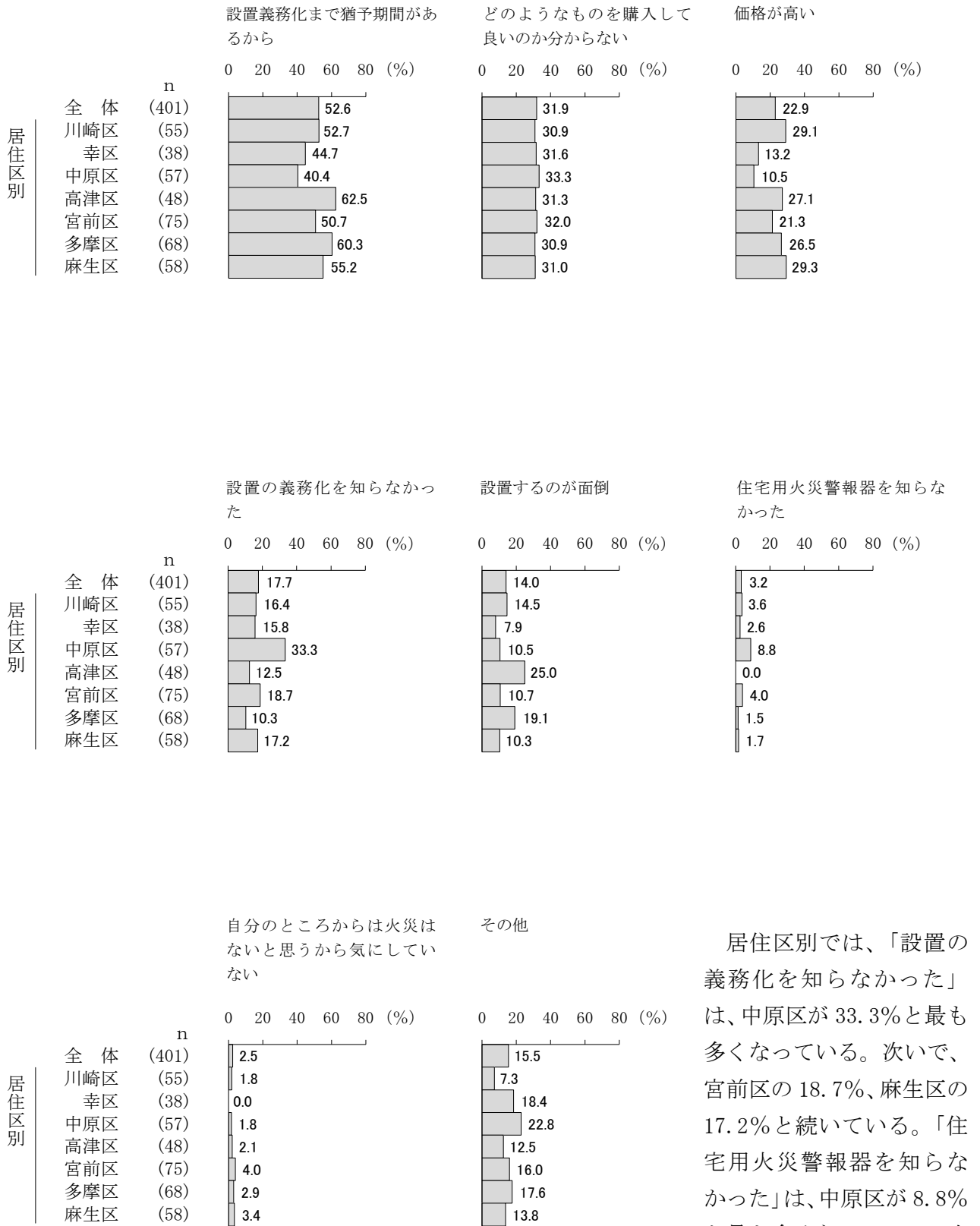
住宅用火災警報器を設置していない理由は、「設置義務化まで猶予期間があるから」が52.6%と最も多くなっている。次いで、「どのようなものを購入して良いのか分からない」が31.9%、「価格が高い」が22.9%となっている。(図表7-16)

図表7-17 住宅用火災警報器を設置していない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「設置義務化まで猶予期間があるから」は、男性では60歳代が65.3%と最も多くなっており、女性では、50歳代が62.5%と最も多くなっている。「どのようなものを購入して良いのか分からない」は、男性では70歳以上が57.1%と最も多くなっており、女性では60歳代が50.0%と最も多くなっている。(図表7-17)

図表7-18 住宅用火災警報器を設置していない理由（居住区別）



居住区別では、「設置の義務化を知らなかった」は、中原区が33.3%と最も多くなっている。次いで、宮前区の18.7%、麻生区の17.2%と続いている。「住宅用火災警報器を知らなかった」は、中原区が8.8%と最も多くなっている。次いで、宮前区の4.0%、川崎区の3.6%と続いている。(図表7-18)

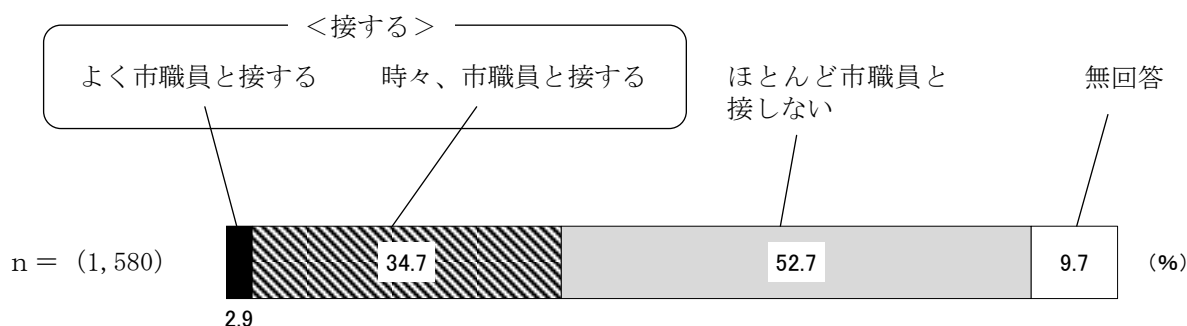
8 市職員に対する市民意識について

8-1 市職員と接する頻度

◎<接する>が37.6%

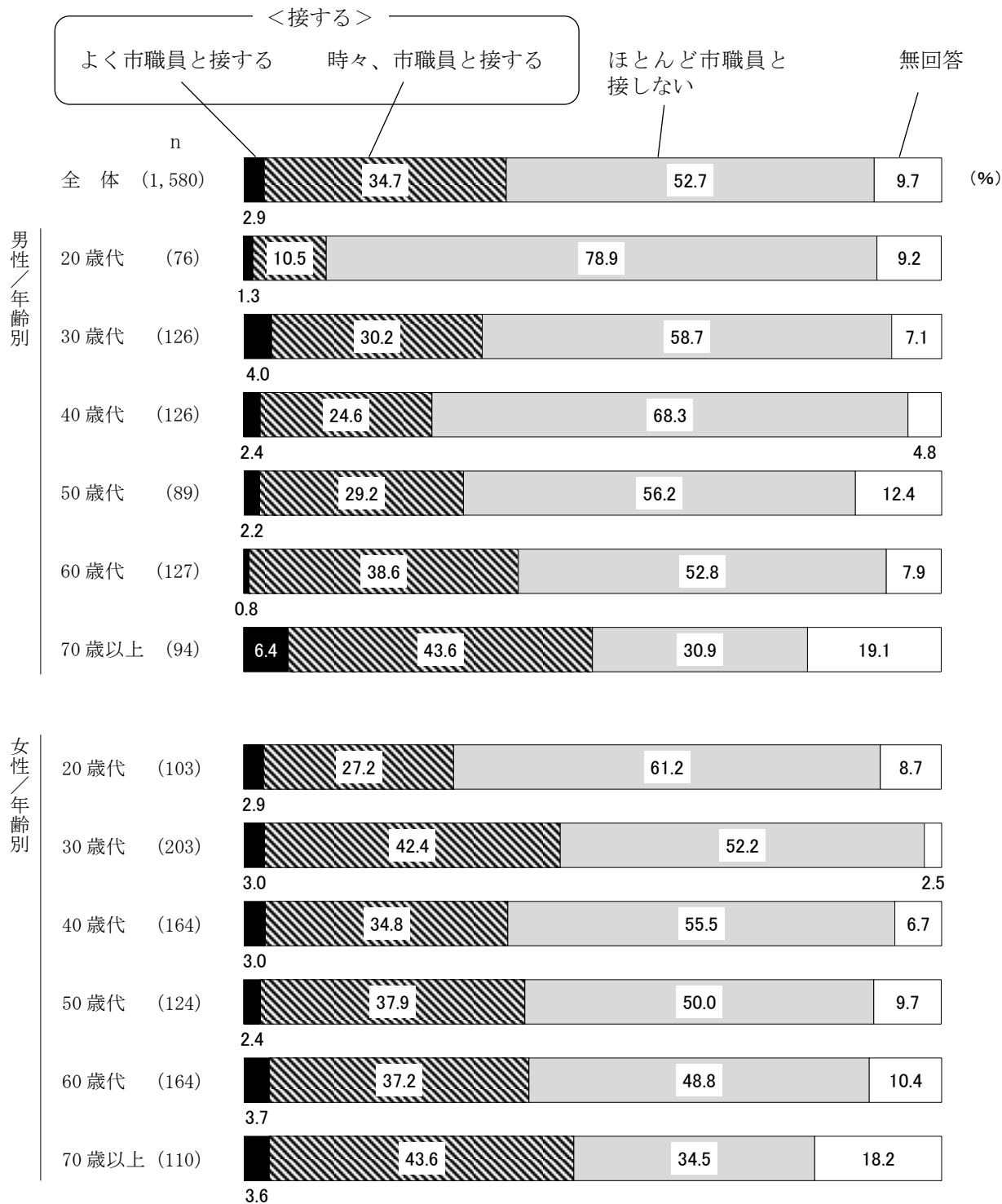
問32 あなたは、日ごろ、市役所や区役所、市の施設等の利用などを通じて、市職員と接することがありますか。(〇は1つだけ)

図表8-1 市職員と接する頻度



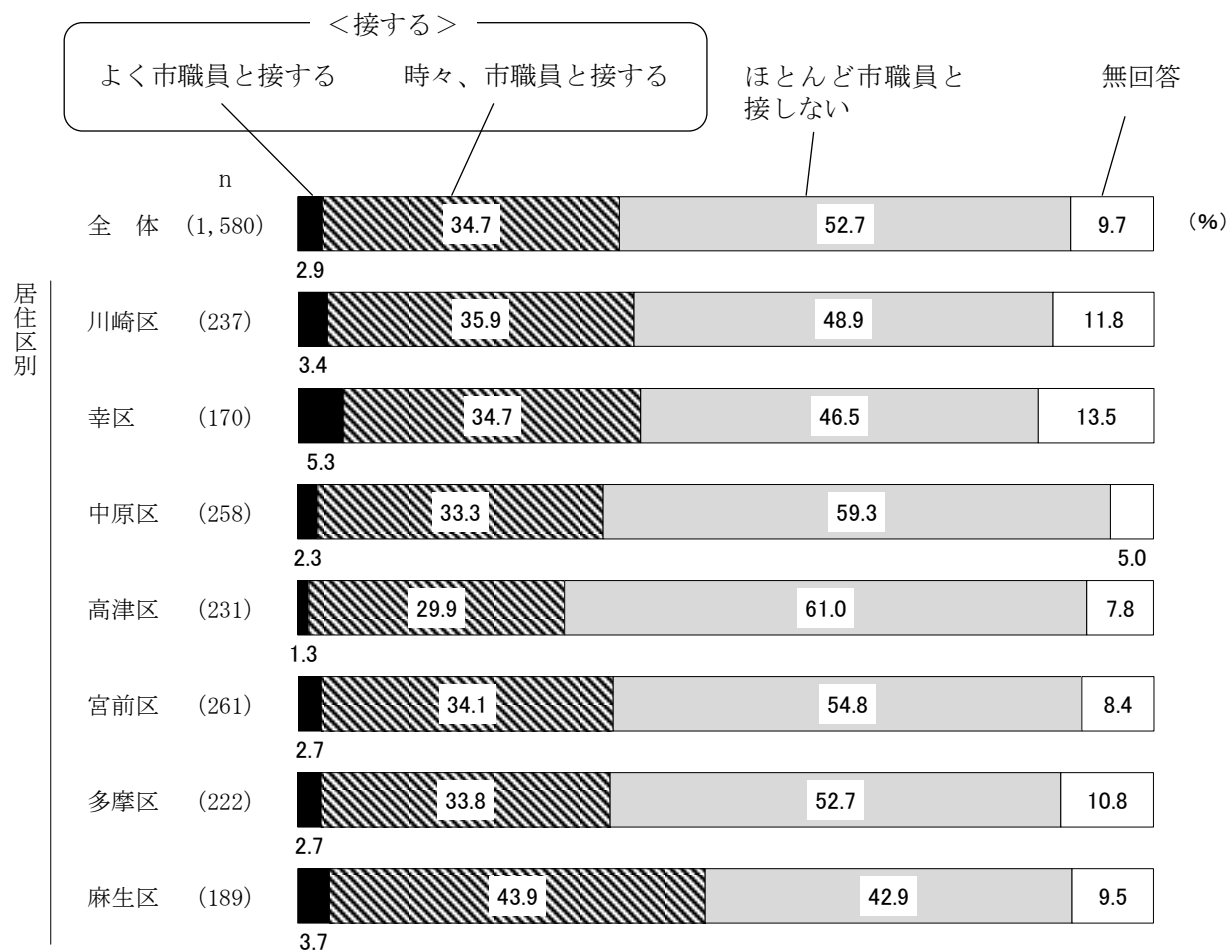
市職員と接する頻度は、「よく市職員と接する」の2.9%と「時々、市職員と接する」の34.7%をあわせた<接する>が37.6%となっている。一方、「ほとんど市職員と接しない」は、52.7%となっている。(図表8-1)

図表8-2 市職員と接する頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、<接する>は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男性では、70歳以上が50.0%と最も多くなっている。次いで、60歳代の39.4%、30歳代の34.2%と続いている。女性では、70歳以上が47.2%と最も多くなっている。次いで、30歳代の45.4%、60歳代の40.9%と続いている。(図表8-2)

図表8-3 市職員と接する頻度(居住区別)



居住区別では、＜接する＞は、麻生区が47.6%と最も多くなっている。次いで、幸区の40.0%、川崎区の39.3%と続いている。「ほとんど市職員と接しない」は、高津区が61.0%と最も多くなっている。次いで、中原区の59.3%、宮前区の54.8%と続いている。(図表8-3)

(第2回アンケート)

8-2 市職員と接する場所

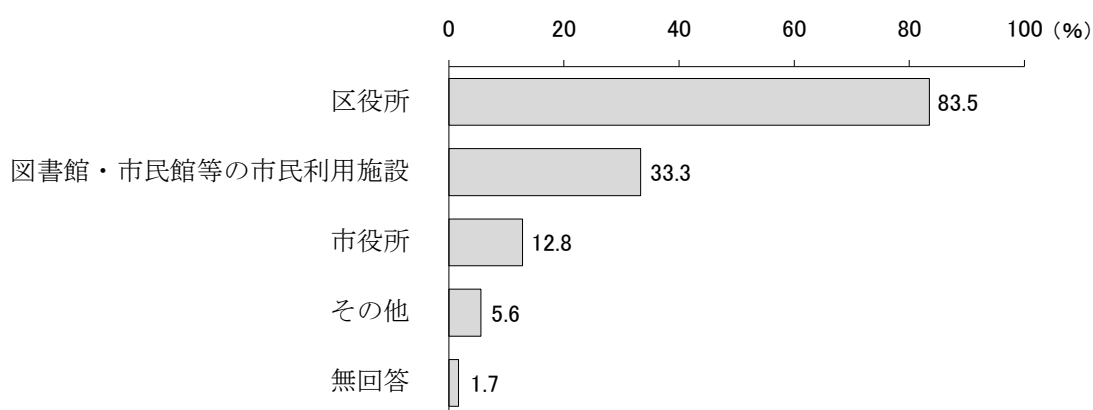
◎「区役所」が83.5%

(問32で「1 よく市職員と接する」「2 時々、市職員と接する」のいずれかに答えた方にかがいます。)

問33 具体的にどこを利用して市職員と接しますか。(あてはまるものすべてに○)

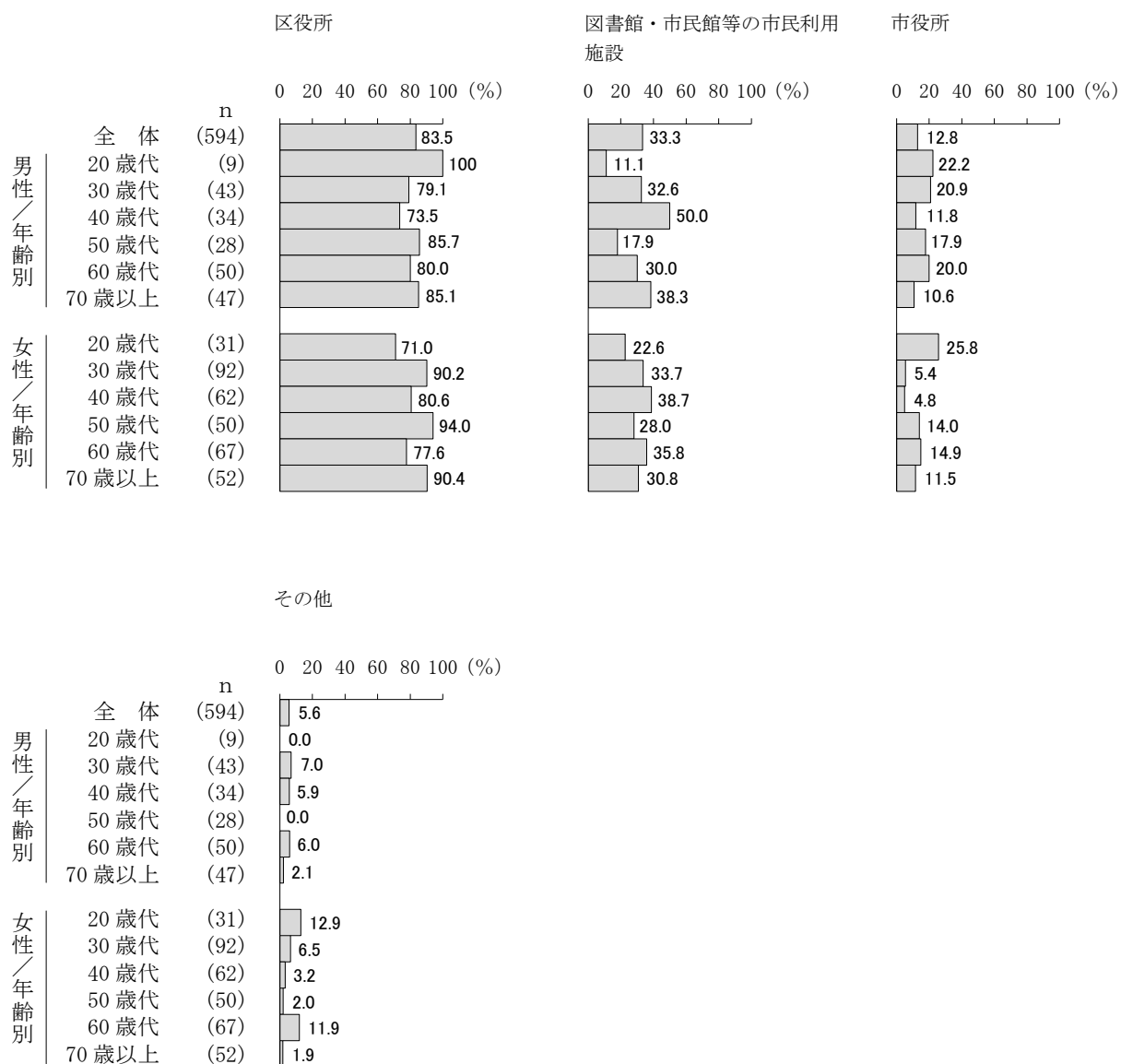
図表8-4 市職員と接する場所

(複数回答) n = (594)



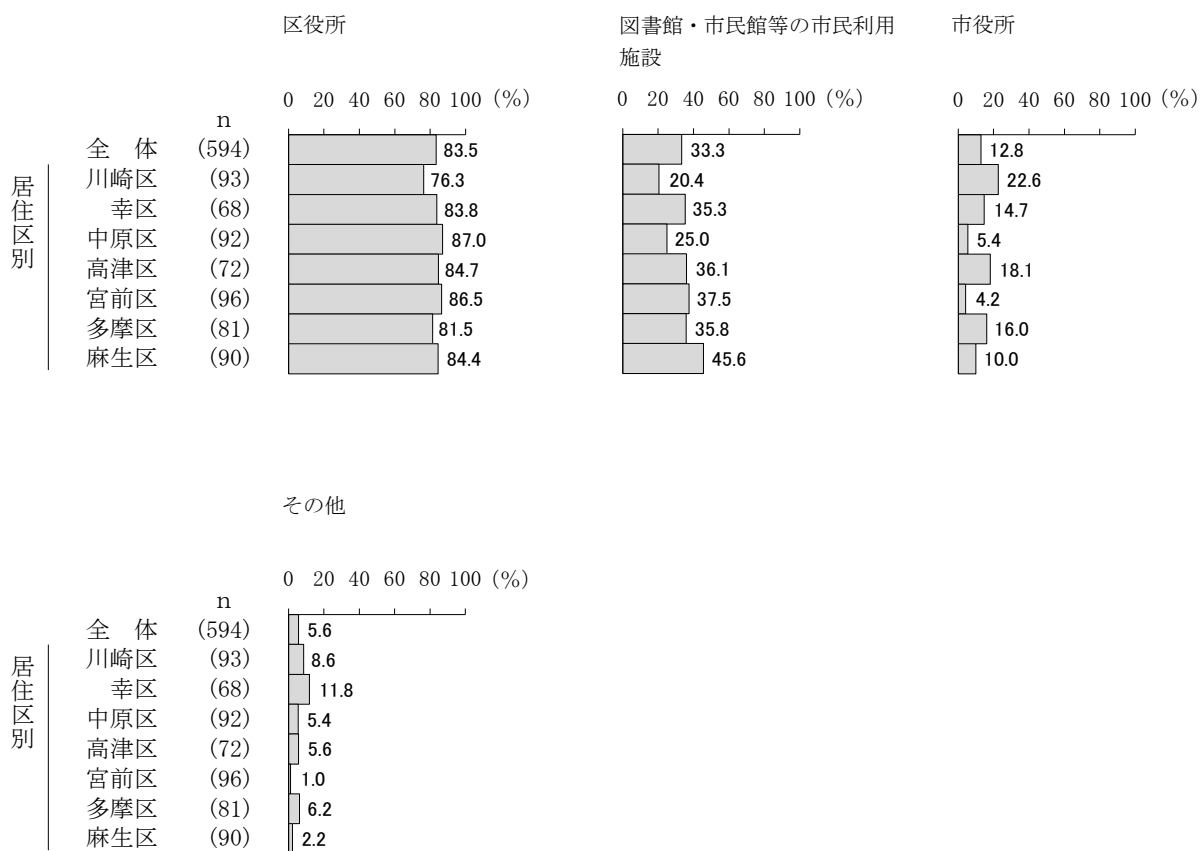
市職員と接する場所は、「区役所」が83.5%と最も多くなっている。次いで、「図書館・市民館等の市民利用施設」が33.3%、「市役所」が12.8%となっている。(図表8-4)

図表8-5 市職員と接する場所(性/年齢別)



性/年齢別では、「区役所」は、男性では、20歳代を除く全年代を通して7割台半ばから8割台半ばとなっている。女性では、20歳代を除く全年代を通して7割台後半から9割台半ばとなっている。「図書館・市民館等の市民利用施設」は、男性では40歳代が50.0%と最も多くなっており、20歳代が11.1%と最も少なくなっている。女性では、20歳代を除く全年代を通して2割台後半から3割台後半となっている。「市役所」は、男性では、20歳代が22.2%と最も多くなっている。次いで、30歳代の20.9%、60歳代の20.0%と続いている。女性では、20歳代が25.8%と最も多くなっている。次いで、60歳代の14.9%、50歳代の14.0%と続いている。(図表8-5)

図表8-6 市職員と接する場所（居住区別）



居住区別では、「区役所」は、川崎区を除く全ての居住区で8割台前半から8割台半ばとなっている。「図書館・市民館等の市民利用施設」は、麻生区が45.6%と最も多くなっている。次いで、宮前区の37.5%、高津区の36.1%と続いている。「市役所」は、川崎区が22.6%と最も多くなっている。次いで、高津区の18.1%、多摩区の16.0%と続いている。(図表8-6)

8-3 市職員による市民対応等についての感想

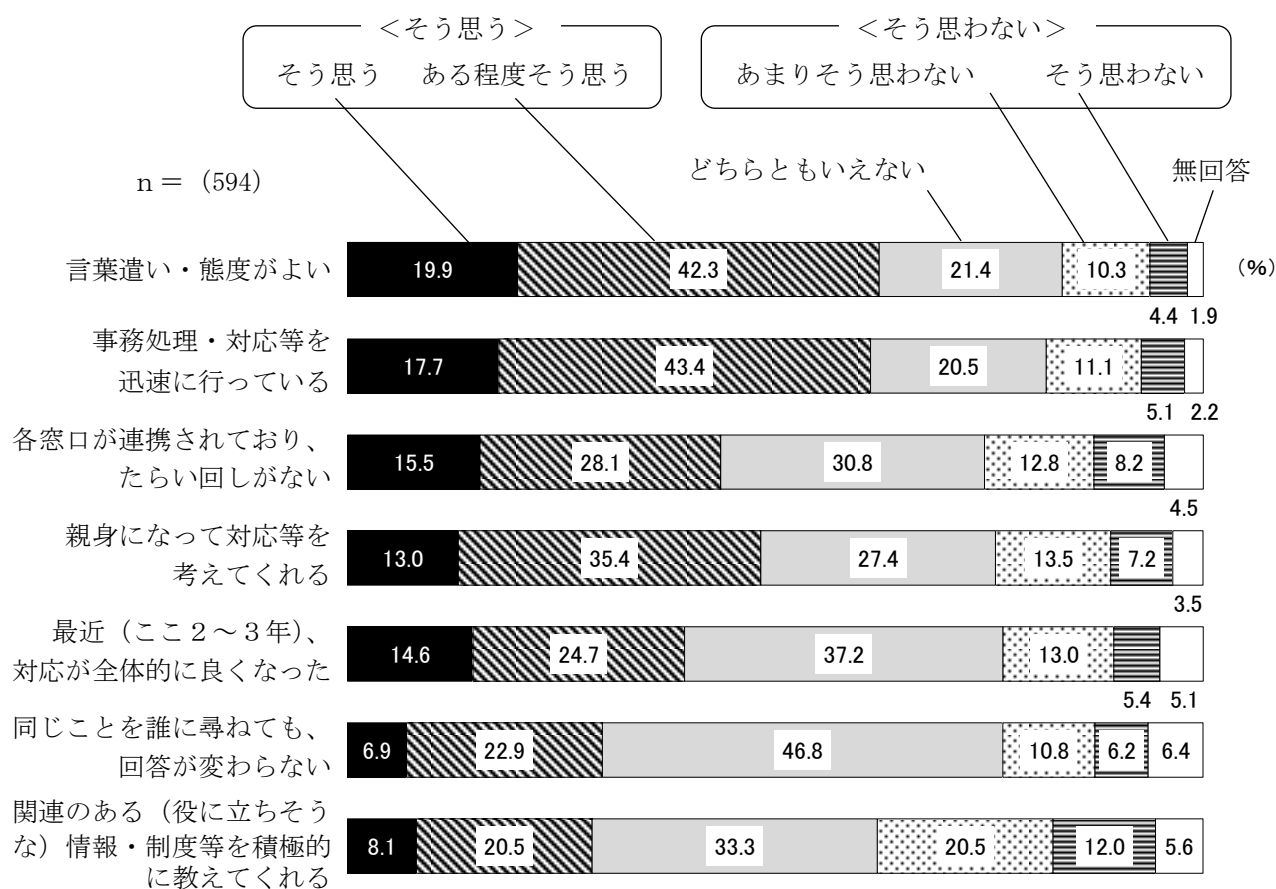
◎<そう思う>は「言葉遣い・態度がよい」、「事務処理・対応等を迅速に行っている」で6割以上

(問32で「1 よく市職員と接する」「2 時々、市職員と接する」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問34 あなたは、市職員による市民対応等について、どのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

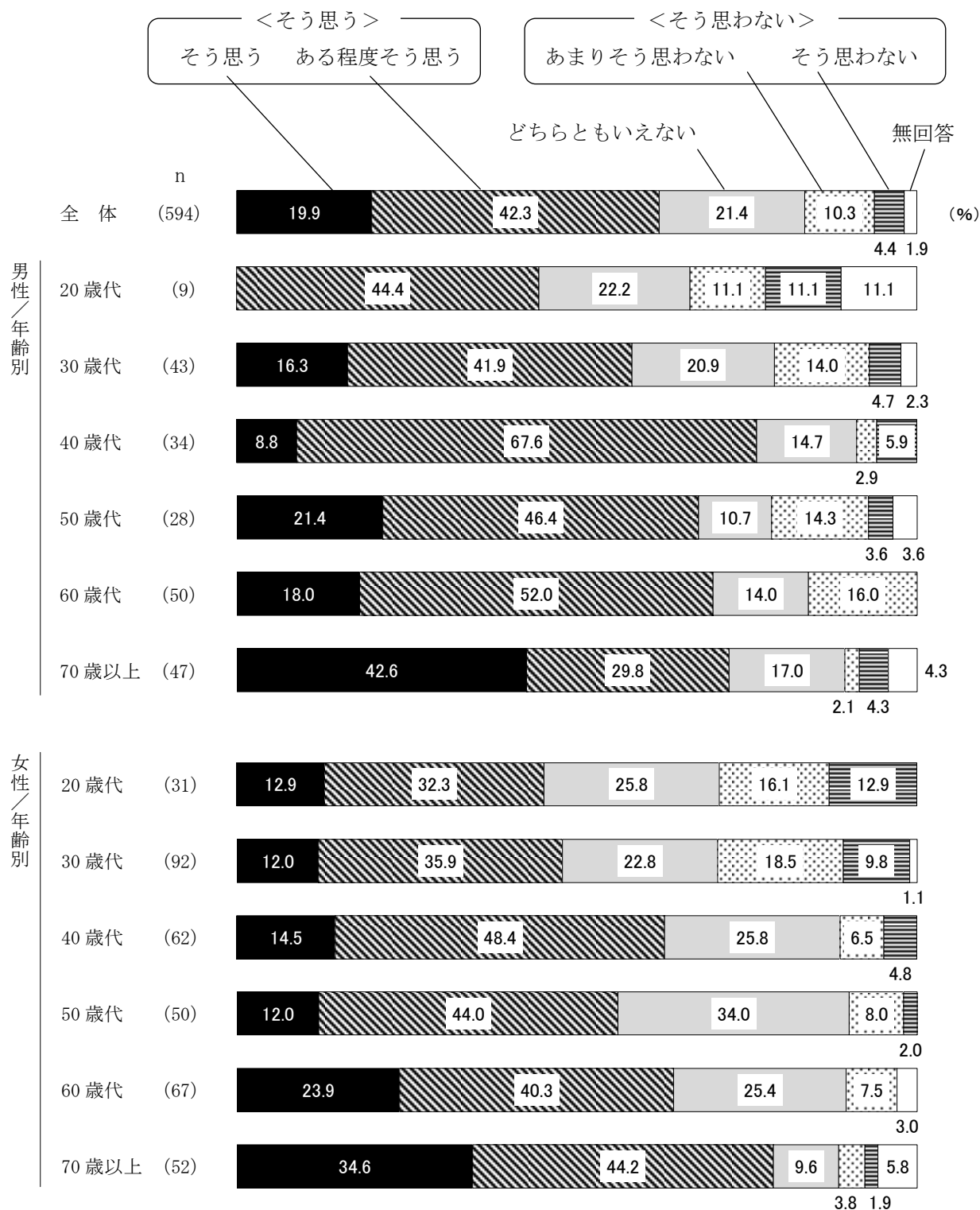
図表8-7 市職員による市民対応等についての感想



市職員による市民対応等についての感想は、「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせて<そう思う>が多いのは、「言葉遣い・態度がよい」が62.2%と最も多くなっている。次いで、「事務処理・対応等を迅速に行っている」が61.1%、「親身になって対応等を考えてくれる」が48.4%となっている。(図表8-7)

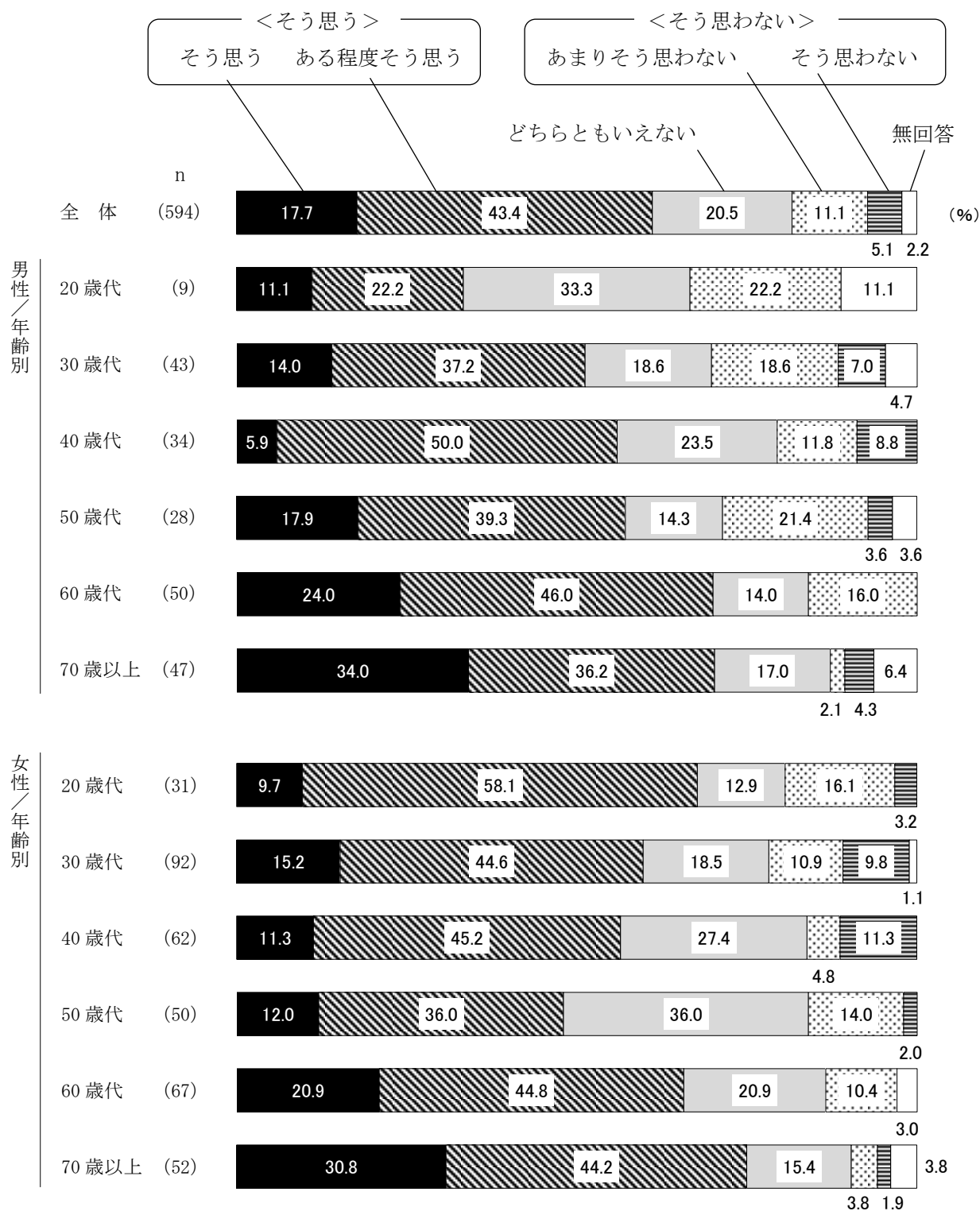
(第2回アンケート)

図表8-8 市職員による市民対応等についての感想 <言葉遣い・態度がよい> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男性では、40歳代が76.4%と最も多くなっている。次いで、70歳以上の72.4%、60歳代の70.0%と続いている。女性では、70歳以上が78.8%と最も多くなっている。次いで、60歳代の64.2%、40歳代の62.9%と続いている。(図表8-8)

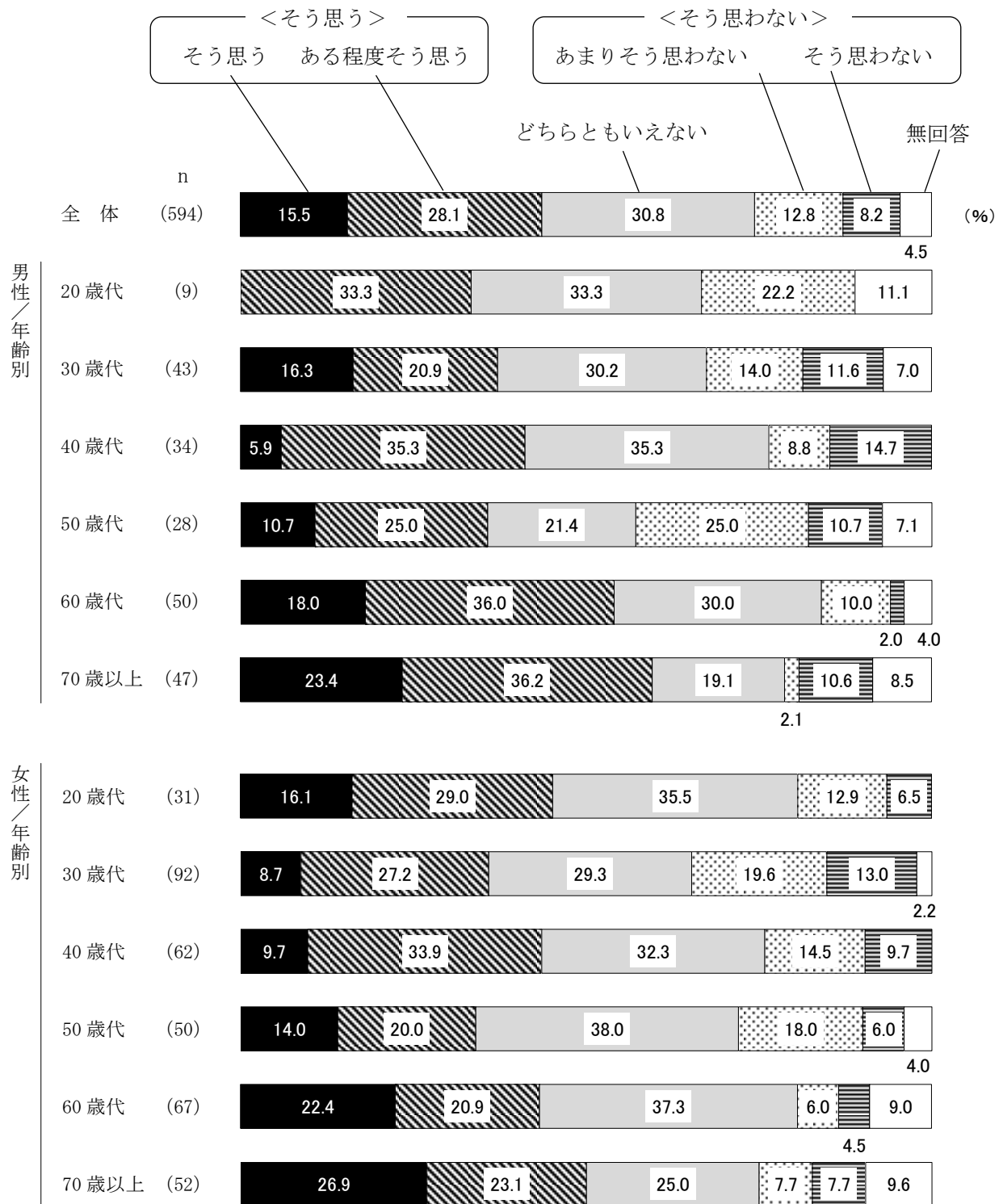
図表8-9 市職員による市民対応等についての感想 <事務処理・対応等を迅速に行っている> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が70.2%と最も多くなっている。次いで、60歳代の70.0%、50歳代の57.2%と続いている。女性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が75.0%と最も多くなっている。次いで、20歳代の67.8%、60歳代の65.7%と続いている。(図表8-9)

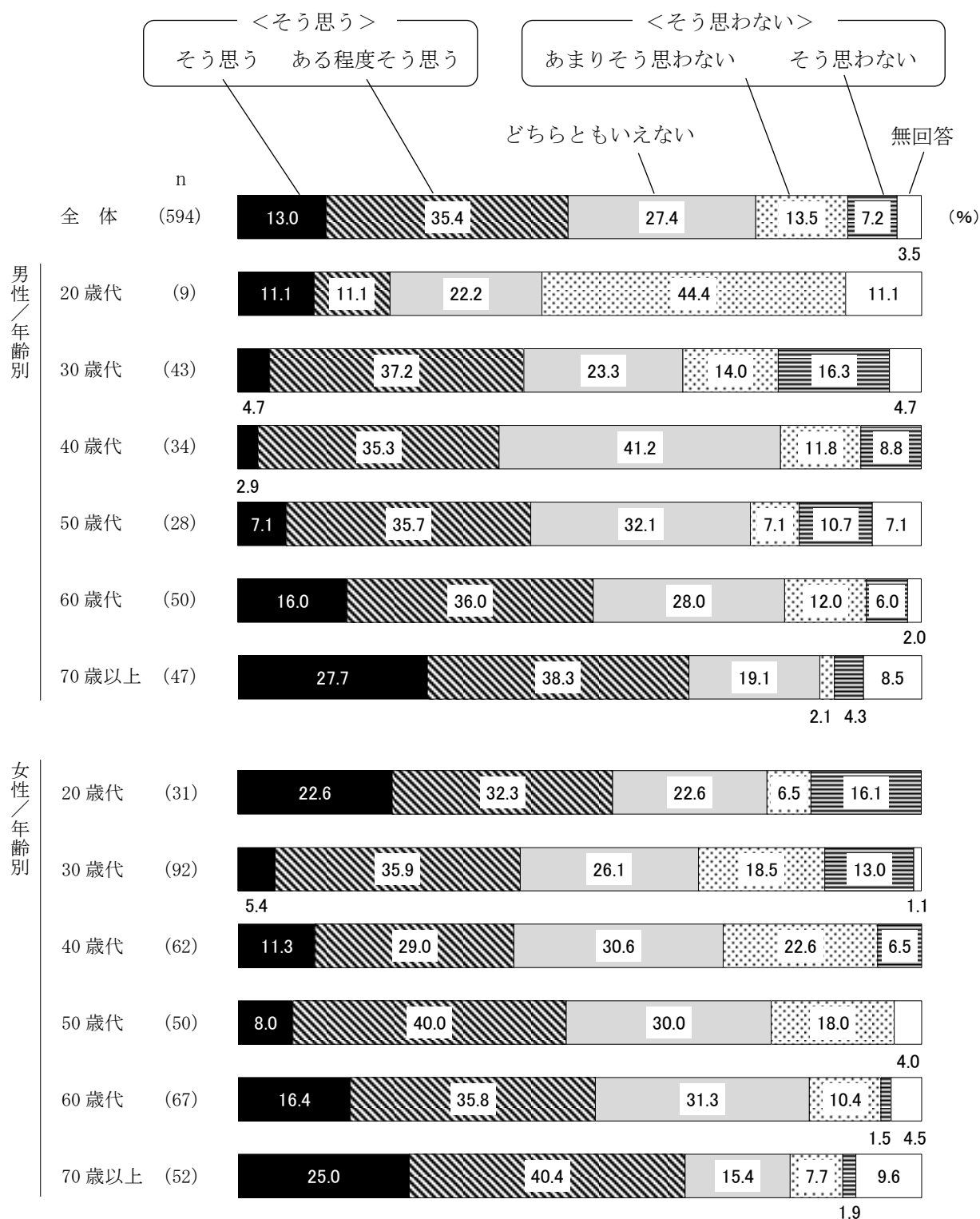
(第2回アンケート)

図表8-10 市職員による市民対応等についての感想 <各窓口が連携されており、たらい回しがなし> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が59.6%と最も多くなっている。次いで、60歳代の54.0%、40歳代の41.2%と続いている。女性ではおおむね50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が50.0%と最も多くなっている。次いで、20歳代の45.1%、40歳代の43.6%と続いている。(図表8-10)

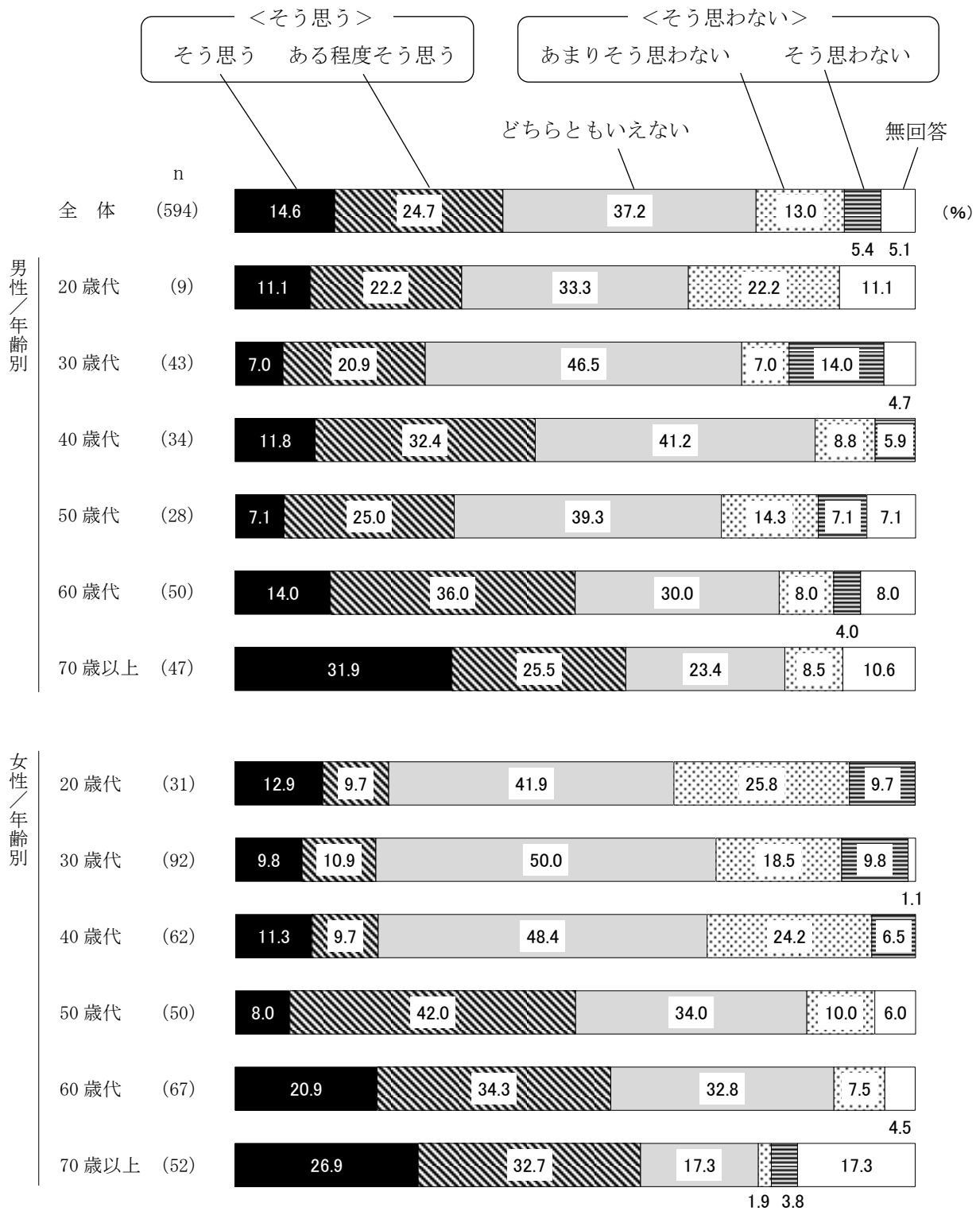
図表8-11 市職員による市民対応等についての感想 <親身になって対応等を考えてくれる> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が66.0%と最も多くなっている。次いで、60歳代の52.0%、50歳代の42.8%と続いている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が65.4%と最も多くなっている。次いで、20歳代の54.9%、60歳代の52.2%と続いている。(図表8-11)

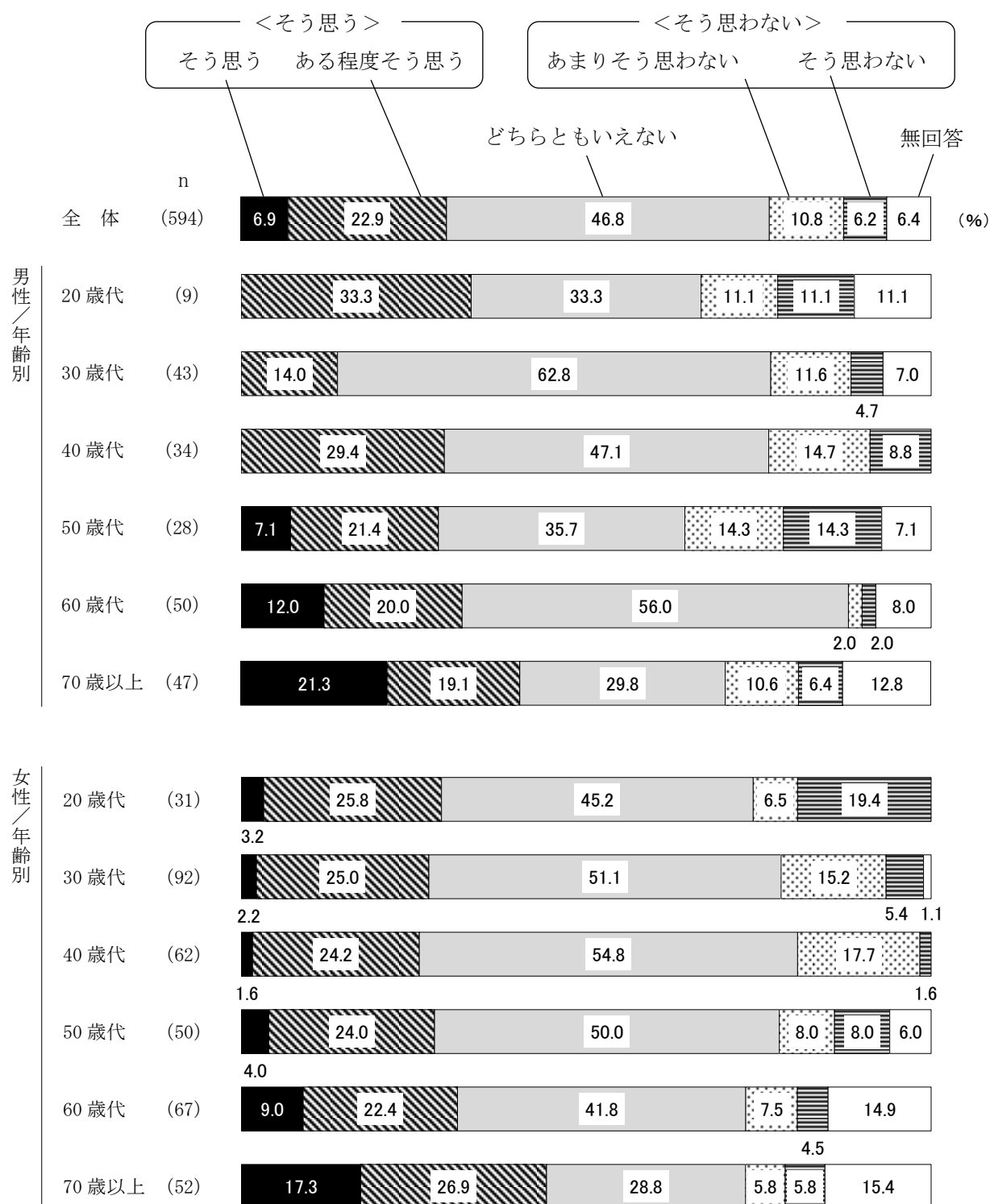
(第2回アンケート)

図表8-12 市職員による市民対応等についての感想 <最近(ここ2~3年)、対応が全体的に良くなった>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が57.4%と最も多くなっている。次いで、60歳代の50.0%、40歳代の44.2%と続いている。女性では50歳代から70歳以上で年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が59.6%と最も多くなっている。次いで、60歳代の55.2%、50歳代の50.0%と続いている。一方、20歳代から40歳代までが2割台前半から2割台半ばと少なくなっている。(図表8-12)

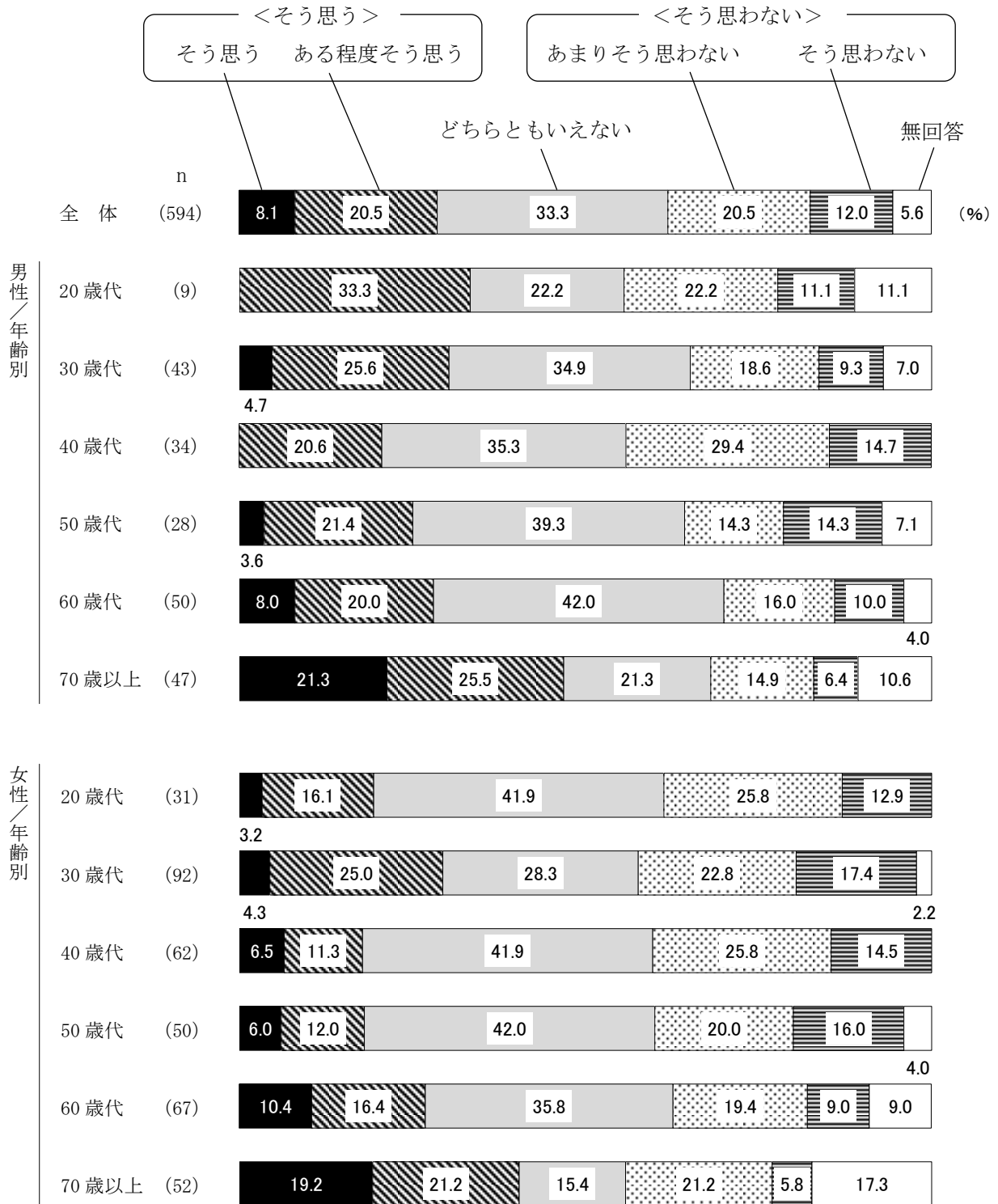
図表8-13 市職員による市民対応等についての感想 <同じことを誰に尋ねても、回答が変わらない> (性/年齢別)



性/年齢別では、＜そう思う＞は、男性ではおおむね30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が40.4%と最も多くなっている。次いで、20歳代の33.3%、60歳代の32.0%と続いている。女性では20歳代から50歳代までが2割台半ばから2割台後半となっており、70歳以上が44.2%と最も多くなっている。次いで、60歳代の31.4%、20歳代の29.0%と続いている。(図表8-13)

(第2回アンケート)

図表8-14 市職員による市民対応等についての感想 <関連のある(役に立ちそうな)情報・制度等を積極的に教えてくれる> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が46.8%と最も多くなっている。次いで、20歳代の33.3%、30歳代の30.3%と続いている。女性ではおおむね40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が40.4%と最も多くなっている。次いで、30歳代の29.3%、60歳代の26.8%と続いている。(図表8-14)

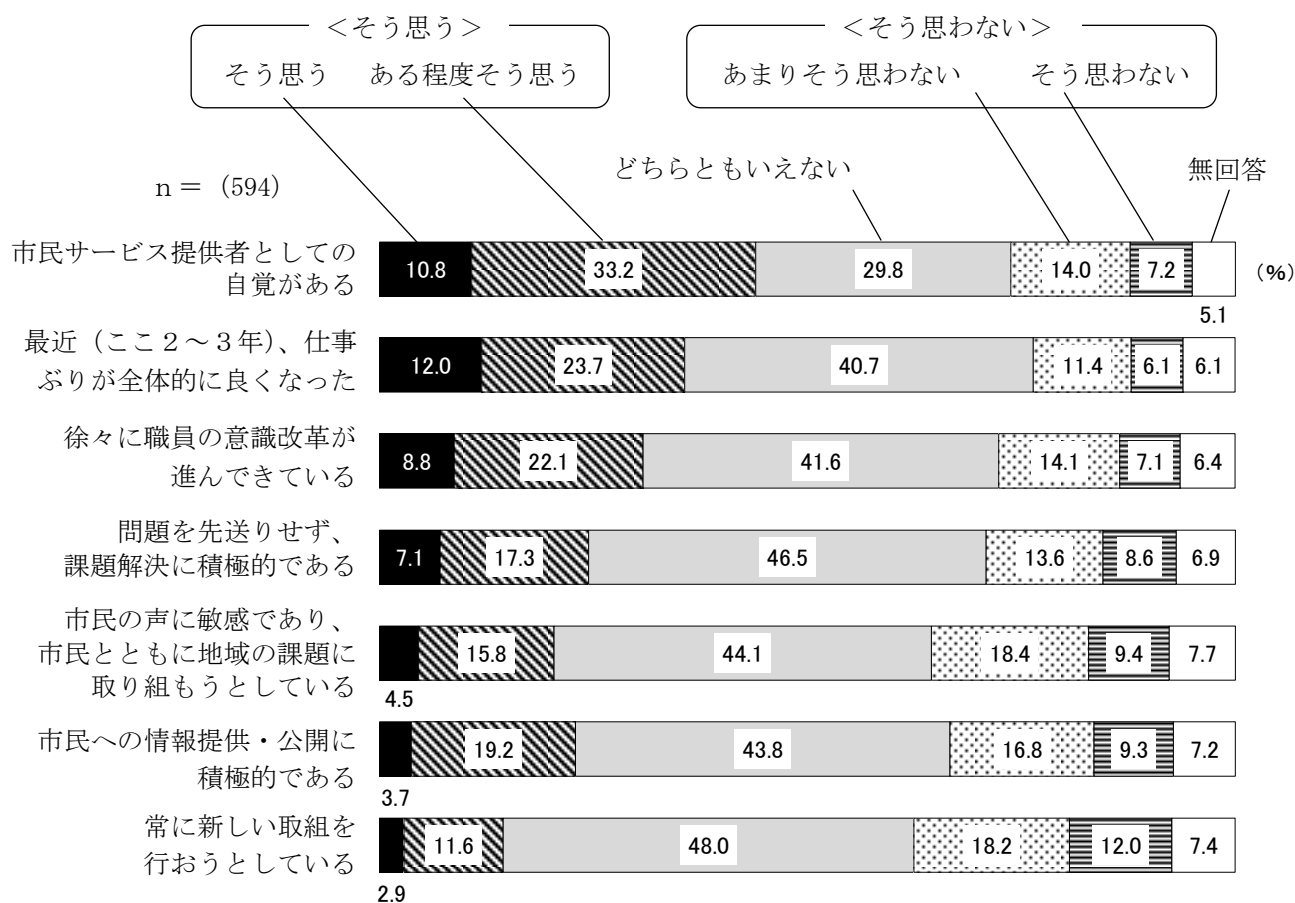
8-4 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象

◎<そう思う>は「市民サービス提供者としての自覚がある」で44.0%

(問32で「1 よく市職員と接する」「2 時々、市職員と接する」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問35 あなたは、市職員あるいは職員の仕事ぶりについて、どのような印象を持っていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

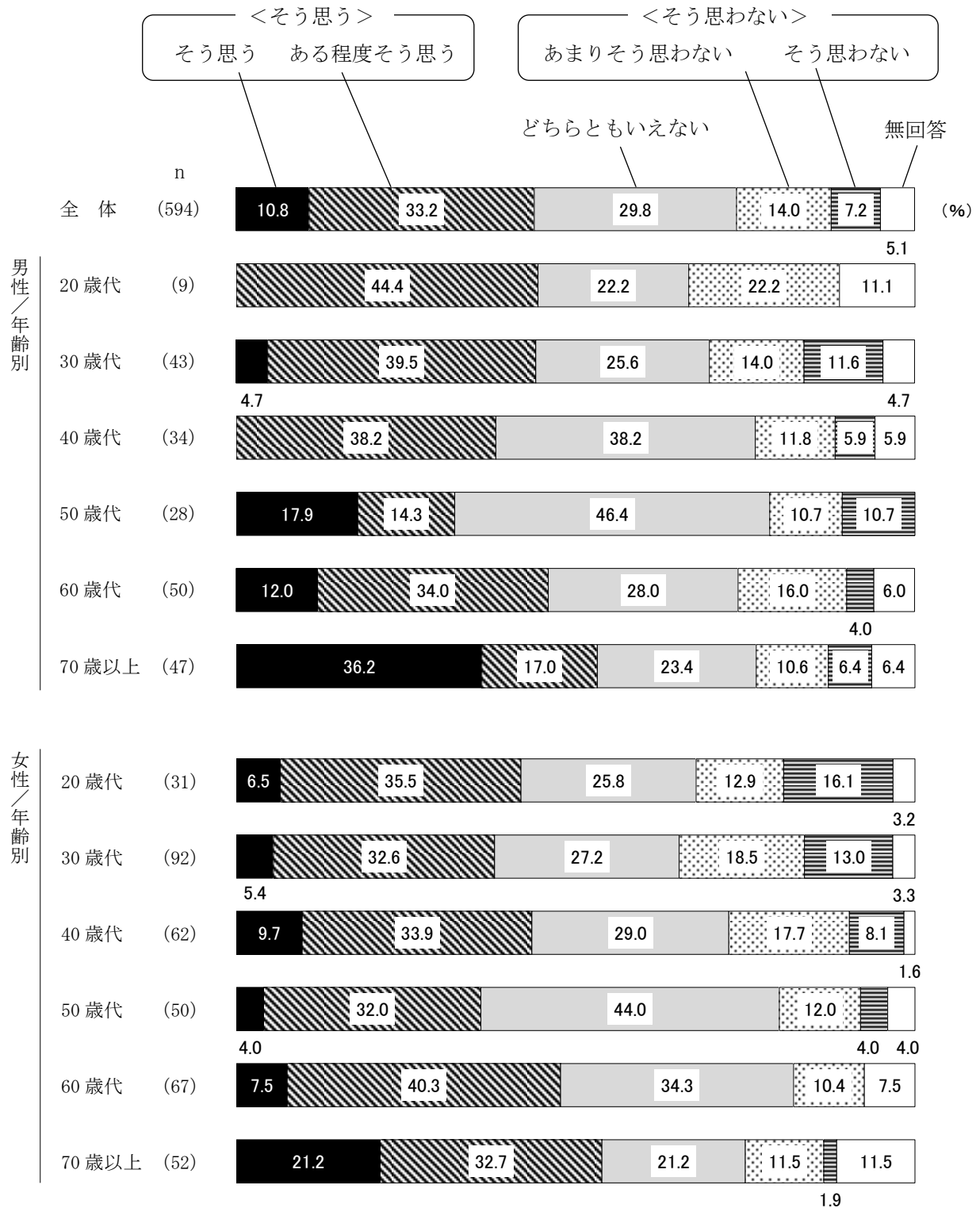
図表8-15 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象



市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象は、「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせた<そう思う>が多いのは、「市民サービス提供者としての自覚がある」が44.0%と最も多くなっている。次いで、「最近(ここ2~3年)、仕事ぶりが全体的に良くなった」が35.7%、「徐々に職員の意識改革が進んできている」が30.9%となっている。(図表8-15)

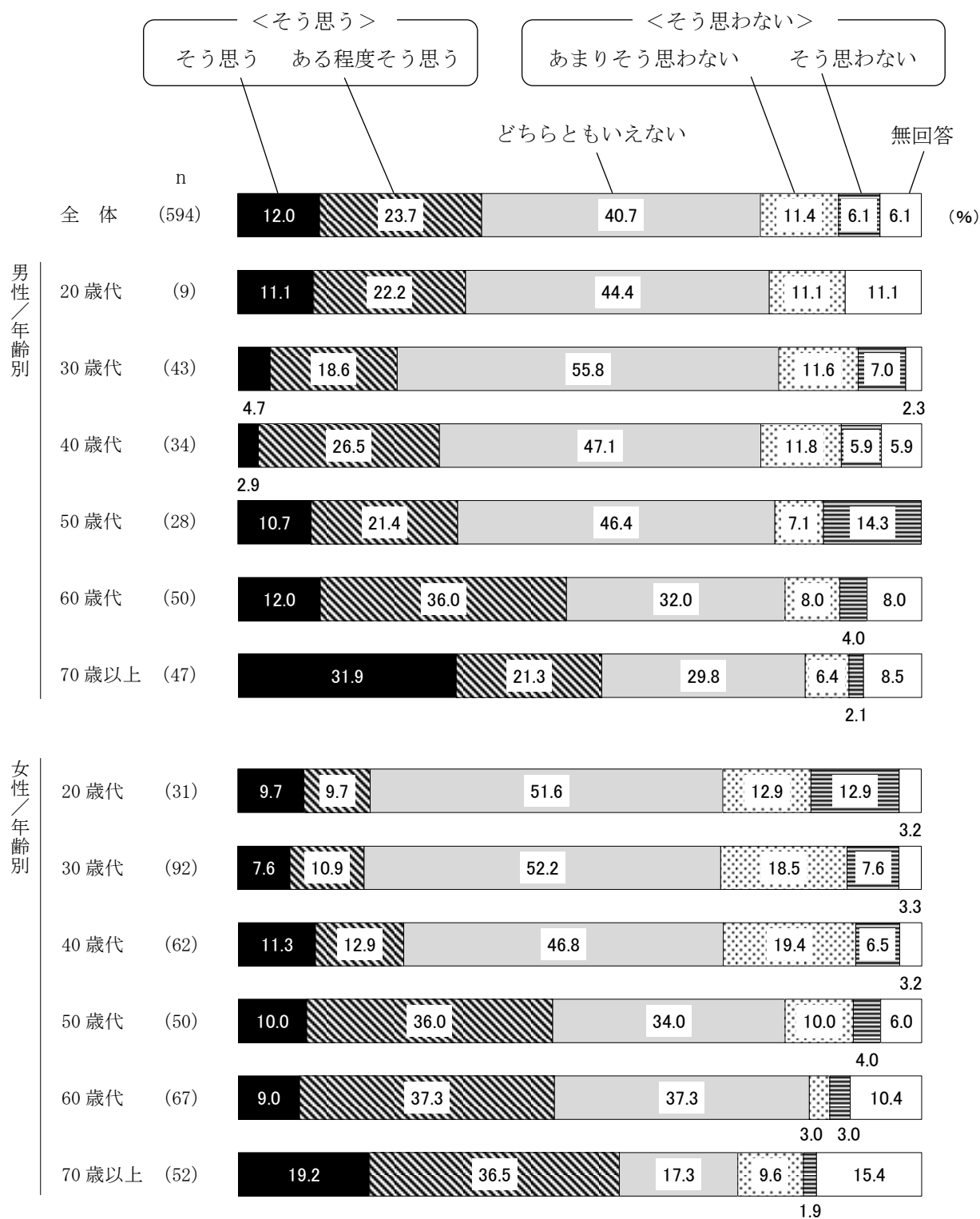
(第2回アンケート)

図表8-16 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<市民サービス提供者としての自覚がある> (性/年齢別)



性/年齢別では、＜そう思う＞は、男性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が53.2%と最も多くなっている。次いで、60歳代の46.0%、20歳代の44.4%と続いている。女性では50歳代を中心におおむね年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が53.9%と最も多くなっている。次いで、60歳代の47.8%、40歳代の43.6%と続いている。(図表8-16)

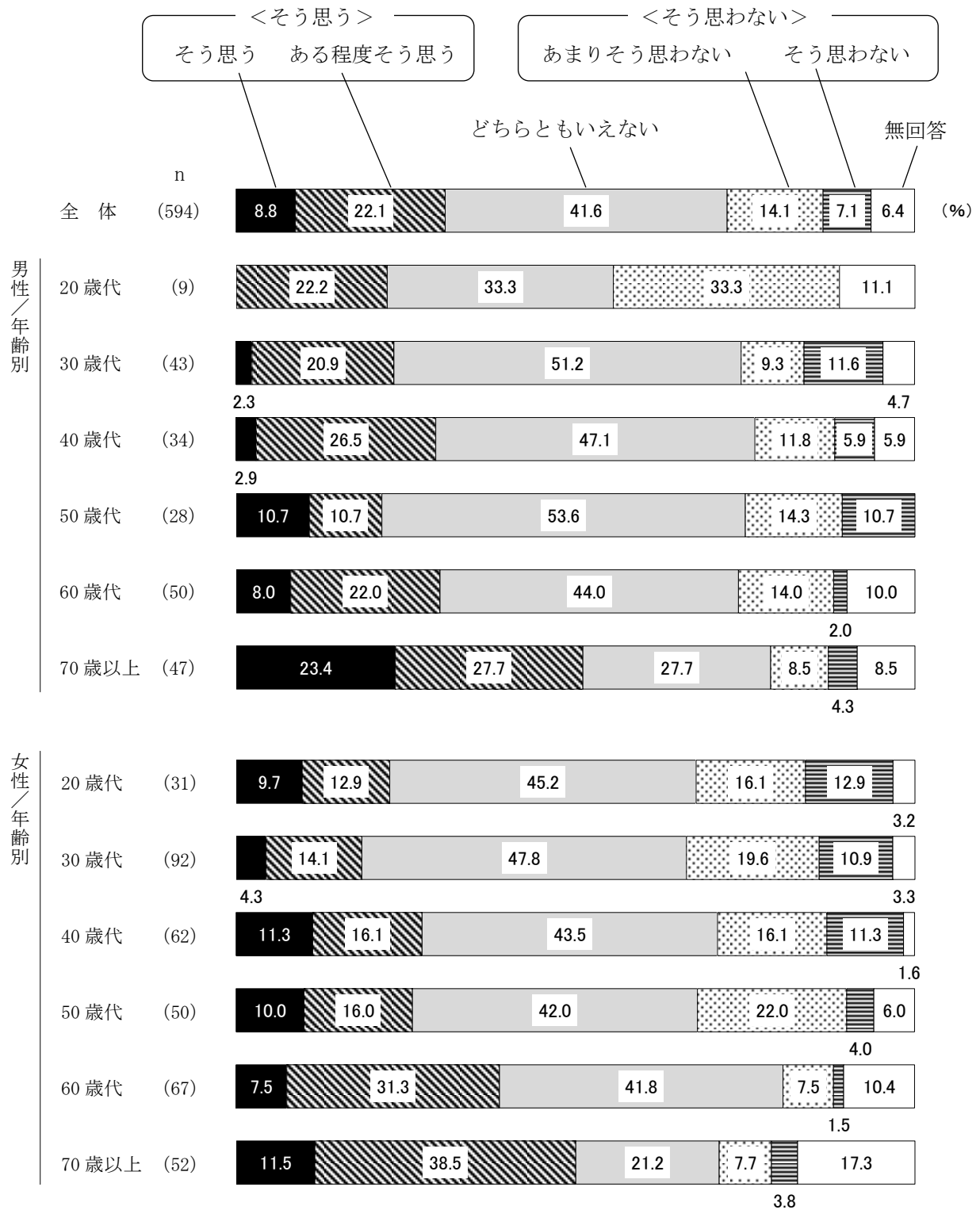
図表8-17 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<最近(ここ2~3年)、仕事ぶりが全体的に良くなった>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が53.2%と最も多くなっている。次いで、60歳代の48.0%、20歳代の33.3%と続いている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が55.7%と最も多くなっている。次いで、60歳代の46.3%、50歳代の46.0%と続いている。(図表8-17)

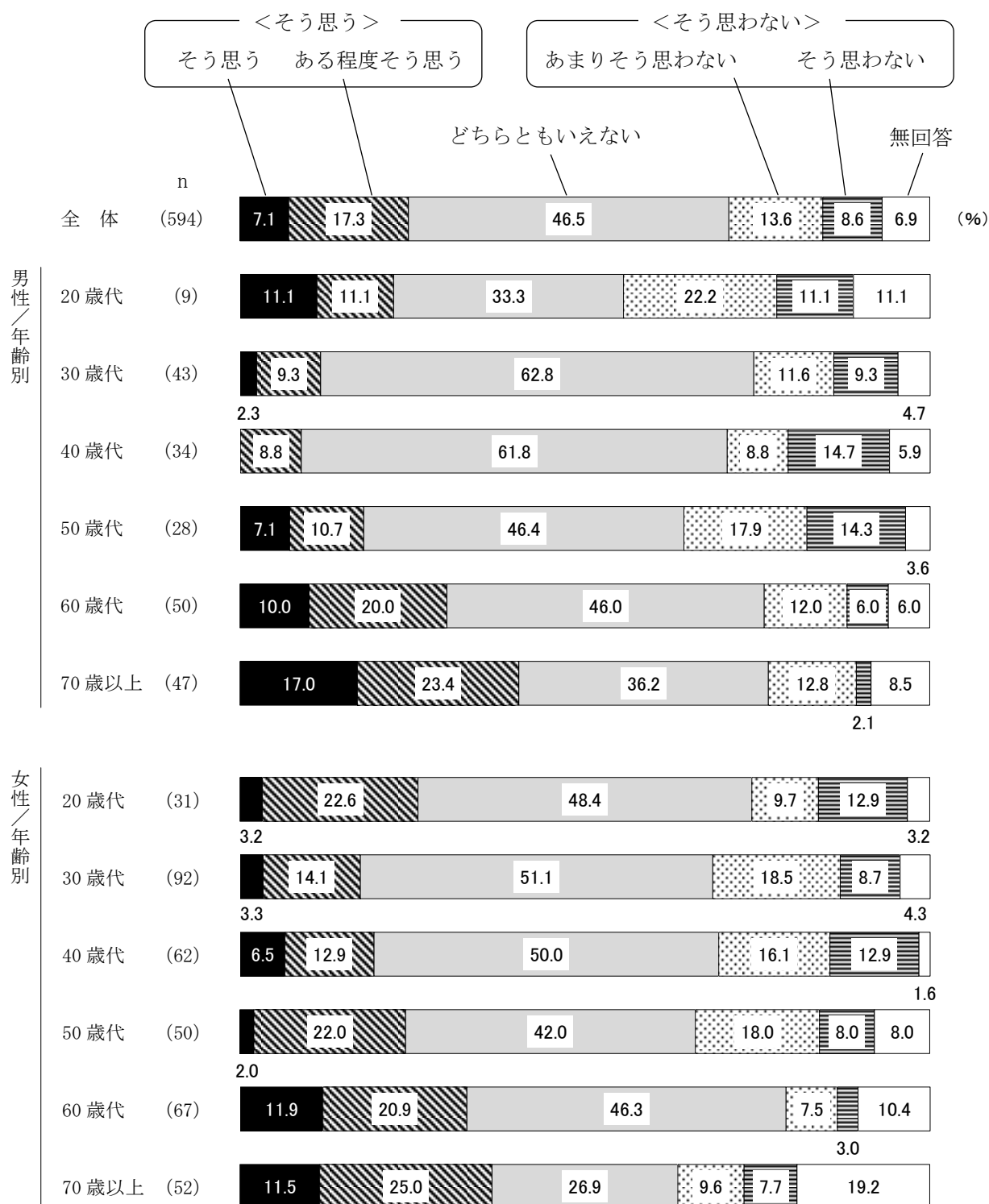
(第2回アンケート)

図表8-18 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<徐々に職員の意識改革が進んできている>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が51.1%と最も多くなっている。次いで、60歳代の30.0%、40歳代の29.4%と続いている。女性では30歳代から70歳以上でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が50.0%と最も多くなっている。次いで、60歳代の38.8%、40歳代の27.4%と続いている。(図表8-18)

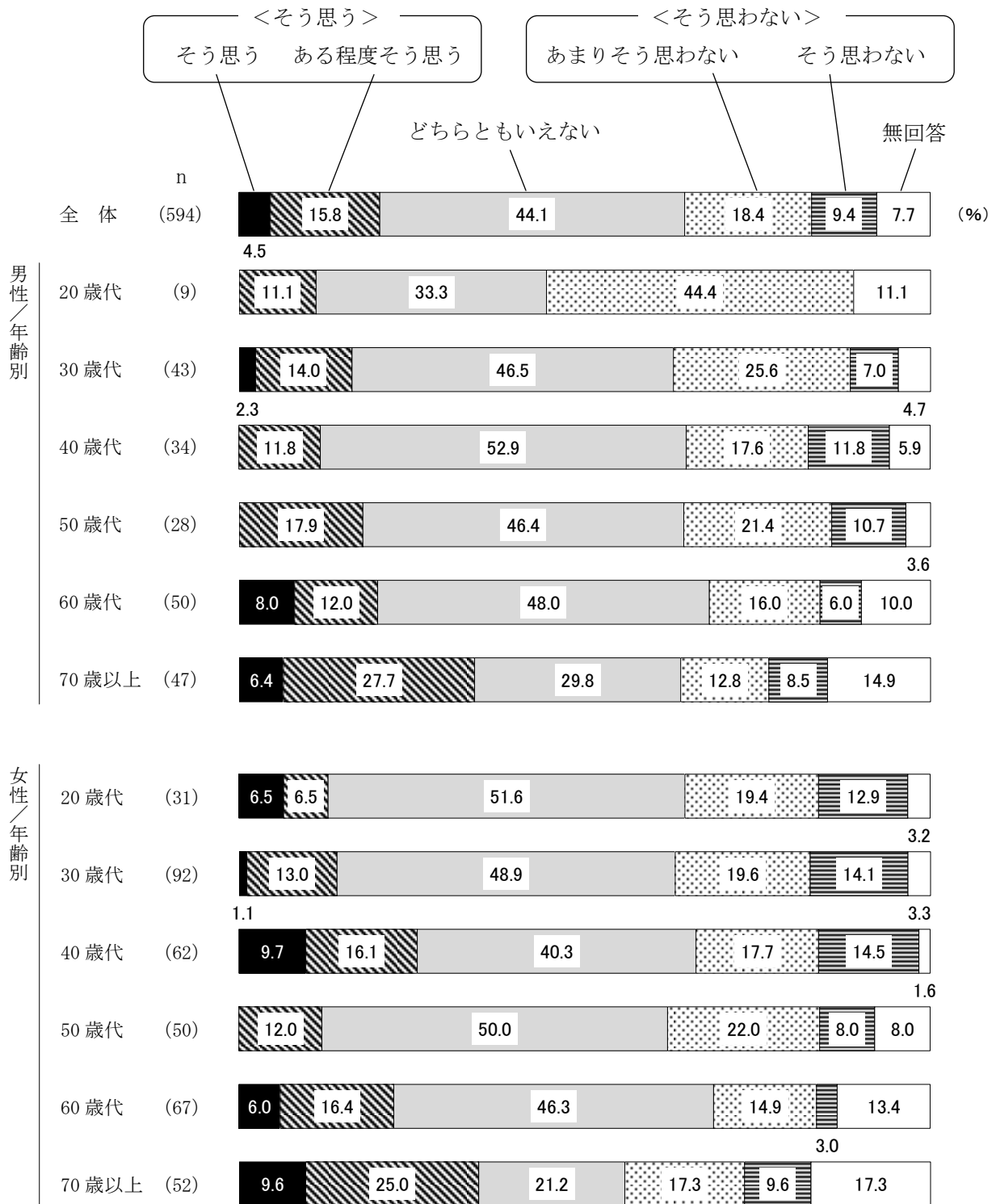
図表8-19 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<問題を先送りせず、課題解決に積極的である>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が40.4%と最も多くなっている。次いで、60歳代の30.0%、20歳代の22.2%と続いている。女性では30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が36.5%と最も多くなっている。次いで、60歳代の32.8%、20歳代の25.8%と続いている。(図表8-19)

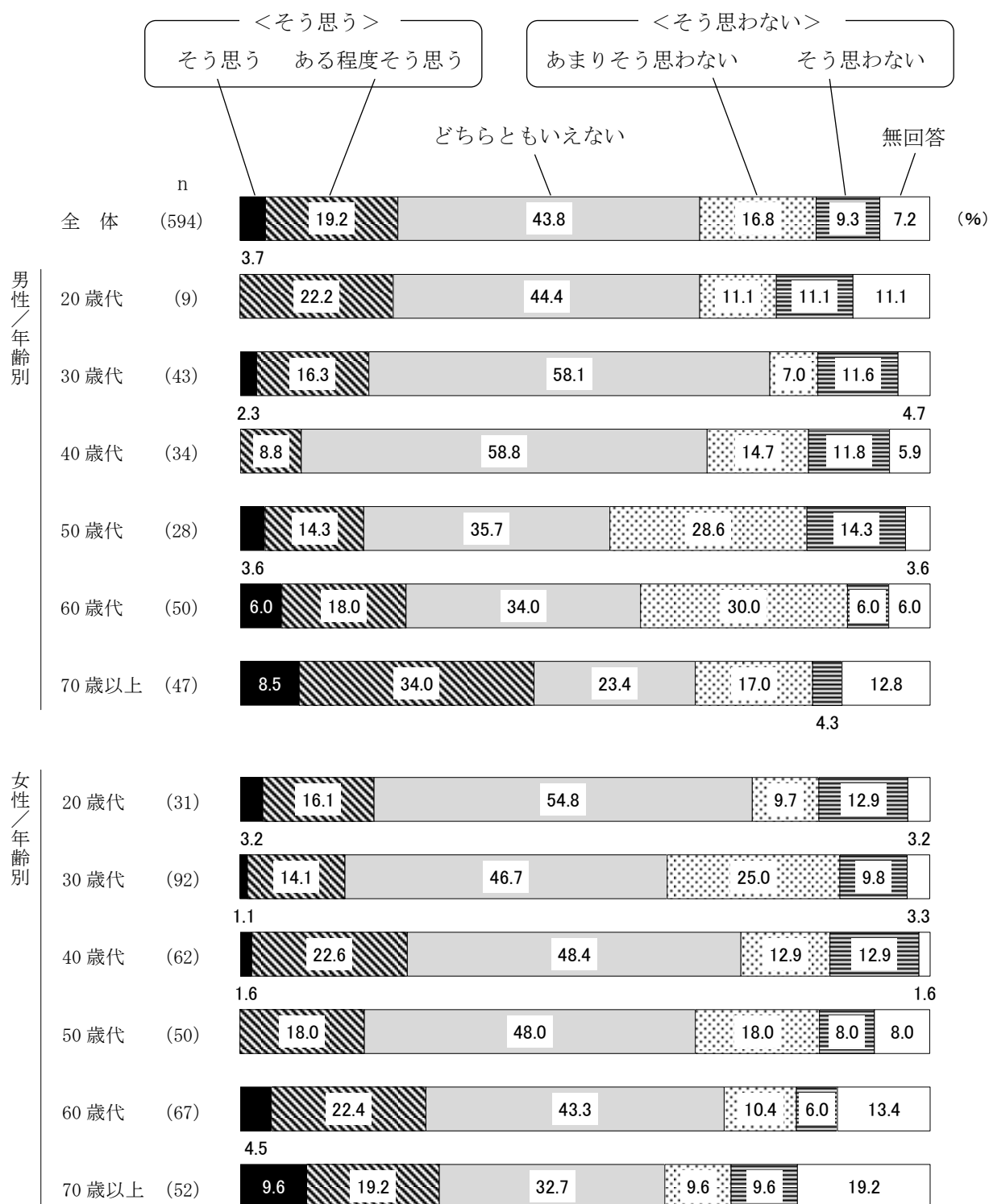
(第2回アンケート)

図表8-20 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<市民の声に敏感であり、市民とともに地域の課題に取り組もうとしている> (性/年齢別)



性/年齢別では、＜そう思う＞は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が34.1%と最も多くなっている。次いで、60歳代の20.0%、50歳代の17.9%と続いている。女性では20歳代、30歳代、50歳代で1割前半から1割台半ばとなっており、70歳以上が34.6%と最も多くなっている。次いで、40歳代の25.8%、60歳代の22.4%と続いている。(図表8-20)

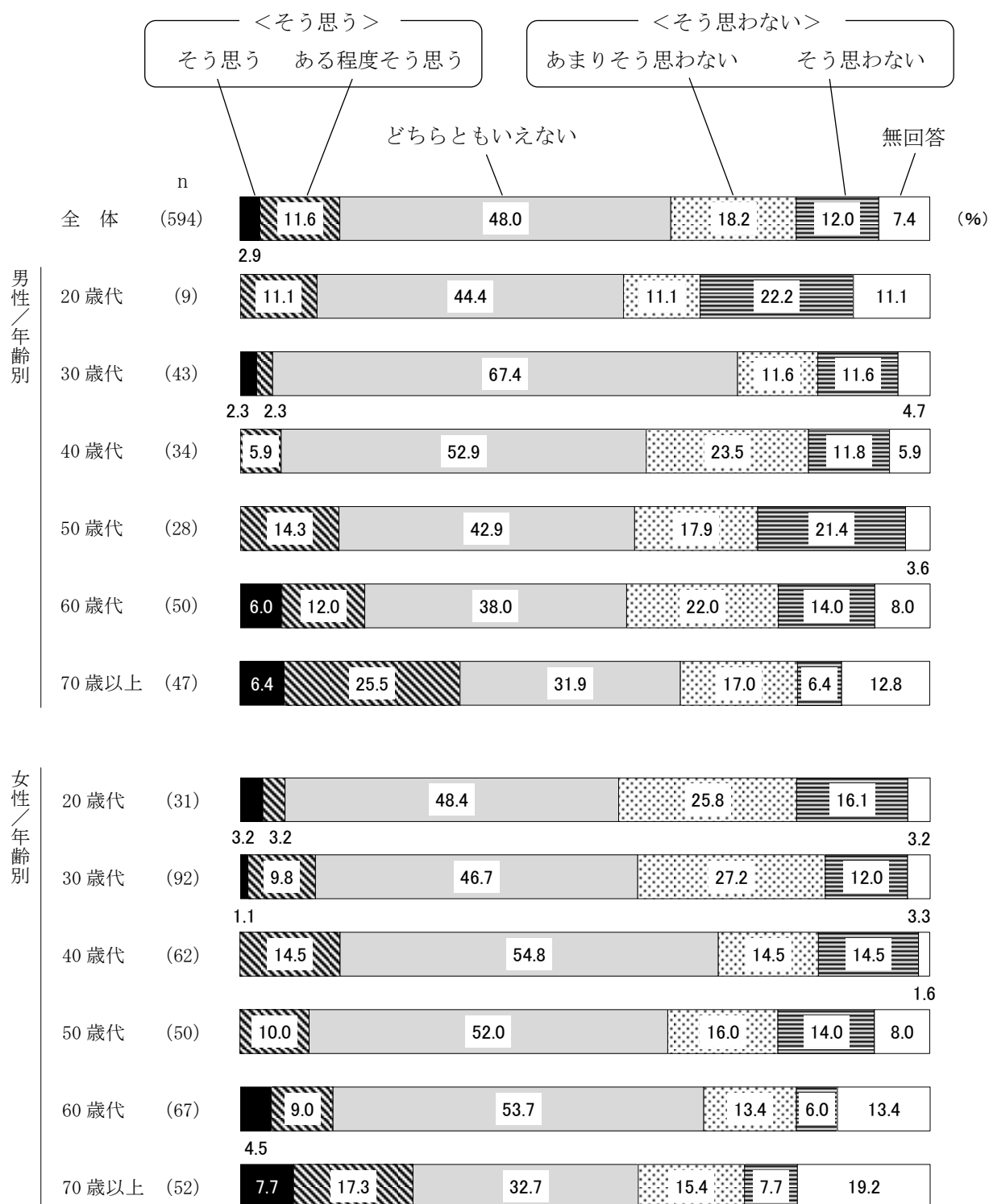
図表8-21 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<市民への情報提供・公開に積極的である>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が42.5%と最も多くなっている。次いで、60歳代の24.0%、20歳代の22.2%と続いている。女性では30歳代を中心におおむね年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が28.8%と最も多くなっている。次いで、60歳代の26.9%、40歳代の24.2%と続いている。(図表8-21)

(第2回アンケート)

図表8-22 市職員あるいは職員の仕事ぶりについての印象<常に新しい取組を行おうとしている>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が31.9%と最も多くなっている。次いで、60歳代の18.0%、50歳代の14.3%と続いている。女性では20歳代から60歳代までが5分台から1割台半ばとなっており、70歳以上が25.0%と最も多くなっている。次いで、40歳代の14.5%、60歳代の13.5%と続いている。(図表8-22)

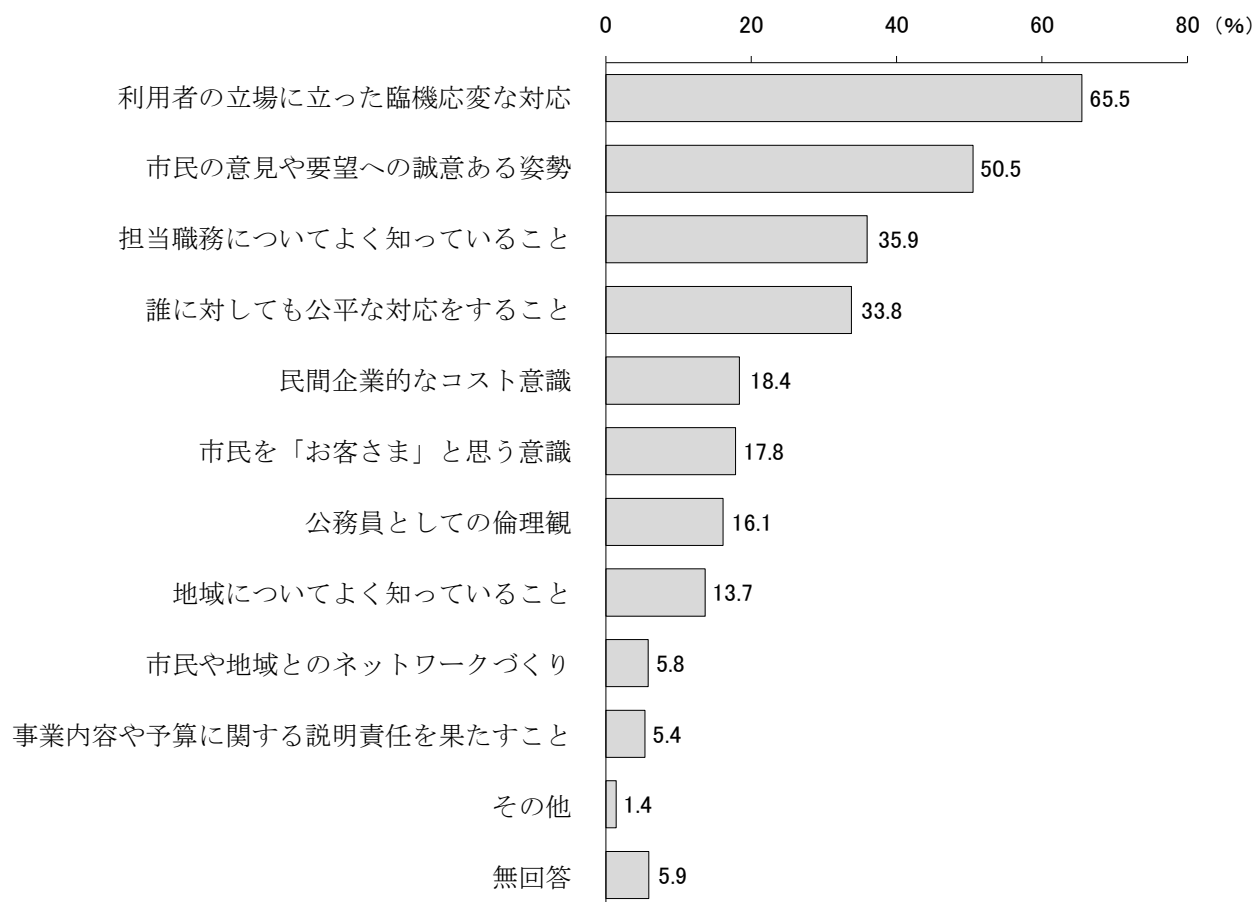
8-5 市職員に求めるもの

◎「利用者の立場に立った臨機応変な対応」が65.5%

問36 あなたは、市職員に求めるものとして、特に重要であると思うものは何ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

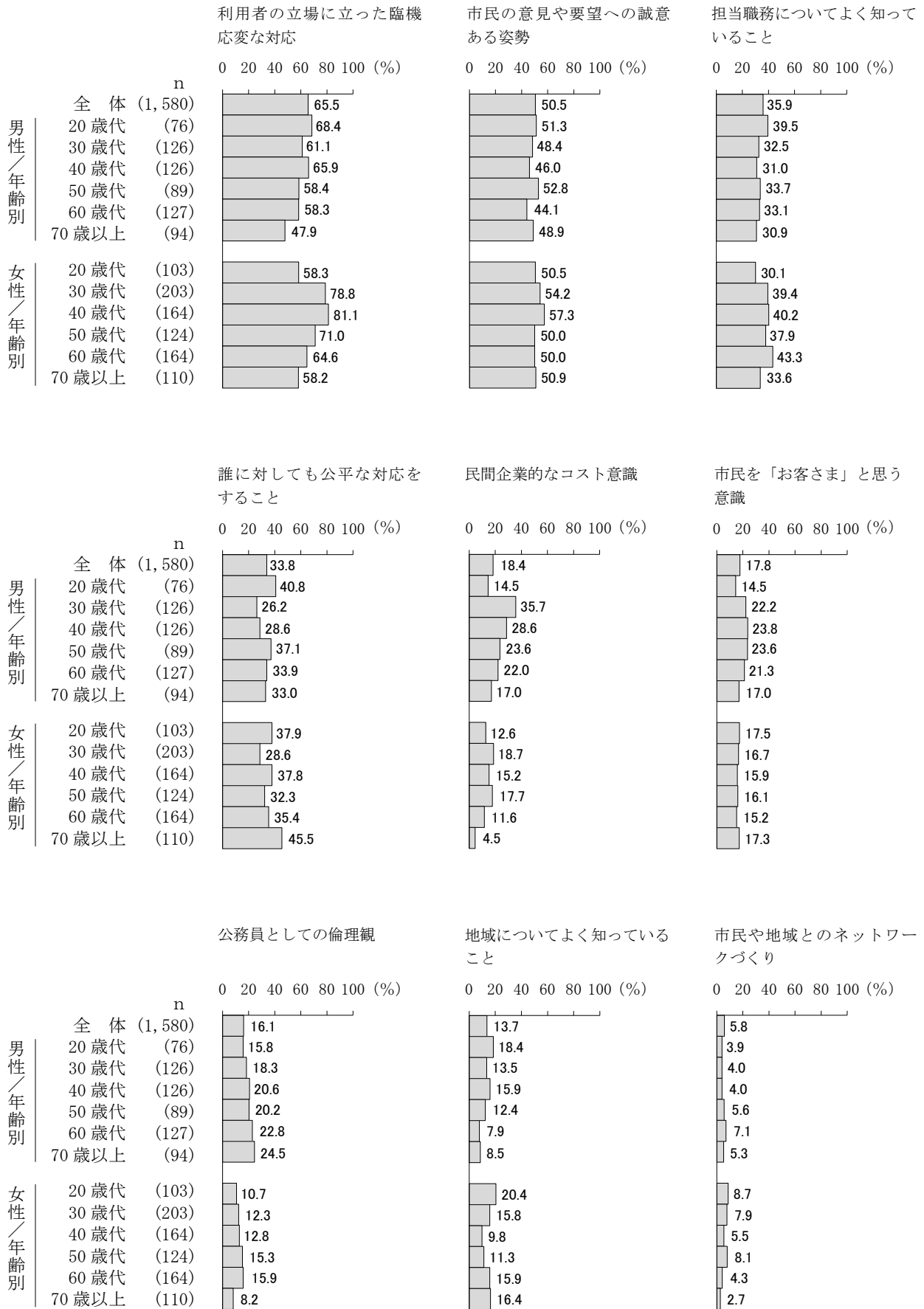
図表8-23 市職員に求めるもの

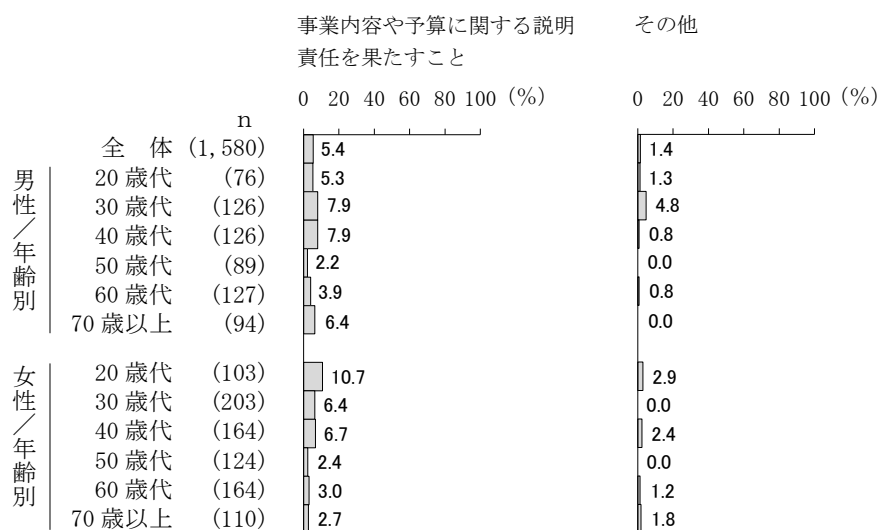
(複数回答) n = (1,580)



市職員に求めるものは、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」が65.5%と最も多くなっている。次いで、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」が50.5%、「担当職務についてよく知っていること」が35.9%となっている。(図表8-23)

図表8-24 市職員に求めるもの(性/年齢別)





性別／年齢別では、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっており、20歳代が68.4%と最も多くなっている。次いで、40歳代の65.9%、30歳代の61.1%と続いている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっており、40歳代が81.1%と最も多くなっている。次いで、30歳代の78.8%、50歳代の71.0%と続いている。「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」は、男性の全年代を通して4割台半ばから5割台半ばとなっており、女性の全年代を通して5割台前半から5割台半ばとなっている。「誰に対しても公平な対応をすること」は、男性では、20歳代が40.8%と最も多くなっている。次いで、50歳代の37.1%、60歳代の33.9%と続いている。女性では、70歳以上が45.5%と最も多くなっている。次いで、20歳代の37.9%、40歳代の37.8%と続いている。(図表8-24)

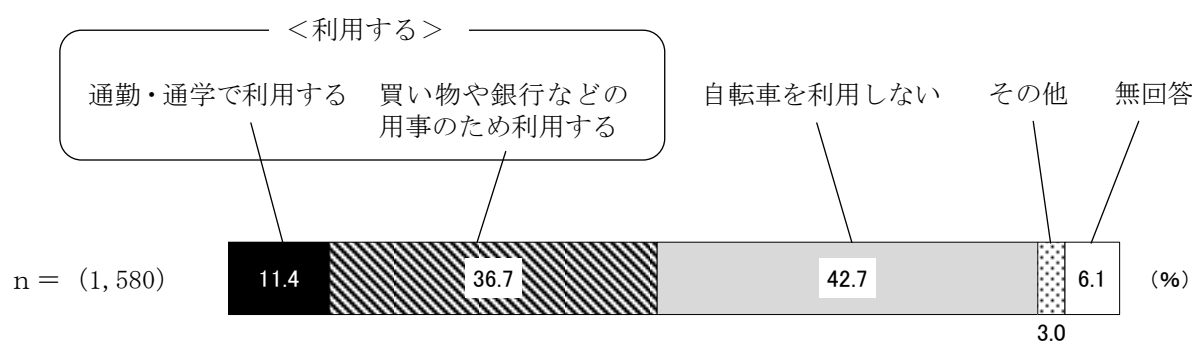
9 自転車対策について

9-1 自転車の利用状況・目的

◎〈利用する〉が48.1%

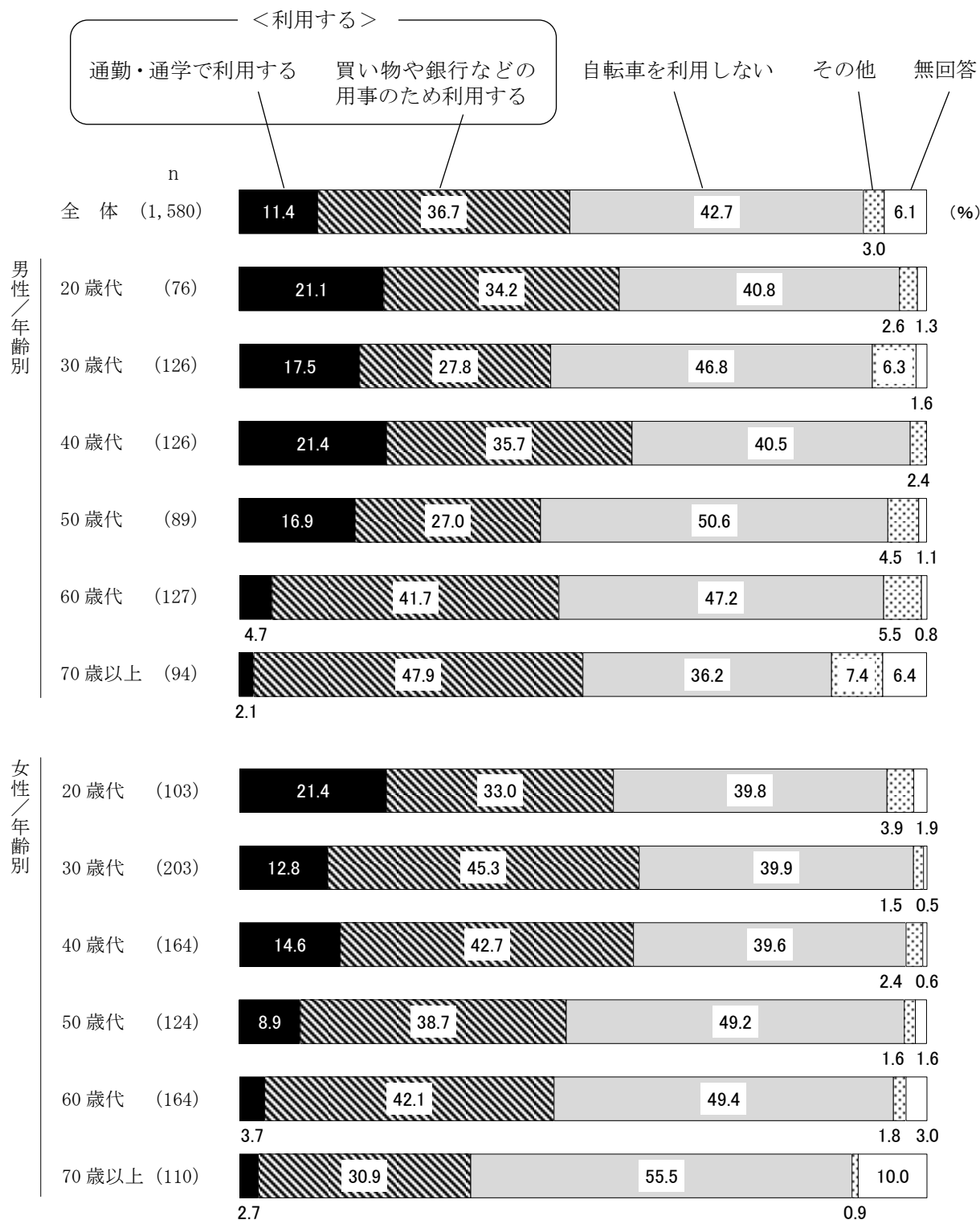
問37 あなたは普段、自転車を利用しますか。また、利用する場合、主な目的は何ですか。
(○は1つだけ)

図表9-1 自転車の利用状況・目的



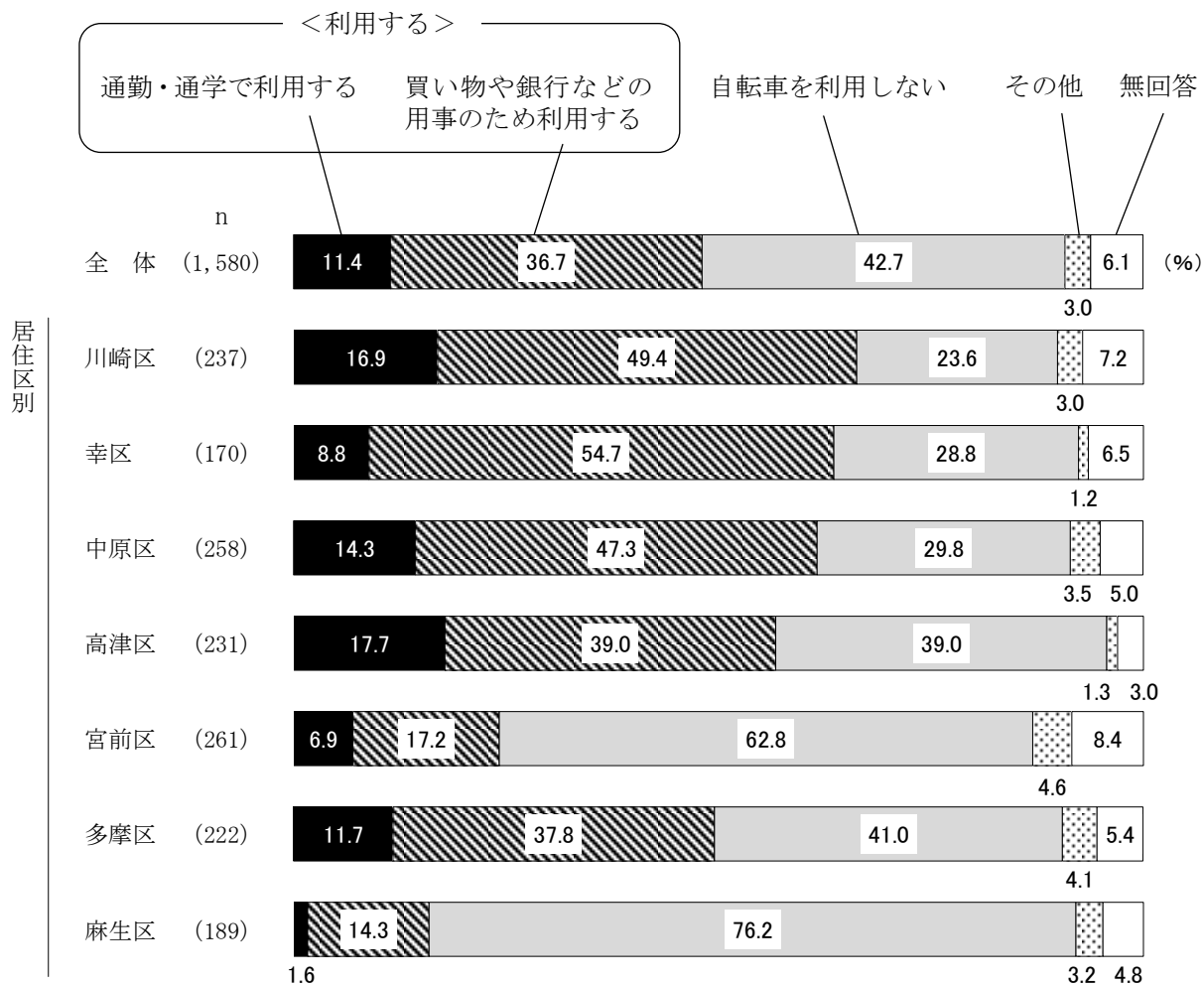
自転車の利用状況・目的は、「通勤・通学で利用する」の11.4%と「買い物や銀行などの用事のため利用する」の36.7%をあわせて〈利用する〉が48.1%となっている。一方、「自転車を利用しない」は、42.7%となっている。(図表9-1)

図表9-2 自転車の利用状況・目的(性/年齢別)



性/年齢別では、＜利用する＞は、男性では、4割台半ばから5割台半ばとなっており、40歳代が57.1%と最も多くなっている。次いで、20歳代の55.3%、70歳以上の50.0%と続いている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっており、30歳代が58.1%と最も多くなっている。次いで、40歳代の57.3%、20歳代の54.4%と続いている。(図表9-2)

図表9-3 自転車の利用状況・目的(居住区別)



居住区別では、<利用する>は、川崎区が66.3%と最も多くなっている。次いで、幸区の63.5%、中原区の61.6%と続いている。一方、「自転車を利用しない」は、麻生区が76.2%と最も多くなっている。次いで、宮前区の62.8%、多摩区の41.0%と続いている。(図表9-3)

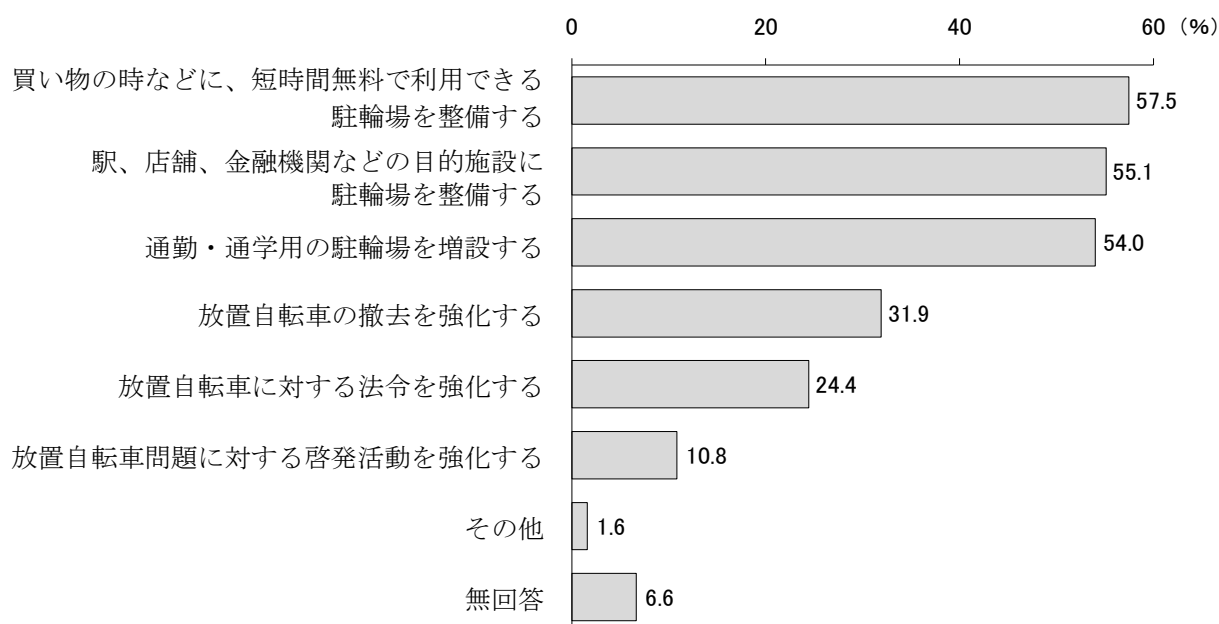
9-2 重要だと思う放置自転車対策

◎「買い物の時などに、短時間無料で利用できる駐輪場を整備する」が57.5%

問38 あなたが重要だと思う放置自転車対策は次のうちどれですか。(あてはまるもの3つまでに○)

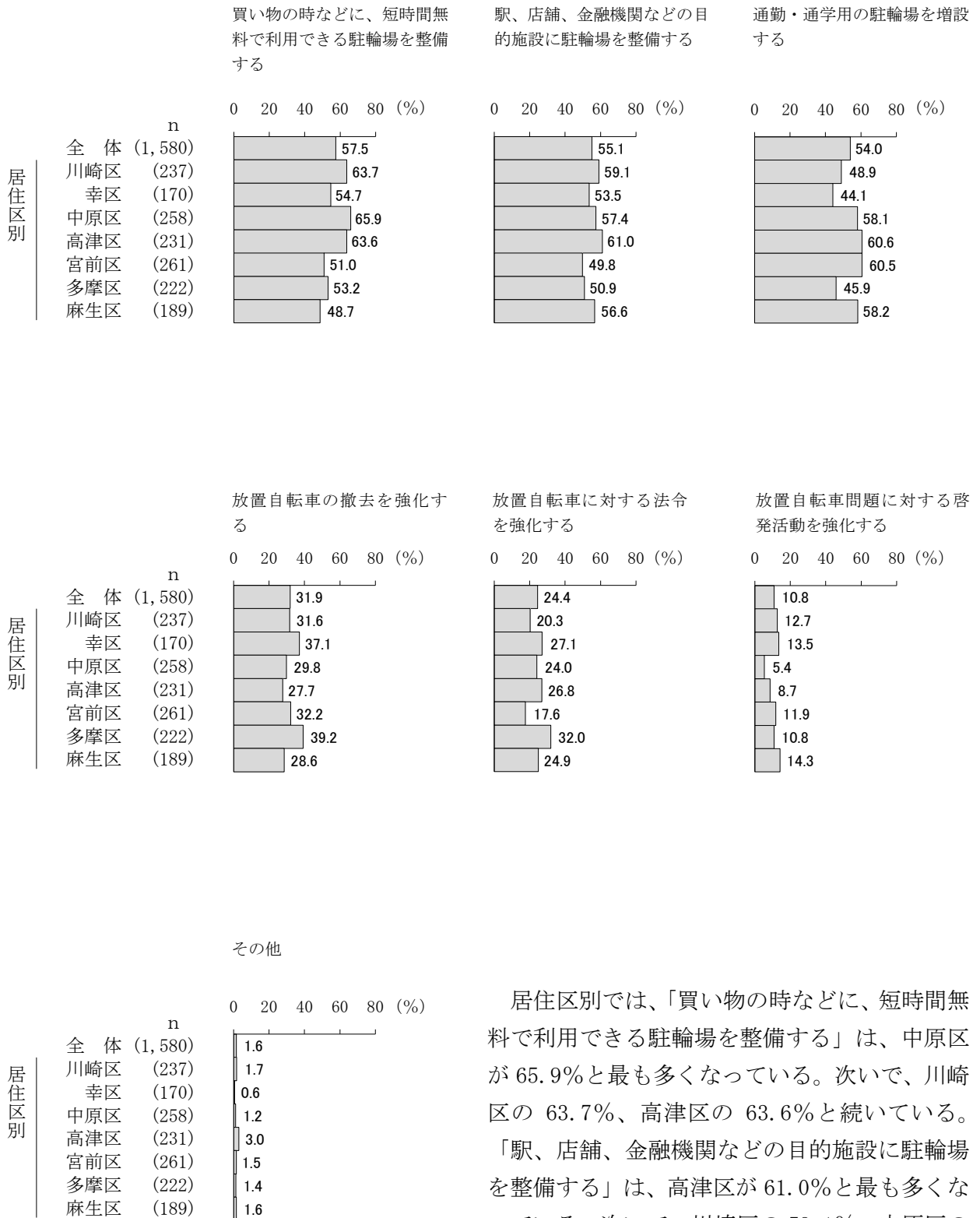
図表9-4 重要だと思う放置自転車対策

(複数回答) n = (1,580)



重要だと思う放置自転車対策は、「買い物の時などに、短時間無料で利用できる駐輪場を整備する」が57.5%と最も多くなっている。次いで、「駅、店舗、金融機関などの目的施設に駐輪場を整備する」が55.1%、「通勤・通学用の駐輪場を増設する」が54.0%となっている。(図表9-4)

図表9-5 重要だと思う放置自転車対策（居住区別）



居住区別では、「買い物の時などに、短時間無料で利用できる駐輪場を整備する」は、中原区が65.9%と最も多くなっている。次いで、川崎区の63.7%、高津区の63.6%と続いている。「駅、店舗、金融機関などの目的施設に駐輪場を整備する」は、高津区が61.0%と最も多くなっている。次いで、川崎区の59.1%、中原区の57.4%と続いている。「放置自転車の撤去を強化する」は、多摩区が39.2%と最も多くなっている。次いで、幸区の37.1%、宮前区の32.2%と続いている。（図表9-5）

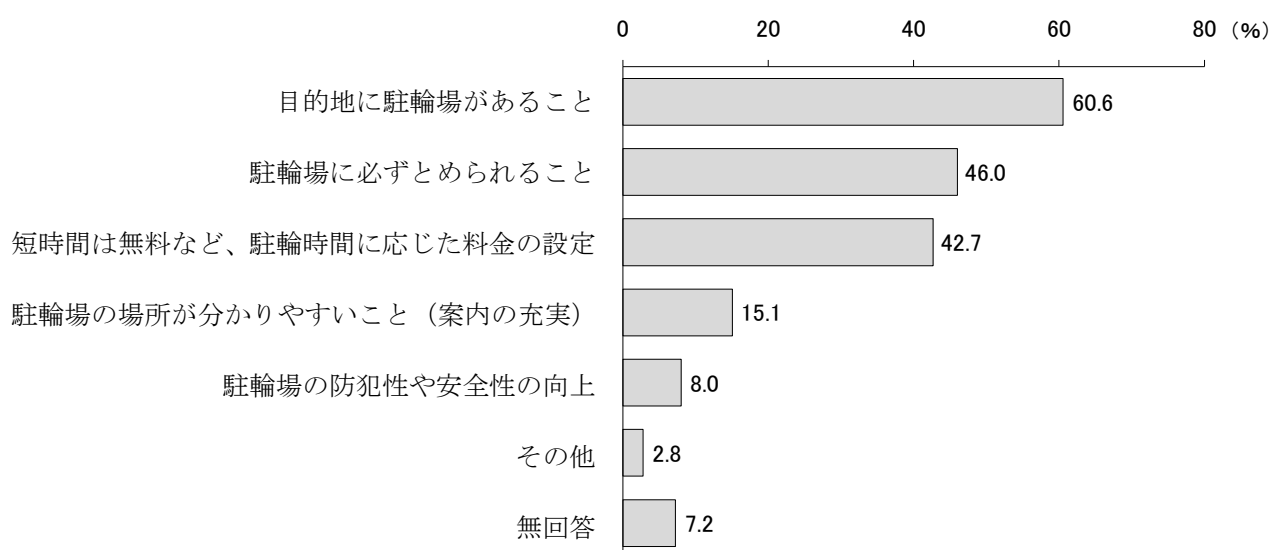
9-3 路上放置の減少・駐輪場利用の促進のための方策

◎「目的地に駐輪場があること」が60.6%

問 39 路上の放置を減らし、駐輪場の利用を促進するために重要と考えることは次のうちどれですか。(〇は2つ)

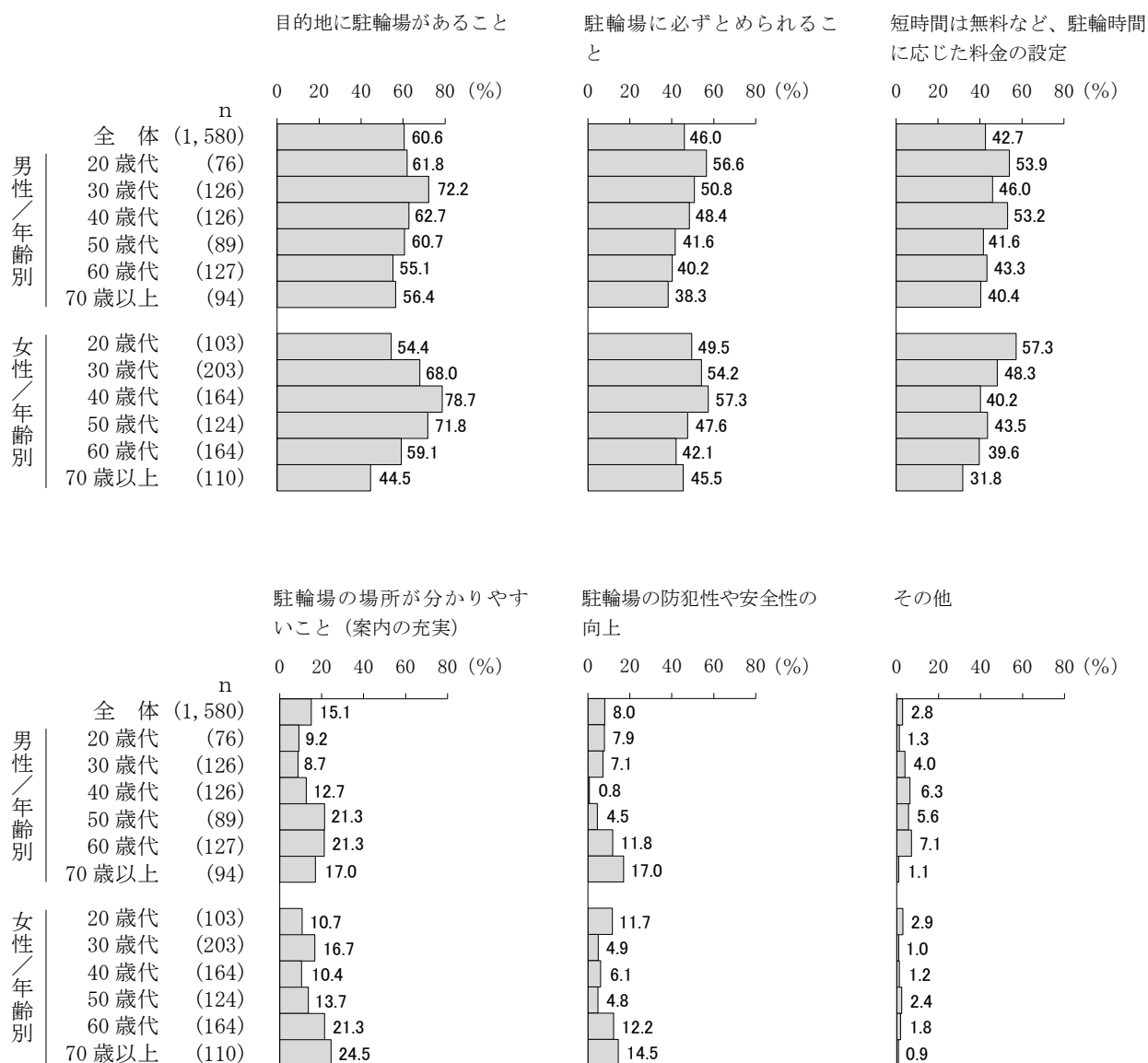
図表 9-6 路上放置の減少・駐輪場利用の促進のための方策

(複数回答) n = (1,580)



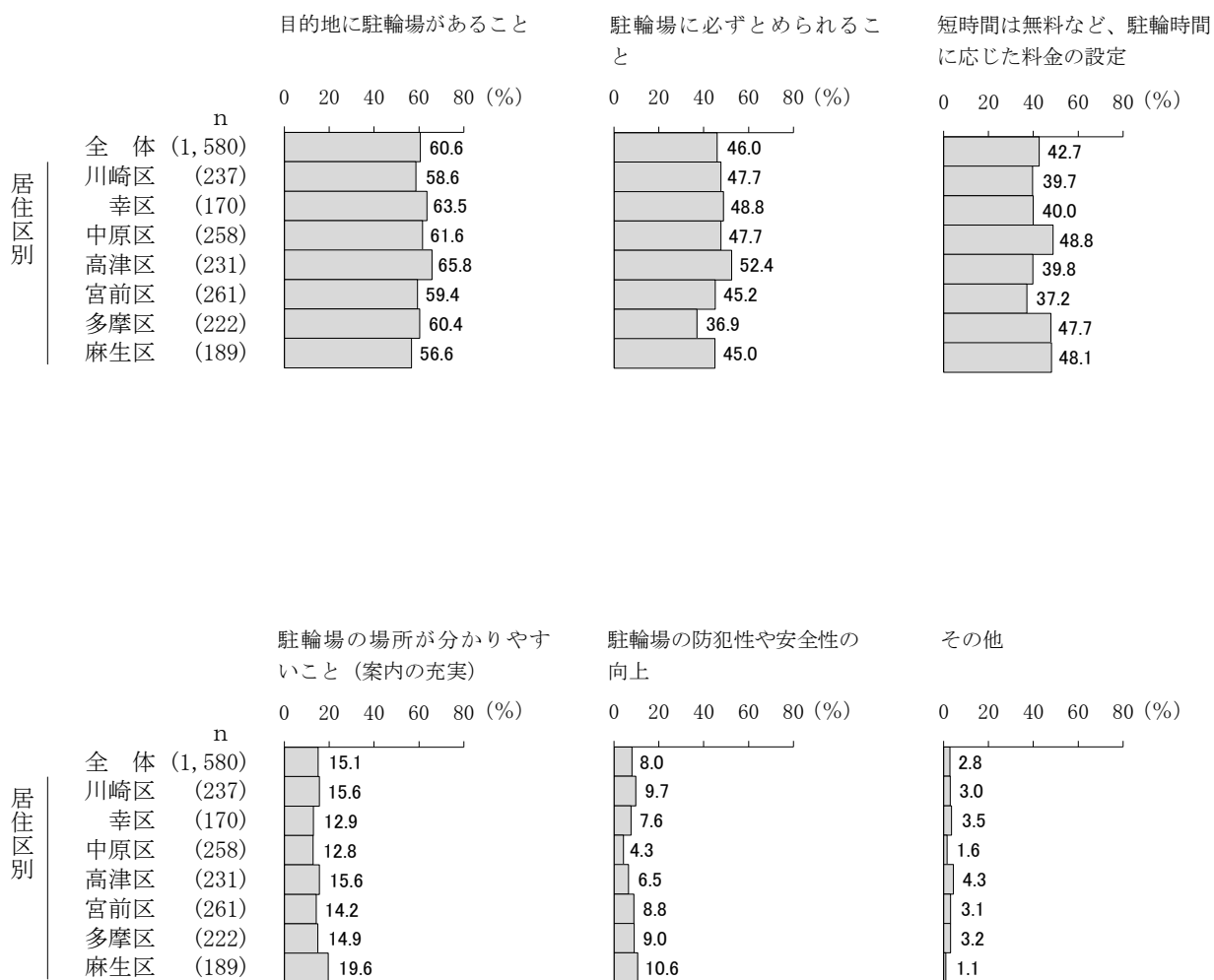
路上放置の減少・駐輪場利用の促進のための方策は、「目的地に駐輪場があること」が60.6%と最も多くなっている。次いで、「駐輪場に必ずとめられること」が46.0%、「短時間は無料など、駐輪時間に応じた料金の設定」が42.7%となっている。(図表9-6)

図表9-7 路上放置の減少・駐輪場利用の促進のための方策（性／年齢別）



性／年齢別では、「目的地に駐輪場があること」は、男性では30歳代から70歳以上でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっており、30歳代が72.2%と最も多くなっている。次いで、40歳代の62.7%、20歳代の61.8%と続いている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が少なくなる傾向となっており、40歳代が78.7%と最も多くなっている。次いで、50歳代の71.8%、30歳代の68.0%と続いている。「駐輪場に必ずとめられること」は、男性では年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっており、20歳代が56.6%と最も多くなっている。次いで、30歳代の50.8%、40歳代の48.4%と続いている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれおおむね割合が少なくなる傾向となっており、40歳代が57.3%と最も多くなっている。次いで、30歳代の54.2%、20歳代の49.5%と続いている。（図表9-7）

図表9-8 路上放置の減少・駐輪場利用の促進のための方策（居住区別）



居住区別では、「目的地に駐輪場があること」は、全ての居住区で5割台半ばから6割台半ばとなっている。「駐輪場に必ずとめられること」は、高津区が52.4%と最も多くなっている。次いで、幸区の48.8%、川崎区、中原区の47.7%と続いている。「短時間は無料など、駐輪時間に応じた料金の設定」は、中原区が48.8%と最も多くなっている。次いで、麻生区の48.1%、多摩区の47.7%と続いている。(図表9-8)

(第2回アンケート)